

應 費															
滿年賜金	勉勵賜金	大臣官舎手當	交際手當	被服料	備給	諸手當	諸手數料	賞與	贈與	死傷手當	追賞祭資	備外國人給與	雜費	備用品	消耗品
本官										同上					
勉勵超業ノ賜金、事務勉勵ノ手當 大臣ハ賜ハル分 現物代料ノ別ナク給與スルモノ 門番(等外)名義ナキモノ給仕、小使給、人足 並馬車人力車、給備料諸職工賃、評價人給料等 機譯並寫字料等枚數當リヲ以テ給スルモノ 其他諸手當 爲替手數料、新聞紙廣告料、諸品入札、拂手數料 等 功勞賞與等 外國人ハ報酬ノ類 但備外國人ハ與フル分ハ備外國人給與ニ屬ス 公事ノ爲メ死傷スルモノハ給スル分 非役舊官員ハ賜ハル分共 旅費宿料等(俸給ヲ除ク)一切給與スルモノ 但貸與ノ爲メ借入ノ家賃ハ給與ノ雜費ニ屬ス 官物拾取ノモノハ報勞ノ類										彫刻料、活版料 郵便爲替料、郵便管借受料共 物品運送賃、荷車荷船賃料、運送保險料、荷造 用品等 外國人接待ニ係ル茶、菓子、料理等 宿直並居殘ノ賄料、臨時辦當料等 取者馬丁給、被服、馬車馬具、蹄鐵、飼食、馬 買上等 馬車、人力車及荷車稅、借家料等 地所建家買上移轉手當共 一廉日途五百圓以上ノ分 一廉日途五百圓以上ノ分 一廉日途五百圓未滿ノ分					

明治財政史第一卷

營 繕 費										外 國 行 諸 費			
印 刷 費	郵 便 稅	電 信 料	運 搬 費	密 用 費	接 待 費	賄 費	厩 費	雜 費	何 所 新 營	何 所 修 繕	各 所 新 營 修 繕	備 員 俸 給	備 外 國 人 俸 給
本 官													
彫刻料、活版料 郵便爲替料、郵便管借受料共 物品運送賃、荷車荷船賃料、運送保險料、荷造 用品等 外國人接待ニ係ル茶、菓子、料理等 宿直並居殘ノ賄料、臨時辦當料等 取者馬丁給、被服、馬車馬具、蹄鐵、飼食、馬 買上等 馬車、人力車及荷車稅、借家料等 地所建家買上移轉手當共 一廉日途五百圓以上ノ分 一廉日途五百圓以上ノ分 一廉日途五百圓未滿ノ分													

明治財政史第一卷

銃	獵	稅	牛	馬	賣	買	免	許	稅	賣	藥	稅	度	量	衡	稅	版	權	免	許	料	海外旅券其他免許手数料
米	商	會	所	銀	行	式	所	橫	式	所	遊	獵	營	業	尺	權	樹	權	樹	權	樹	權
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅

乙 號

租稅豫算帳書式(略之)

二月二十七日大藏省達乙第十三號ヲ以テ府縣稅外收入金勘定帳ノ書式中ヲ改正シ十三年度ヨリ之ニ照準セシム蓋シ先ニ科目條例ノ制定アリタルニ因ル

三月五日太政官達第十八號ヲ以テ太政官中ニ會計検査院ヲ設置シ其取扱事務ヲ定ム先是三月三日(第十七號)太政官中法制調査兩局ヲ廢シテ法制會計軍事內務司法外務ノ六部ヲ置キ會計部ヲシテ歲入出ノ豫算決算並ニ租稅金穀出納及ヒ貨幣國債其他財政ニ關スル事務執行ノ方法ヲ査理シ其主務官廳ノ事務ヲ監視セシメシカ(第三十八號)此ニ至リ會計検査院ノ設置アリ

第十八號(明治十三年三月五日)

今般太政官中會計検査院ヲ設置シ大藏省中検査局相廢シ候條此旨相達候事
但追テ一定ノ事務章程相達候迄該院ニ於テ當分ノ内別紙箇條書ニ照準シ事務取扱候儀ト可相心得事

會計検査院取扱事務

- 一 會計ノ規則記簿ノ法式ヲ定ムル事
- 一 歲入出豫算表ヲ審査スル事
- 一 歲入出勘定帳ヲ検査スル事

一 物品受拂表ヲ検査スル事
 一金穀ノ出納ヲ検査スル事
 一 作業費ヲ検査スル事
 一 各廳ノ會計帳簿ヲ検査スル事
 一 歳入出ノ決算證書ヲ附與スル事
 一 歳入出決算報告書ヲ調製スル事
 以上ノ條件ハ是迄大藏省検査局ニテ履行セル成規定例ニヨリ處辨シ其疑議ニ涉ル條件ハ其都度伺出ヘシ

同月十一日歳入出ノ豫算ハ毎年三月ヲ以テ概定ノ期トナシ概算書ハ期限前ニ調製シテ太政官ニ具進セシム

六月二十三日大藏省達乙第二十七號ヲ以テ府縣ニ令シ收入及經費勘定帳並ニ報告表ノ書式ヲ改正シ勘定帳ハ其年度ニ屬スル出納決算完結ノ日ヨリ五日間ヲ期シ報告表ハ每三箇月間ノ出納計數ヲ調理シ毎期ノ翌月五日ヲ期シ其年度出納完結ニ至ルマテニ各大藏省ニ差出サシム

八月十日太政官達第四十號ヲ以テ各廳經費及雜收入決算帳ノ書式ヲ定メ經費決算帳ハ官省院局並ニ東京府ハ每一箇月使府縣ハ每三箇月在外公使館ハ每六箇月ニ雜收入決算帳ハ各官廳ハ每三箇月在外公館ハ每六箇月ニ各編成シテ毎期終了ノ翌月二十日ヲ限リ末期ニ係ルモノハ其年十二月一日ヲ限リ追補決算帳ハ翌年二月ヲ限リ各其本廳ニ差出サシム

十二月一日大藏省達乙第四十一號ヲ以テ府縣收入金増減報告概則並ニ其様式ヲ定メ雜收入大科

目ノ豫算額ニ増減アルトキ之ヲ報告セシム

明治十四年一月二十五日經費收入豫算帳ノ書式ヲ定メ十四年度ヨリ之ニ照準セシム

四月二十八日太政官達第三十三號ヲ以テ會計法ヲ發布ス蓋シ從來金穀ノ出納ニ關シテ各種ノ規定アリタリト雖モ區區ニシテ未タ統一セルモノアラサリシヲ以テ此ニ會計法ノ制定ヲ見ルニ至レリ今其要旨ヲ掲ケン

會計ハ豫算ニ起リ之ニヨリテ出納シ決算ニ至リテ結了スルモノニシテ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ヲ一年度トシ甲年ノ收支ニ係ル金額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス而シテ歲計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トナシ二種ヲ分チテ各歳入歳出ノ二部トナシ常用ノ歳入出ハ經常臨時ノ二部ニ準備ノ歳入出ハ本部減債ノ二部ニ區分シ歳入科目ヲ分チテ大科目小科目トシ歳出科目ヲ分チテ大科目中科目小科目細科目トシ細科目中付スルニ細節ヲ以テス次ニ歳入出豫算ハ各廳ノ申議ニ就キ大藏省之ヲ調理統計シ會計検査院ノ審査ヲ經内閣ニ於テ決定スルモノニシテ各廳ニ於テハ豫算調書ヲ調製シ各科目ニ就キテ其數額ヲ記載シ前前年度ノ實額及前年度ノ豫算ヲ傍記シ前年度十二月二十日マテニ大藏省ニ送付シ府縣ハ國庫ノ收支ニ係ル歳入出豫算ヲ調製シ前年度十二月二十日マテニ其廳ヲ發シ大藏省ニ送付ス大藏省ハ統計豫算書ヲ調製シ豫算調書ト共ニ四月二十日マテニ太政官ニ具進シ太政官ハ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付ス検査院ハ五月二十日ヲ限リ之ヲ審査シテ太政官ニ進達シ太政官ハ六月五日マテニ之ヲ決定スルモノトス而シテ豫算上決定シタル小科目以上ノ費額ヲ彼是流用セントスルトキハ各廳ニアリテハ太政官ニ府縣ニアリテハ大藏卿ニ其事由ヲ具進シテ許可ヲ請フヘク豫算外臨時ノ増費ヲ要スルトキハ各廳ニア

リテハ太政官ニ府縣ニアリテハ大藏省ヲ經テ太政官ニ其事由ヲ具進シテ許可ヲ經サルヘカラス
 次ニ金錢ノ出納ハ各廳長官ヨリ收支ノ命令ヲ其會計主務官ニ下シ會計主務官吏之ヲ執行ス但常
 例ノ出納ハ其時時命令ヲ俟タス執行スルヲ得而シテ各廳ノ歳入ハ各部ヨリ本廳ヘ採集シテ之ヲ
 大藏省ヘ納付シ歳出ハ大藏省ヨリ本廳ヘ受領シテ之ヲ各部ニ分賦シ各廳ハ其歳入金額ヲ以テ直
 ニ之ヲ歳出ニ移用スルヲ得ス其他一周年ノ出納ハ七月一日ニ於テ之ヲ開始シ該年度經過ノ後八
 箇月ヲ限リ之ヲ閉鎖スヘク該期限ニ至リ決算ヲ終ラサルトキハ其事由ヲ會計検査院及大藏省ヘ
 具進シ翌年度ニ於テ其決算ヲナスモノトス次ニ歳入出入ノ決算ハ各廳收支ノ決算額ヲ検査院ニ證
 明シ太政官ヨリ之ヲ公達スルモノニシテ大藏省ハ每會計年度ニ國庫ノ出納ニ係ル決算報告書ヲ
 編成シ出納閉鎖後六箇月ヲ限リテ會計検査院ニ送附シ租稅徵收ノ任アル各官廳ハ法律規則ニ於
 テ指定シタル各種租稅ノ皆納期限後四箇月以内ニ皆濟帳ヲ作り大藏省ニ送致シ其他各廳ハ每會
 計年度諸經費及作業益金並ニ雜收入ノ決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後五箇月ヲ限リテ會計検査
 院ニ差出スモノトス

第三十三號 明治十四年四月二十八日
 官省院使廳府縣

會計法別冊ノ通相定候條此旨相達候事

會計法

第一章 總 則

第一條 凡ソ會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ決算ニ結了ス

第二條 會計ハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ルヲ以テ一周年度トシ甲年ノ收支ニ係

ル金穀ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

第三條 歳計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トシ常用準備ヲ分テ各歳入歳出ノ二部トス

第四條 常用ノ歳入出ハ經常臨時ノ二分ニ區分シ準備ノ歳入出ハ本部減債ノ二部ニ區分ス

第五條 歳入科目ヲ分テ大科目小科目トス但科目ノ解疏ハ明治十四年四月第三十四號達ニ據ル
 ヘシ

第六條 歳出科目ヲ分テ大科目中科目小科目細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス但科
 目ノ解疏ハ明治十二年^月第五十號達ニ據ルヘシ

第二章 歳入出豫算

第七條 歳入出豫算ハ各廳ノ申牒ニ就キ大藏省之ヲ調理歳計シ會計検査院ノ検査ヲ經内閣ニ
 於テ決定ス

第八條 各廳ニ於テハ豫算調書ヲ調製シ各科目ニ就キ其員額ヲ掲載シ前前年度ノ實額及ヒ前
 年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ但シ豫算調書式ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 各廳府縣ヲ除クハ前年度十二月二十日迄ニ其ノ豫算調書ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第十條 府縣ハ國庫ノ收支ニ係ル歳入出豫算ヲ調製シ前年度十二月二十日迄ニ該廳ヲ發シ之
 ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第十一條 大藏省ハ前數條ノ豫算調書ヲ以テ統計豫算書ヲ調製シ豫算調書ト共ニ四月十日迄
 ニ太政官ヘ進達シ太政官ハ直ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十二條 大藏省ハ統計豫算書調理ノ際其増減ヲ要スルモノハ各廳開申ノ事由ト大藏卿ノ意

見トテ詳記シ統計豫算書ト共ニ之ヲ太政官ヘ進達スヘシ太政官ヨリ之ヲ會計検査院ヘ送付スルコト前條ニ同シ

第十三條 會計検査院ハ豫算調査統計豫算書及ヒ大藏卿ノ意見書審査ノ爲メ四月十五日ヨリ検査官ノ會議ヲ開キ五月二十日限リ之ヲ議了シ直ニ太政官ヘ進達スヘシ

第十四條 太政官ニ於テハ會計検査院ヨリ進達シタル豫算書ヲ審議シ六月五日迄ニ之ヲ決定スヘシ

第十五條 各廳府縣ヲ除クニ於テ豫算上決定シタル小科目以上ノ費額ハ太政官ノ特別ノ許可ヲ得ルニアラサレハ彼是流用スルヲ得ス太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大藏省ヘ通知スヘシ

第十六條 府縣ニ於テ小科目以上ノ流用ヲ要スル時ハ其事由ヲ大藏卿ヘ具申シ其許可ヲ請フヘシ大藏卿ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院ヘ通知スヘシ

第十七條 各廳ニ於テ豫算外臨時ノ増費ヲ要スル時ハ其事由ヲ太政官ヘ具申シテ許可ヲ請フヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大藏省ヘ通知スヘシ

第十八條 府縣ニ於テ第十七條ノ場合アル時ハ其事由ヲ大藏省ヘ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ヘ具申シテ其許可ヲ請フヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院ヘ通知スヘシ

第十九條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ生スル時ハ之ヲ大藏省ヘ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官ヘ上申シ會計検査院ヘ通知スヘシ

第三章 金錢ノ出納

第二十條 凡ソ出納ハ各廳長官ヨリ收支ノ命令ヲ其會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ其收支ヲ執行スルモノトス但常例ノ出納ハ其時時命令ヲ要セス會計主務官吏ニ於テ其收支ヲ執行スルヲ得

第二十一條 凡ソ出納ノ記簿ハ複記式ヲ用フヘシ若シ其様式ヲ變更セントスルトキハ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

第二十二條 記簿ハ長官ノ命令書若クハ會計主務官吏ノ調書ヲ憑據トシテ之レカ記入ヲ爲スヘシ

第二十三條 記簿ノ重要ナルモノハ日記簿原簿現金受拂簿豫算簿ノ四種トス其補助簿ヲ設クルハ各廳ノ便宜ニ任ス

第二十四條 前條四種ノ帳簿ヲ取捨シ及ヒ補助簿ヲ設クルトキハ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

第二十五條 國庫ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ大藏卿之ヲ管理スヘシ

第二十六條 歳入ハ法律規則ニ指定セシ期限ニ於テ之ヲ收入スヘシ

第二十七條 歳出申通常ノ費途ハ各廳使府縣ヲ除クハ其年額ヲ十二分シ使府縣ハ之ヲ四分シ在外公館ハ之ヲ二分シ其他ハ實際支消スヘキ時ニ臨ミ交付スヘシ

第二十八條 大藏省ハ國庫ニ於テ日日出納スル所ノ金額科目及ヒ事由ヲ詳記シ其毎翌日會計検査院ヘ報告スヘシ

第二十九條 歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生セシ時ハ之ヲ準備金ヘ繰入スヘシ

- 第三十條 各廳ノ歳入ハ各部ノ收額ヲ本廳ヘ採集シテ之ヲ大藏省ヘ納付シ共歳出ハ大藏省ヨリ本廳ヘ受領シテ之ヲ各部ヘ分賦スヘシ
- 第三十一條 各廳ハ其歳入金額ヲ以テ直チニ之ヲ歳出ニ移用スルヲ得ス
- 第三十二條 各廳ハ經費決算ニ際シ其殘餘アル時ハ大藏省ヘ還納スヘシ
- 第三十三條 各廳現金及ヒ物品ノ管守竝ニ其出納ハ該廳會計主務官吏ヲシテ之ヲ掌トラシムヘシ
- 第三十四條 現金ノ管守出納ヲ銀行等ニ掌トラシムル時ハ成規ニ依リ抵當品ヲ差出サシムヘシ
- 第三十五條 作業費ノ出納ハ興業ト營業費ニ區分シ興業費ハ之ヲ歳出ニ編入シ營業費ハ工事開始ノ際資本金額ヲ定メ之ヲ貸與スヘシ
- 第三十六條 營業資本金ハ營業上諸般ノ費途ヲ辨シ其回收ノ金額ヲ以テ之ヲ償還シ其餘ハ益金トシテ之ヲ大藏省ヘ收入ス若シ營業資本ニ不足ヲ生スル時ハ更ニ歳入ヨリ之ヲ補填スヘシ
- 第三十七條 各廳ニ於テハ毎年ノ收入ト經費トヲ分ケ其精算ノ既済未済ヲ區別シ官省院廳局ハ毎月使府縣ハ每三箇月在外公館ハ每六箇月出納勘定帳ヲ翌月二十日迄ニ調製シ之ヲ會計検査院及ヒ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第三十八條 大藏省ハ每三箇月租稅勘定帳ヲ編成シテ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査院ヘ差出スヘシ

- 第三十九條 大藏省ハ每三箇月國債償還紙幣ヲ消準備金ノ收支起業基金ノ受拂及ヒ貸付金繰替金返納等ノ勘定帳ヲ調製シ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査院ヘ差出スヘシ
 - 第四十條 一週年度ノ出納ハ七月一日ニ於テ之ヲ開始シ該年度經過ノ後八箇月ヲ限り之ヲ閉鎖スヘシ
 - 第四十一條 各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ收入支出ノ決算ニ至ラサルモノアル時ハ其事由ヲ會計検査院及ヒ大藏省ヘ開申シ翌年度ニ於テ其決算ヲナスヘシ
 - 第四十二條 出納閉鎖ノ後帳簿ノ検査上ヨリ差違ヲ生スル時ハ其額ニ限り閉鎖後四箇月以内ニ之ヲ出納スルヲ得ヘシ
 - 第四十三條 各廳金錢出納ノ細則ハ其長官ノ上請ニ依リ別ニ之ヲ定ムヘシ
- 第四章 歳入出ノ決算
- 第四十四條 凡ソ歳入出ノ決算ハ各廳收支ノ決算額ヲ會計検査院ニ證明シ太政官ヨリ之ヲ公達スヘキモノトス
 - 第四十五條 歳入出ノ決算ハ歳入ニ於テハ現金ヲ大藏省ヘ納付シ其領收書ニ據リ歳出ニ於テハ現金ヲ正當ノ受取人ヘ交付シ其領收證書ニ據リ其他ノ歳出ニ屬スヘキモノハ其文書ニ據テ之ヲ爲スヘシ
 - 第四十六條 各廳經費中建築等ノ費項ニシテ該年度最初決定ノ豫算書ニ科目金額ヲ明載シ既ニ著手セシモノ事故アリテ豫算ノ如ク竣成ニ至ラス翌年度ニ跨ルノ類ニ限リ三箇月間決算ヲ延期スヘシ其延期ヲ要スルモノハ事由ヲ具シ會計検査院ノ承認ヲ請フヘシ但豫算決算ノ

後他費流用又ハ増費等ヲ以テ起業セシモノハ第二條ニ據リ六月三十日ヲ以テ決算スヘシ
第四十七條 大藏省ハ每會計年度國庫ノ出納決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後六箇月限り會計
検査院ヘ差出スヘシ

第四十八條 租稅徵收ノ任アル各廳ハ法律規則ニ指定シタル各種租稅ノ皆納期限後四箇月以
内ニ皆濟帳ヲ作り之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第四十九條 各廳ハ每會計年度作業益金及ヒ雜收入ノ決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後五箇月
限り會計検査院ヘ差出スヘシ

第五十條 各廳ハ每會計年度諸經費ノ決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後五箇月限り會計検査院
ヘ差出スヘシ

第五章 雜則

第五十一條 準備金ハ管理ノ規程ニ據リ大藏卿之ヲ管守ス

第五十二條 大藏省ニ於テハ毎月常用金ノ在高其種類ノ内譯及ヒ國債額準備金起業基金貸付
金預ケ金並其抵當品假納金預リ金等ノ増減及ヒ種類ノ内譯表ヲ調製シ翌月七日迄ニ會計檢
査院ニ報告スヘシ

第五十三條 大藏省ハ每會計年度末ニ於テ該年度ニ屬スル收支ヲ概定センカ爲メ其現出納及
ヒ將來收支スヘキ員額ヲ調理シテ歲入出概定表ヲ製シ翌年八月二十五日マテニ太政官ヘ進
達スヘシ

第五十四條 製造場等ヲ管スル各廳ハ每會計年度其作業ノ損益及資本金償却等ノ計算報告書

ヲ作り決算報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第五十五條 各廳ハ本廳及ヒ各部局ニ供用スヘキ諸物品ノ出納ヲ每三箇月ニ區分シ其計算表
ヲ翌月二十日マテニ調整シ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第五十六條 各廳ハ本廳及ヒ各部局所管ノ地所家屋其他官有財産ノ種類ヲ分チ計算表ヲ製シ
毎五年大藏省ヘ送付シ其増減アルトキハ其時時之ヲ通知スヘシ大藏省ハ之ニ總計表ヲ添付
シ毎年會計検査院ヘ差出スヘシ

第五十七條 各廳ハ定規ニ依リ地方稅收入支出ノ豫算及ヒ決算報告書ヲ製シ内務大藏兩省ヘ
進達シ内務大藏兩省ニ於テハ査閱承認ノ上總計表ヲ添付シ會計検査院ヘ報告スヘシ

第五十八條 凡ソ官金ノ棄捐ヲナサントスルトキハ其狀ヲ具シ太政官ノ裁可ヲ請フヘシ太政
官ニ於テ之ヲ許可セントキハ會計検査院及ヒ大藏省ヘ通知スヘシ

第五十九條 豫算調書統計豫算書決算報告書出納記簿ハ會計検査院及ヒ派出検査官ヘ差出
シタル後其改削塗抹ヲ爲スヘカラス但検査官ノ承認ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第六十條 各廳並ニ諸製造場等ノ物品會計ノ細則ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六十一條 此法ニ矛盾スル從前ノ法規ハ廢止トス
同月同日太政官達第三十四號ヲ以テ歲入科目ヲ定ム蓋シ歲出科目ニ關シテハ曩ニ經費科目條例
ノ制定ニ依リテ精細ニ規定セラレタリト雖モ歲入科目ハ明治八年諸收入物品科目名簿以來ノ規
定ヲ襲用スルニ過キスシテ歲出科目ニ對シ其權衡ヲ得サルヲ以テ左ノ改正ヲ見ルニ至レリ

第三十四號(明治十四年四月二十八日)

官省院使應府縣

- 第一條 會計検査院ハ政府ノ歳計ヲ審査監督シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス
- 第二條 歳入出豫算ノ當否ヲ審査シ其意見ヲ内閣ニ具申ス
- 第三條 官金及ヒ物品ノ出納官有財産管理ノ方法ヲ監査ス
- 第四條 會計検査上ニ於テ各事業ノ審査ヲ要スル時ハ其實況ヲ視察シ其得失ヲ内閣ニ具申スルコトヲ得
- 第五條 國庫及ヒ各廳收支ノ決算ヲ審査判定シ當該會計官吏ニ向テ決算ノ狀ヲ宣告ス
- 第六條 前條ニ依リ爲シタル宣告ハ終審ノモノトス但シ内閣ニ於テ其宣告ヲ不當ト認メタル時ハ更ニ本院ニ下シテ再審セシメ又ハ特別委員ヲ命ジテ審理セシムルコトヲ得
- 第七條 歳入出決算ノ報告及ヒ行務ノ年報ヲ調製シ之ヲ内閣ニ進呈ス
- 第八條 會計ニ關スル法律規則及ヒ院中處務課程ノ制定釐革ニ付其意見ヲ内閣ニ建議スルコトヲ得
- 第九條 會計ニ關スル法規ノ疑條ヲ辯明シ之ヲ各廳ニ通知スルコトヲ得
- 第十條 地方稅收入支出ノ豫算及ヒ決算報告ヲ査閱ス
- 第十一條 會計主務官吏會計ノ法規ニ違フタル時ハ懲戒ノ斷案ヲ草シ其奏任以上ニ係ル者ハ内閣ニ上申シ其判任以下ニ係ル者ハ所屬長官ニ通報ス但シ刑法ニ明文アル者ハ一面以テ之ヲ檢事ニ告知ス
- 第十二條 會計検査院ヨリ發スル文書ハ院長ノ名ヲ以テシ其決算ノ狀ヲ宣告スルモノ及ヒ懲戒ノ斷案ハ主任ノ検査官之ニ連署ス

會計検査院章程ハ會計法ニ比シ頗ル面目ヲ一新シ會計事務ニ關シテハ殆ント各省ノ上ニ立ツノ地位ヲ有セリ是レ各省卿ト參議ト相兼スルノ制ヲ廢シ専ラ權力ヲ太政官ニ集メタル新官制ノ組織上ヨリ生シタル結果ナリトス然リト雖モ猶ホ太政官ニ屬シテ行政部内ニ在リ豫算ヲ調査シ財務ヲ討議スルカ如キニ至リテハ則チ太政官會計部ノ一機關ニ過キサルノ觀ナキニアラサリキ同月三十日太政官達第三十六號ヲ以テ各廳長官ト會計主務官トノ分掌方ヲ定ム蓋シ是ヨリ先キ會計法ノ制定竝ニ會計検査院章程ノ更定ニ依リテ會計組織大ニ整頓スルヲ得タルヲ以テ尋テ仕拂命令官ト會計官吏トノ責任分界ヲ明定シタルナリ

第三十六號(明治十四年四月)

官省院使廳府縣

- 今般會計法制定竝ニ會計検査院事務章程更定ニ付會計ノ事務上各廳長官ト會計主務官吏トノ分掌方左ノ通相定候條此旨相達候事
- 第一條 各廳ノ長官ハ會計ノ法規ニ從ヒ會計主務官吏ニ向テ金錢及ヒ物品出納ノ命令ヲ下シ該廳ノ歳入出豫算ヲ調製シ會計検査院ニ向テ其決算ノ報告ヲ爲スヲ掌リ其決算ニ就テノ責任ハ太政官ヨリ該年度政府ノ歳入出決算書ヲ公布シタルニ了ル
 - 第二條 各廳ノ會計主務官吏ハ會計ノ法規ニ從ヒ金錢物品ノ管守及ヒ該廳長官ノ命令ニ依リ金錢物品ノ現出納ヲ掌リ其出納上ノ精算ヲ會計検査院ニ向テ證明シ其認可狀ヲ得テ其責任ヲ了ル
 - 第三條 各廳長官ハ便宜金錢物品收支命令ノ權ヲ部下ノ官吏ニ委スルヲ得
 - 第四條 各廳會計主務官吏ハ其長官ノ上請ニ依リ太政官ヨリ之ヲ命ス但別ニ會計官吏ノ制ア

ルモノニ擔任ノ場所ヲ命シ及ヒ判任官ヲ以テ會計主務官吏ト爲シタルトキハ會計検査院ニ届出ヘシ

第五條 國庫ノ出納ハ別段ノ法規ニ依ル

六月二十二日太政官達第五十四號ヲ以テ各府縣豫備金ハ當十三年度限り廢止シ右金額ヲ大藏省ヘ返納セシム蓋シ會計ノ法規ハ此ニ至リテ稍完備セリト云フヘシ然レトモ現金ノ出納ヲ大藏省ニ統轄シ經費ノ支出ノ仕拂前ニ監督スルノ主義ハ當時未タ成立スルニ至ラザリキ然ルニ豫算ノ制既ニ定マリ且ツ各地交通運輸ノ便備ハル以上ハ目的ヲ定メサル金員ヲ各廳ニ前渡スルノ必要ナキノミナラス却テ豫備金アルカ爲メ種種濫用ノ弊生スルヲ以テ之ヲ廢止セシハ會計整理ニ一歩ヲ進メタリト云フヘシ七月十九日太政官達第六十三號ヲ以テ各府縣經費ノ中屬官俸給應費沖ヲ除ク史誌編輯費招魂社費地籍編纂費警察費國庫下渡ノ六項ハ會計法第三十三條ニ拘ハラズ殘餘アラハ据置キ年度ノ該費ニ充用スヘシトス

八月五日太政官達第七十二號ヲ以テ會計法第三十七條ニ基キ出納勘定帳ノ書式ヲ定ム

第三節 一般會計法規ノ第三期(自明治十五年至明治二十三年)

會計法ト會計検査院章程ハ明治十五年一月十六日太政官第五號達ヲ以テ改定公布セラル蓋シ十四年十月二十一日太政官第八十八號達ヲ以テ太政官中ノ六部ヲ廢シ參議ヲシテ各省卿ヲ兼ネシムルノ制ニ復シタル結果會計検査院ノ權限獨リ重キニ過キ各省ニ對シ均衡ヲ保ツコト能ハス因テ會計検査院ノ權限ヲ縮少スルノ必要アリシカ故ナリ而シテ其改正ノ要領ハ前會計法ニ於テハ

豫算ノ調製ニ會計検査院ノ審査ヲ要セシカ新會計法ニ於テハ會計検査院ノ歲計審査權ヲ決算ニノミ限リ決算報告ト決算帳トノ區分ヲ判明セリ又各廳ニ定額ニ相當セル現金ハ從來月割ヲ以テ大藏省ヨリ交付シ各廳ニ於テ管守スルヲ正則トセシカ新會計法ハ大藏省ニ於テ管守スルヲ正則トスルコトニ改メタリ

太政官第五號達

會計法

第一章 總 則

- 第一條 會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ決算ニ結了ス
- 第二條 會計ハ其年七月一日ニ起リ翌年六月三十日ニ終ル之ヲ一周年度トス
- 第三條 會計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トス
- 第四條 常用ハ歲入ト歲出トニ區分シ歲入歲出各別ツテ經常臨時ノ二部トス
- 第五條 歲入科目ヲ分テ大科目小科目トス但科目ノ解疏ハ明治十四年四月第三十四號達ニ據ルヘシ
- 第六條 歲出科目ヲ分テ大科目中科目小科目細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス但科目ノ解疏ハ明治十二年十二月第五十號達ニ據ルヘシ
- 第七條 準備ハ別段ノ規則ニ依リ大藏卿之ヲ管理ス
- 第八條 各廳ニ於テハ歲入ヲ以テ直ニ歲出ニ移用シ若クハ甲年ノ收支ニ係ル金額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

第二章 歲入出豫算

- 第九條 歲入中租稅豫算調書ハ大藏省ニ於テ其徵收ノ任アル各處ノ豫算明細書ニ據リ更ニ之ヲ調製シ其他諸收入豫算調書ハ各處ニ於テ之ヲ調製スヘシ
- 第十條 歲出中各處所管ノ經費豫算調書ハ各處ニ於テ之ヲ調製シ府縣所屬ノ經費ニシテ諸省之ヲ管理スルモノハ其府縣ノ豫算明細書ニ據リ管理廳之ヲ調製スヘシ
- 第十一條 歲入出豫算調書ハ各科目ニ就テ其員額ヲ掲載シ前前年度ノ實額及ヒ前年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ
- 第十二條 各處ハ豫算調書調製ノ上前年度十二月二十日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ
- 第十三條 大藏省ハ各處豫算調書ヲ以テ統計豫算書ヲ調製シ大藏卿意見書ヲ添ヘ各處豫算調書ト共ニ前年度五月五日迄ニ之ヲ太政官ニ進達スヘシ
- 第十四條 太政官ニ於テハ大藏省進達ノ豫算書類ニ就キ之ヲ審議シ前年度六月五日迄ニ其豫算ヲ決定スヘシ
- 第十五條 太政官ニ於テ前條豫算決定ノ上ハ之ヲ各處ニ布達スヘシ
- 第十六條 各處ニ於テ豫算上決定シタル小科目已上ノ費額ヲ彼此流用セントスルトキハ大藏省ノ承認ヲ受クヘシ大藏省ニ於テ之ヲ承認シタルトキハ會計検査院ニ通知スヘシ但事務ノ興廢伸縮ニ係ルモノハ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ許可ヲ請クヘキモノトス
- 第十七條 各處ニ於テ豫算外臨時増費ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳具シ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ決裁ヲ請フヘシ但大藏省ハ其申牒ニ意見書ヲ添付スヘシ

官ノ決裁ヲ請フヘシ但大藏省ハ其申牒ニ意見書ヲ添付スヘシ

第十八條 府縣ニ於テ豫算外臨時増費ヲ許可シタルトキハ其事由ヲ大藏省ニ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ具申シテ其決裁ヲ請フヘシ

第十九條 太政官ニ於テ各處豫算外臨時増費ヲ許可シタルトキハ之ヲ大藏省及ヒ會計検査院ニ達スヘシ但府縣ノ分ハ大藏省ヨリ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十條 各處ニ於テ歲入豫算上ニ増減ヲ生スルトキハ毎三箇月之ヲ大藏省ニ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ上申シ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 金錢出納

第二十一條 各處ニ於テ出納スヘキ現金ハ大藏省ニ於テ管守スヘキモノトシ大藏省ハ便宜之ヲ各處ニ委託スルヲ得ヘシ

第二十二條 各處ノ出納ハ其長官ヨリ收支ノ命令ヲ其會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ切符ヲ以テ其收支ヲ執行スヘシ但恒例ノ出納ハ其時時命令ヲ要セス會計主務官吏ニ於テ其收支ヲ執行スルヲ得

第二十三條 國庫ノ出納ハ別段ノ條規ニ依リ大藏卿之ヲ管理ス

第二十四條 歲入ハ其法律規程ニヨリ之ヲ收入スヘシ

第二十五條 歲出ハ其豫算ニ基キ通常ノ費途ニ限リ各處及ヒ東京府ハ其年額ヲ十二分シ使省府縣及ヒ在外公館ハ之ヲ四分シ其他ハ實際支出スヘキ時ニ臨ミ大藏省ヨリ之ヲ交付スヘシ
第二十六條 大藏省出納局長ハ每一月其出納スル所ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘記シタル收支現

計書ヲ作り翌月七日迄ニ之ヲ會計検査院ニ報告スヘシ

第二十七條 各廳會計主務官吏ハ每一月共出納スル所ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘記シタル收支現計書及ヒ報告書ヲ作り翌月七日迄ニ之ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第二十八條 各廳ニ於テ一ノ會計主務官吏ノ所管中其出納ヲ異ニスル各局部アルモノハ前條ニ依リ收支現計及ヒ報告書ヲ送達セシメ到著後五日以内ニ會計主務官吏之ヲ大藏省ニ報告スヘシ

但在外公館ハ每三箇月ニ區分シ翌月中其廳ヲ發遣スヘシ

第二十九條 各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期迄ニ若シ收支ノ決算ニ至ラサルモノアルトキハ其事由ヲ大藏省ニ開申シ翌年度ニ於テ其決算ヲ爲スヘシ

第三十條 各廳ニ於テ決算上殘餘アルトキハ之ヲ大藏省ニ還納スヘシ但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第三十一條 各廳ニ於テ諸建築等ノ事業ニ就キ特ニ定メタル金額アルモノ其會計年度内ニ若シ豫算ノ如ク竣成ニ至ラサルトキハ大藏省ノ承認ヲ得テ該年度後三箇月間金額ヲ使用スルコトヲ得

第三十二條 歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生セシトキハ之ヲ準備金ニ繰入スヘシ

第三十三條 出納ハ會計年度經過後八箇月ヲ限リ之ヲ閉鎖スヘシ但閉鎖後ト雖モ會計検査院ノ決算検査上ヨリ出納ヲナスハ此限ニアラス

第三十四條 金錢出納ノ記簿ハ複記式ニ據リ日記簿原簿現金受拂簿豫算簿ヲ作り該廳ノ出納

ハ總テ之ヲ記入スルモノトス

第三十五條 記簿ハ金錢ヲ出納スヘキ證書ニ據リ之カ記入ヲナスヘシ

第三十六條 各廳ニ於テ日記簿原簿現金受拂豫算簿ヲ取捨シ及ヒ其式様ヲ變更シ若クハ補助簿ヲ設クルトキハ大藏省ノ承認ヲ請クヘシ大藏省ニ於テ之ヲ承認シタルトキハ會計検査院ニ通知スヘシ但大藏省國庫出納ノ記簿ハ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

第四章 歳入出決算

第三十七條 大藏省租稅局長及ヒ關稅局長ハ每會計年度租稅決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計検査院ニ證明シ其認可ヲ請クヘシ

第三十八條 大藏省國債局長ハ每會計年度國債償還利子仕拂貸付金返納ノ決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計検査院ニ證明シ其認可ヲ請クヘシ

第三十九條 大藏省出納局長ハ每會計年度ニ屬スル國庫出納ノ決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計検査院ニ證明シ其認可ヲ請クヘシ

第四十條 各廳會計主務官吏ハ每會計年度收入經費決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計検査院ニ證明シ其認可ヲ請クヘシ

第四十一條 會計検査院ハ翌翌年度四月迄ニ各廳ノ決算ヲ審査判定シ其認可狀ヲ宣告スヘシ但認可ヲナシタルトキハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第四十二條 各廳長官ハ每會計年度歳入出決算報告書ヲ調製シ翌翌年度五月三十一日迄ニ其廳ヲ發シ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第四十三條 大藏省ハ毎會計年度國庫歳入出總決算報告書ヲ調製シ各廳長官決算報告書ト共ニ太政官ニ進達シ太政官ハ會計検査院ニ下シテ之ヲ證明セシメ大藏省及ヒ各廳ノ長官ニ向テ認可ノ旨ヲ達スヘシ

第五章 雜 則

第四十四條 大藏省ニ於テハ毎會計年度國債額準備金、起業基金、中央備荒儲蓄金、貸付金抵當品、鑄造貨幣交換豫備紙幣、廢毀紙幣、公債證書等ノ増減及ヒ種類ノ内譯表ヲ翌年度九月迄ニ調製シ之ヲ太政官ニ進達シ太政官ハ會計検査院ニ下シテ之ヲ證明セシメ大藏卿ニ向テ認可ノ旨ヲ達スヘシ

第四十五條 作業費ノ出納ハ興業費ト營業費トニ區分シ興業費ハ通常經費ノ制ニ依リ營業費ハ其資本トシテ之ヲ据置クヘシ

第四十六條 各廳ニ於テ官金ノ棄捐ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳具シ大藏卿ヲ經由シテ太政官ノ決裁ヲ乞フヘシ但大藏省ハ其申牒ニ意見書ヲ添付スヘシ

第四十七條 府縣ニ於テ官金ノ棄捐ヲ要スルトキハ其事由ヲ大藏省ニ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ具申シテ其決裁ヲ乞フヘシ

第四十八條 太政官ニ於テ會計ニ關スル事項ヲ裁決シタルトキハ其都度之ヲ大藏省及ヒ會計検査院ニ達スヘシ

第四十九條 各廳ノ會計規程ハ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ決裁ヲ乞フヘシ
此會計法第二十一條ハ九年二月第十八號太政官達院省廳現金納拂規則十五年六月廢止ト共ニ他

日大藏省ニ於テ現金ノ出納ヲ統轄シ經費ノ支出ヲ仕拂前ニ監督スル主義發達ノ淵源トナリシモノナリ

太政官第五號達

會計検査院章程

- 第一條 會計検査院ハ政府ノ會計ヲ検査シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス
- 第二條 歳入歳出ノ決算ヲ審査判定シ其證明者ニ向テ認可ノ狀ヲ宣告ス
- 第三條 各廳長官會計ノ報告書ニ就テ太政官ニ向テ其計算ヲ證明ス
- 第四條 會計ノ帳簿及ヒ金錢物品ノ出納ヲ検査シ時宜ニ依リ事業ノ實況ヲ査閱スルヲ得
- 第五條 會計検査上要用ト認ムル書類ハ悉皆之ヲ點檢シ及ヒ其主務者ノ辯明ヲ求ムルヲ得
- 第六條 會計法規ノ制定釐革ニ關シ其意見ヲ内閣ニ建議スルヲ得
- 第七條 歳入出決算検査完了ノ後其行務ノ成績及ヒ會計ニ關スル意見ヲ揭述シタル年報ヲ調製シ之ヲ内閣ニ進呈ス
- 第八條 會計官吏會計ノ法規ニ違フ者アルトキハ所屬長官ニ對シ其旨ヲ告知スヘシ但刑事ニ係ル者モ亦本條ニ準ス

此章程ニ依レハ會計検査院ノ權力ハ前章程ニ比シ頗ル縮少セラレタルヲ觀ルヘシ
同年四月二十八日太政官第二十二號達ヲ以テ政府ハ十五年度ヨリ十七年度ニ至ル三箇年度間各廳經費定額ヲ据置トスル旨ヲ達シ毎年度ノ定額殘餘ハ三箇年度間ハ翌年度へ差繼キ使用スルコトヲ許シ且科目ノ流用ヲ寬ニシタリ此据置定額ノ事タル實ニ會計整理上ノ一大變則ト云ハサル

可カラス而シテ政府カ此異例ノ事ヲ實行シタルハ抑故アリ蓋シ政府發行ノ紙幣ハ十年以降漸ク巨額ニ昇リ其價格著シク下落シタリ是ニ於テ政府ハ紙幣整理ノ計畫ヲ以テ十四年度以降毎年度七百萬圓ヲ歲入中ヨリ引去リ紙幣消却ニ充ツルコトニ決シタリ然ルニ此計畫タル其實行頗ル困難ナルヲ以テ政府ハ三箇年度間各應ノ定額ヲ据置トシ其間一切臨時ノ増額ヲ許サ、ルノ方法ヲ設ケ紙幣消却ノ計畫ヲ固ウセンコトヲ期シタリ然レトモ此据置定額ノ制ニ依リ從來發達シタル會計檢束ノ精神ハ大ニ損傷ヲ受クルニ至レリ

明治十五年六月十六日大藏卿ハ會計法第二十一條ニ基キ各應現金管守順序及各應現金委託順序ヲ定メ大藏省ニ於テ現金ヲ管守スル場合ト其之ヲ各應ニ委託スル場合トノ方法ヲ規定セリ其詳細ハ國庫出納ノ部ニ讓ル

据置定額制度ノ定メラレテ以來十七年度ニ至ル三箇年度間ニ於テ會計法規ニ關シテ殆ント記スヘキモノナシ而カモ國庫金取扱ノ改良ハ十六年三月二十二日太政官第十五號達國庫金出納條規ノ設定ニヨリテ發表セラレ國庫金ノ管守出納ハ總テ大藏省ニ於テ直接管理スルノ方法ニ改メラレタリ

尋テ日本銀行ニ命シテ國庫金ヲ取扱ハシムルコト、シ同年六月十五日太政官第三十八號達ヲ以テ大藏卿ハ府縣ニ令シテ曰ク「日本銀行ハ國庫金取扱ヲ命シ漸次各地ヘ國庫金取扱所ヲ設置セシメ候ニ付テハ從前諸達中大藏省爲替方ト記載有之廉ハ國庫金取扱所ト通視可致云々」ト是ヨリ先キ政府ハ大藏卿松方正義ノ建議ニ從ヒ一大中央銀行ヲ設立スルニ決シ十五年六月二十七日太政官第三十二號達ヲ以テ日本銀行條例ヲ制定シ日本銀行ハ同年十月十日開業セリ日本銀行條例第

十三條ニ依レハ政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ニ從事セシムヘシトセリ蓋シ政府ハ曩キニ島田組小野組ノ閉店ニ鑑ミ國庫金ノ管守出納ハ大藏省ニ於テ成ルヘク直管スルノ方法ニ改メタレトモ現金出納ハ其事務繁劇ニシテ銀行ヲシテ取扱ハシムルノ便ナルニ若カス且ツ大藏省ノ庫中ニ現金ヲ集合スルトキハ幾分民間ノ金融ヲ梗塞スルノ患ナキニアラス故ニ確實ナル大銀行ヲシテ國庫金ヲ一手ニ取扱ハシメ政府カ其取扱ノ監督ニ注意スルトキハ政府ノ事務上ニ於テモ亦一國ノ經濟上ニ於テモ其便少カラス是レ政府カ從來ノ主義ヲ變シ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ託シタル所以ナリ

明治十五年ニ定メタル定額据置ノコトハ十七年度ヲ以テ終ルノ規定ナリシカ其末年度ニ至リ各應ハ頗ル据置定額ノ制ヲ便トシ其繼續ヲ望ムノ狀アリシモ政府ハ斷然之ヲ非トシ十八年度ヨリ大ニ會計ノ整理ヲ嚴ニスルニ決シ十七年七月五日太政官第六十一號達ヲ以テ政府ハ經費金支出條規ヲ定メ十八年度ヨリ施行スル旨ヲ達シタリ此條規ニ依リ會計法上ニ一新主義ヲ加フルニ至レリ即チ現金ノ出納ヲ大藏省ニ於テ直管シ經費ノ支出ヲ仕拂前ニ監督スルコト是ナリ

經費金支出條規

- 第一條 各應ノ經費金ハ總テ大藏省ニ於テ之ヲ管理シ其仕拂ヲ執行スヘシ
- 第二條 各應ノ經費ハ其一周年度中ニ係ル支出ノ月額ヲ定ムヘシ但支出期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラス
- 第三條 經費豫算額ノ裁定アルトキハ各廳長官ハ支出額ノ仕譯書ヲ大藏卿ヘ送付シ其調査ヲ受クヘシ

- 第四條 前條ノ調査ヲ受クルニアラサレハ各廳長官ハ仕拂ヲ請求スルコトヲ得ス但年度ノ初一箇月分ハ年額ノ十二分ノ一ニ超エサレハ調査ヲ受サルモ仕拂ヲ請求スルコトヲ得
- 第五條 仕譯書ヲ出シタル後期節金員ニ變更ヲ要スルコトアルトキハ其都度訂正仕譯書ヲ大藏卿ヘ送付シ更ニ調査ヲ受クルニ非サレハ仕拂ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第六條 各廳長官ハ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ仕拂請求書ヲ大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ受クヘシ
- 第七條 各廳長官ハ大藏卿ヨリ仕拂請求書ノ承認ヲ得ルニアラサレハ仕拂切符ヲ發行セシムルコトヲ得ス
- 第八條 大藏省ハ仕拂切符ヲ受ルニアラサレハ現金ヲ仕拂フコトヲ得ス
- 第九條 經費金ノ支出ハ大藏省開應時間ニ限ルモノトス但臨時急施ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 第十條 在外各廳ノ經費ハ年額ヲ四分シテ大藏省ヨリ金員ヲ交付スヘシ但每會計年度第一期分ノ交付額ハ前年度ノ豫算額ニ據ル
- 第十一條 在外各廳ハ毎月其仕拂ヒタル金員ノ精算書ヲ製シ翌月七日マテニ其地ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第十二條 陸軍ノ行軍費海軍ノ航海費ニ限り計算書ニ依リ其都度現金ヲ交付スルコトアルヘシ
- 第十三條 前條ノ金員ヲ受取タル主任ノ會計官吏ハ毎月其仕拂ヒタル金員ノ精算書ヲ製シ翌月七日マテニ其滯在地若クハ碇泊地ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

- 第十四條 在地方各廳ハ第三條ノ仕譯書調査済ノ通知ヲ得タル後經費ノ支出ヲ要スルトキハ支出金員ノ仕拂明細書ヲ大藏卿ノ指名シタル現金仕拂所ヘ送付仕拂切符ヲ發行スヘシ
- 第十五條 在地方各廳ハ毎月支出シタル金員ノ精算書ヲ製シ翌月七日マテニ其地ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第十六條 現金支拂所ヲ設置セサル地方ニ各廳ノ支部局アルトキハ大藏省ハ便宜ノ方法ヲ設ケテ其經費金ヲ交付スヘシ
- 第十七條 前條ノ支部局ハ毎月仕拂タル金員ノ精算書ヲ製シ翌月五日マテニ其地ヲ發シテ之ヲ主管廳ヘ送致シ主管廳ハ到達後三日以内ニ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第十八條 此條規ニ關スル取扱ノ細則ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ
- 第十九條 現行法規中此條規ニ抵觸スル條項ハ廢止ス
- 此條規ノ實行ニヨリ會計上ニ二個ノ便益ヲ生スルノ計畫ナリ即チ其第一ハ國庫金ノ運轉ニ便益ヲ加フルコト是ナリ何トナレハ從來各廳ノ定額ハ月割府縣其他遠隔ノ各廳ニハ年額ヲ四分シ交付セリヲ以テ交付スルノ制ニシテ交付ノ後ハ各廳獨立ニ現金ヲ管守スルヲ以テ彼此現金ヲ流用スルコト能ハス爲メニ國庫ハ常ニ餘分ノ現金ヲ備ヘサルヘカラサリシカ今ヤ大藏省ニ於テ現金ノ出納ヲ統一スルニ於テハ彼此流用ノ便アルヲ以テ現金常備ノ額ヲ節制スルヲ得ヘケレハナリ其第二ハ會計ノ檢束嚴ニシテ冗費ヲ節スルコト是ナリ蓋シ從來科目ノ流用臨時ノ支出ニハ其檢束ノ法アリシト雖モ各廳自ラ現金ヲ管守出納セシカ故ニ檢束ノ法ヲ破ルニ容易ナリシカ今ヤ現金ハ大藏省ニ於テ之ヲ管理シ且ツ經費支出前ニ大藏卿ノ承認ヲ要スルヲ以テ科目ノ流用臨時ノ

支出ハ定規ノ手續ヲ經ルニアラサレハ行ヒ得ヘカラサルモノトナリタレハナリ此經費金支出條規ハ實ニ會計整理上ノ一大進歩ナリト雖モ其第六條ノ手續ハ繁雜ニ失シ施行上困難ヲ生スヘシトノ論ハ當時既ニ各廳間ニ於テ盛ニ唱ヘラレタルトコロナリ

是ヨリ先キ政府ハ從來歳入納入ノ順序頗ル宜シキヲ得サルモノアルヲ以テ之ヲ改正セリ蓋シ從前人民ヨリ租稅其他諸收入金ヲ上納スルヤ現金ヲ國庫金取扱所ニ預入レ其預リ證書ヲ得テ各廳ニ納入シ各廳ハ之ヲ取經メテ大藏省ニ送付シ初メテ本納ノ手續ヲ了セリ故ニ最初人民カ現金ヲ國庫金取扱所ニ預入レテヨリ各廳カ本納ヲ了スルマテハ假納中ニシテ數多ノ日月ヲ要スルヲ以テ歳入金ハ其既ニ人民ノ手ヲ離レテヨリ久シキ間國庫ニ於テ之ヲ運用スル能ハサルノ不便アリキ依リテ政府ハ十五年七月一日ヨリ國庫金取扱ノ方法ヲ改メ取扱所ニ於テ領收シタル現金ハ直ニ電信ヲ以テ大藏省ニ報告セシメ大藏省ハ直ニ之ヲ使用シ得ルコト、爲シタルカ爲メ國庫ハ資金ノ運轉上大ニ便宜ヲ得ルニ至レリ然レトモ十八年度マテハ國庫ノ帳簿ハ各廳ノ報告ヲ待チテ本納ニ立ツルノ手續ヲ存シタリ而シテ今ヤ又經費金支出條規ヲ實施スルニ至レハ歳入金取扱ノ改正ト相待チテ益、國庫金運轉ノ便ヲ増スニ至ルヘキナリ

明治十七年九月二十日第二十四號布告ヲ以テ大藏省證券條例ヲ制定セリ是レ亦會計整理ノ一大改良ナリトス蓋シ會計上歳入金ノ收入期節及金額ト歳出金ノ支出期節及金額トハ相當セサルトコロアリ爲メニ年度中一時歳入金ノ不足ヲ生スルハ到底免レサルコトナリ殊ニ歳入金取扱方法ノ改正以前及經費金支出條規ノ施行以前ニ於テハ歳入金ノ一時不足ヲ生スルコト多ク爲メニ政府ハ已ムヲ得ス豫備紙幣ヲ發行シ其不足ヲ補ヒタリ然ルニ明治十年以後政府紙幣ノ價格下落シ

政府其救治ニ著手シタルヲ以テ豫備紙幣ハ十六年一月限り悉皆回收シ再ヒ之ヲ發行セサルコトト爲セリ爾來政府ハ準備金中ノ紙幣及公債募集金ノ一時不用トナリシモノヲ運轉使用シタリシカ準備金中ノ紙幣ハ漸次正貨ヲ買入レタルト又公債募集金ハ各其目的ニ使用シタルトニ由リ更ニ之ニ代フルカ爲メ歐米諸國ノ例ニ倣ヒ短期公債ノ制ヲ設ケタルナリ是ニ於テカ國庫金ノ運轉上益、便益ヲ加フルニ至レリ

明治十七年十月二十八日太政官第八十九號達ヲ以テ會計年度ノ分界ヲ改正シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一周年ヲ以テ一年度ト爲シ十九年度ヨリ之ヲ實施セリ其結果十八年度ハ十八年七月一日ヨリ十九年三月三十一日ニ至ル九箇月ヲ以テ一年度ト爲シタリ蓋シ會計年度ハ從來七月ヨリ翌年六月ニ至ル一周年ト定メラレタルカ爾來數多租稅法ノ改正セラレ、ニ及ヒ漸ク年度ノ所屬ニ混雜ヲ來タスニ至レリ例セハ酒造稅ノ如キハ其納期後年度ニ在ルニ拘ハラヌ前年度ノ所屬トシテ執行セシカ如キ是ナリ今若シ年度ノ所屬ヲ正サンカ一時歳入ニ巨額ノ不足ヲ生スヘシ依リテ政府ハ年度ノ分界ヲ改メ歳入ノ所屬ヲ正ウスルノ策ヲ用ヒ四月ヨリ翌年三月ニ至ル一年ヲ以テ會計年度トナシ以テ租稅納期トノ調和ヲ計レリ然ルニ十八年ニ至リ紙幣價格回復ノ影響トシテ全國一般農工商ノ不景氣トナリ就中農民ノ困難甚ク政府ハ爲メニ地租ノ納期ヲ弛メテ其困難ヲ救ハサル可ラサルノ必要ニ迫レリ依テ同年六月十五日第十四號布告ニ據リ地租納期ハ從來之ヲ四期ニ分チタルヲ六期トシ第六期ノ納租ハ四月一日ヨリ同月二十日限リト定メタリ此地租納期ノ改正ニ依リ地租七百萬圓ハ後年度ニ於テ收入スルコト、ナリタルヲ以テ又再ヒ年度ノ所屬ヲ亂ルニ至レリ然レトモ政府ハ一時ニ七百萬圓ヲ他ノ收入ニ仰クノ方法ヲ得

ルニ苦ミシヲ以テ二十一年度迄ハ後年度ノ所屬歳入七百萬圓ヲ前年度ニ於テ使用スルモノト爲シタリシカ二十二年於テ七百萬圓ヲ準備金中ヨリ支出シ以テ年度ノ所屬ヲ正ウスルヲ得タリ

是ヨリ先キ十七年七月經費金支出條規ノ制定アルヤ大藏省ハ各地ニ現金仕拂所ヲ設クル等其施行ノ準備ニ汲汲タリシカ尙ホ種種ノ準備ヲ要スルモノアリ十八年度ヨリ施行スルノ困難ナルヲ以テ十七年十月二十八日太政官第九十號達ヲ以テ政府ハ一年度間其施行ヲ延期シタリ

明治十八年三月十六日太政官第十一號達ヲ以テ歳入出豫算條規ヲ制定シ明治十九年度ヨリ施行スル旨ヲ公布シタリ其要領ハ歳計豫算書調製ノ方法ヲ嚴密ニシ大藏卿ヲシテ各廳ノ提出セル歳計豫算書ヲ檢按シテ以テ歳出入ヲ對照調理シ之ヲ款項ニ區分シ國庫總體ノ歳計豫算書ヲ編製セシムルコト、セリ是レ各廳ノ豫算ヲシテ濫出ニ流レサラシメ收支ヲシテ相應セシメントスル精神ナリ而シテ會計法上ノ大原則トシテ歳出中各款ノ金額ハ互ニ流用スルヲ嚴禁シ各項目ノ流用ヲ制限シ以テ豫算ノ實ヲ完カラシメ且ツ一方ニ臨時支出ノ檢束ヲ嚴ニスルト同時ニ豫備金ノ制ヲ設ケテ伸縮ノ餘裕アラシメ膠柱ノ患ナカラシメタリ

歳入出豫算條規

第一條 各年度ニ於テ執行スル所ノ一切ノ收入支出ハ本條規ニ據リ毎年歳計豫算書ヲ以テ之ヲ裁定ス

第二條 各廳長官ハ毎年其所屬各局部若クハ郡區ノ細豫算書ヲ徵收シ之ニ基キ款項目節ニ分チ其應ノ歳計豫算書ヲ編製シ所屬各局部若クハ郡區ノ細豫算書ヲ添付シ前年度六月三十日

マテニ其應ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第三條 大藏卿ハ各廳ノ歳計豫算書ヲ檢按シ歳出入ヲ對照調理シ款項ニ區分シ國庫總體ノ歳計豫算書ヲ編製シ各廳長官ノ歳計豫算書ヲ添付シ前年度十二月二十日迄ニ之ヲ太政官ヘ進達スヘシ

第四條 太政官ハ大藏卿進達ノ歳計豫算書ヲ審議シ前年度三月五日マテニ其決定ヲ達スヘシ

第五條 作業ヲ主管スル所ノ各廳ハ其損益ヲ證明スル爲メ各作業物ノ收支仕譯書ヲ編製シ之ヲ其應ノ歳計豫算書ニ添付シ大藏省ヘ送付スヘシ

第六條 歳入ハ率ネ左ノ區別ニ基キ之ヲ豫算スヘシ

第一部ノ歳入中財産ノ高若クハ事業ノ免許ニ課スルモノハ其物件前前年度末ノ現數ヲ標準トス

第一部ノ歳入中輸出入品製造品賣買高若クハ人民ノ行爲ニ賦課スルモノ及第二部ノ歳入ハ前前年度以前三箇年實收ノ平均額ヲ標準トス

第一部及第二部ノ歳入ニシテ物品ヲ以テ徵收スルモノハ前前年度以前三箇年度實收ノ物品數及其代價ノ平均ヲ標準トス

第七條 歳出ハ率ネ左ノ區別ニ基キ之ヲ豫算スヘシ

第一部ノ歳出中國債償還ノ金額ハ(定期アルモ)財政ノ都合ニ依リ其利子ハ定規ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第一部第三部及第四部ノ歳出中官吏其他ニ支給スヘキモノニシテ豫期スルヲ得ヘキモノハ

前年度四月一日ノ現人員ヲ標準トス

第一部 第三部及ヒ第四部ノ歳出中官吏其他ニ支給スヘキモノ若クハ物件ニ對シ支出スルモノニシテ豫期スルヲ得サルモノハ前前年度以前三箇年度實費ノ平均額ヲ標準トス

第三部ノ歳出中軍隊軍艦ニ屬スル軍人ノ支給ニ係ルモノハ定員ヲ標準トス

第三部及ヒ第四部ノ歳出中工事若クハ物件ニ對シテ支出スルモノニシテ豫期スルヲ得ヘキモノハ仕譯帳ニ基キ之カ費額ヲ豫定シ其數年ニ渉ルモノハ總費額ヲ各年度ニ分賦シテ其年度ノ豫算ヲ爲スヘシ

第八條 各廳ハ歳入豫算ニ對シ毎月増減ノ有無ヲ調査シ其部局若クハ郡區ノ報告書ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ其應ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ報告スヘシ但増減アルトキハ其事由ヲ詳悉スヘシ

第九條 各廳長官ハ豫算決定後臨時ニ増額又ハ別途支出ヲ請求スルヲ得ス但臨時ノ事變等ニ依リ止ムヲ得サルモノハ此限ニアラス

第十條 各廳長官ハ前條但書ニ因リ増額若クハ別途支出ヲ要スルモノアルトキハ其事由ヲ詳具シ明細ナル計算書ヲ添ヘ大藏省ヲ經由シ太政官ノ特裁ヲ請フヘシ

第十一條 歳出中各款ノ金額ハ互ニ流用スルヲ得ス一款中各項ノ金額ハ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ特裁ヲ請ヒ一項中各目ノ金額ハ大藏省ノ承認ヲ受ケ之ヲ流用スルヲ得

第十二條 太政官ニ於テ前條臨時増額別途支出若クハ各項ノ金額流用ヲ許可シタルトキハ其旨ヲ大藏省及ヒ會計検査院ニ達シ大藏省ニ於テ各目ノ金額流用ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第十三條 各廳長官ハ増額別途支出若クハ各項金額流用ノ許可ヲ得サル前又ハ各目金額流用ノ承認ヲ得サル前ニ豫算外ノ支出ニ係ル新規ノ契約ヲ爲スヲ得ス

第十四條 各廳長官ハ收入ヲ以テ既定ノ歳出豫算ヲ増加スルヲ得ス

第十五條 大藏卿ハ各廳豫算外ノ支拂請求ヲ承認スルヲ得ス

第十六條 歳出豫算中國庫豫備金ノ一款ヲ置キ大藏卿之ヲ主管ス

第十七條 國庫豫備金ヲ分テ第一豫備第二豫備トス其第一豫備ハ太政官ノ裁定ヲ經由シテ支出シ第二豫備ハ支出ノ後太政官ヘ開申スルモノトス

第一豫備ハ臨時非常ニ係ル特別ノ用途ニ充ルモノトス

第二豫備ハ年金恩給過誤納下戻等ノ豫算額ニ不足ヲ生スルトキ之カ補充ニ供スルモノトス

第十八條 既定ノ豫算ニ對シ國庫豫備金ノ増額ヲナサントスルトキハ大藏卿ハ特ニ其財源ヲ定メテ太政官ノ裁定ヲ請フヘシ

第十九條 歳入ノ額豫算ニ及ハサルカ爲メ歳入ヲ以テ歳出ヲ償フ能ハサル場合ニ於テハ大藏卿ハ臨時其補充ノ方法ヲ案シテ太政官ノ裁定ヲ請フヘシ

第二十條 本條規中豫算書報告書ノ様式ハ大藏卿ノ定ムル所ニ據ルモノトス

第二十一條 現行法規中此條規ニ牴觸スル條項ハ廢止ス

此條規ニ據リ豫算ノ制度益々備ハリ臨時増額ノ如キ從來ノ如ク其年度内ニ在リテ濫リニ請求スルヲ得サルコト、ナレリ而シテ臨時ノ事變ニ因リ止ムヲ得サル臨時支出ト法律ノ結果ニ據リ豫算上避クヘカラサル不足ヲ補充スルカ爲メニ必ス豫備金ヲ置クコト、ナレリ

歳入出豫算條規ノ公布ト同日ニ太政官第十二號達ヲ以テ歳入出科目條規ノ制定アリ是亦明治十九年度ヨリ實施スヘキ旨ヲ公布シタリ

歳入出科目條規

第一條 歳入出科目ハ之ヲ分ツテ款項目節ノ四段トシ款ヲ分ツテ項ヲ置キ項ヲ分ツテ目ヲ置キ目ヲ分ツテ節ヲ置ク

第二條 歳入出ノ性質若クハ主管ヲ異ニシ獨立ヲ要スルモノヲ款トシ款中其種類ヲ異ニスルモノヲ項トシ項中ノ種類ヲ細別スルモノヲ目トシ目ノ成立ヲ明ニスルモノヲ節トス

第三條 款若クハ項ヲ廢置變換セントスルトキハ大藏卿ノ上申ニ據リ太政官ニ於テ之ヲ定ム

第四條 目及ヒ節ノ廢置變換ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ但各應ハ目節ノ廢置變換ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ之ヲ大藏卿ヘ請求スヘシ

第五條 各應ニ於テ臨時支出ノ特許ヲ得タルトキ科目ノ新設ヲ要スルコトアレハ大藏卿之ヲ定メ項以上ハ太政官ヘ上申スヘシ

第六條 現行會計法規中本條規ニ牴觸スル條項ハ廢止ス

右歳入出科目條規ト共ニ細密ナル科目表ヲ作りテ之ヲ頒布シタリ是レ畢竟款項目節ノ性質ヲ明定シ其新設ヲ放慢ナラサラシメ以テ其流用ヲ節束スルノ實效ヲ得ントシタルナリ以上豫算條規科目條規及科目表ハ皆明治十九年度ヨリ實施セラルヘキ豫定ニシテ更ニ歳入金收入條規決算條規等モ漸次制定セラルヘキ計畫ナリキ然ルニ十八年ノ末ニ至リ政府ノ組織ニ大改革アリ太政官ヲ廢シ内閣ヲ設ケ其他各應ニ廢合頗ル多ク各省ノ官制モ皆新ニ制定セラル、ニ至レリ此大改革

ハ畢竟立憲政體實施ノ準備ニシテ各省官制ノ面目ヲ茲ニ一新シ從來ノ繁文褥禮ノ弊ヲ去リ冗費ヲ節約スルコトヲ力メタリ是ニ於テ經費金支出條規科目條規及科目表ハ規定密ニ過キ官制改革ノ主義ト併行セストノ論起リ終ニ之カ改正ヲ見ルニ至レリ
明治十九年三月九日閣令第三號ヲ以テ歳入歳出金出納規則ノ制定アリ未タ實施ニ至ラサリシ經費金支出條規ハ自ラ此規則中ニ包含セラルコト、ナレリ然レトモ經費金支出條規第六條ニ規定セル各廳長官ハ經費支出前ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クルノ項ハ全ク廢止セラル、ニ至レリ此歳入歳出納規則ハ出納順序ノ上ニ著シク改良ヲ加フルトコロアリ且ツ現金ハ大藏省ニ於テ管理出納スルノ主義ヲ明ニセリ

歳入歳出納規則

第一章 總則

第一條 此規則ニ掲クル歳入トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヘ收入スル所ノモノニシテ分テ二部トス但特別ノ收入ニシテ整理上部門ヲ分ツテ必要トスルトキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

第一部 租稅

第二部 手数料ノ性質ヲ以テ徵收スル諸收入官有ノ財產物品ヨリ生スル諸收入官業益金罰金科料沒收金ノ類諸貸付若クハ過渡等ノ返納金特別ノ事務ニ宛ル諸寄附金等總テ租稅外ノ收入

第二條 此規則ニ掲クル歳出トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヨリ支出スル所

ノモノニシテ分テ三部トス

但特別ノ經費ニシテ整理上部門ヲ分ツヲ必要トスルトキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

第一部 國債元利、年金、恩給諸祿ノ類

第二部 帝室御用度、神社ノ諸費

第三部 各廳ノ經費

第三條 此規則ニ於テ納人ト稱スルハ戶長、各納稅者、其他政府ニ對シ仕拂ノ義務ヲ有スル者ヲ云

第四條 此規則ニ於テ受取人ト稱スルハ官吏、會社、一人ノ別ナク總テ政府ヨリ仕拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ヲ云

第五條 此規則ニ掲クル金庫トハ大藏省金庫局共出張所及國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヲ云

第六條 金庫ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルモノヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

第七條 此規則ニ稱スル收支命令官トハ明治十四年第三十六號達及特別ノ制規ニ據リ定メタル金錢物品收支命令ノ權ヲ有スル當該官ヲ云

分任收支命令官トハ同達ニ據リ收支命令ノ權ヲ分任セラレタル當該官ヲ云

第八條 帝室御用度ハ内藏頭ノ請求ニ依リ現金ヲ内藏寮ヘ交付シ共出納ハ別段ノ規則ニ據ルモノトス

第二章 出納ノ開閉

第九條 一會計年度毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテニ屬スル歲入歲出ノ出納ハ第十條第十二條ノ場合ヲ

除キ總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス

第十條 特別ノ制規ニ據リ俸給等ノ前渡ヲ要スルトキハ出納ノ開始前ニ於テ支出ヲ爲スコトヲ得

第十一條 在外各廳ノ經費、現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費、外國派出官吏及留學生等ノ經費送付ノ爲メ前年度十二月一日以降特ニ支出ヲナスコトヲ得

第十二條 前二條ノ外旅費手當ノ如キ支給ノ方法ニ由リ前年度内ニ支出スルノ必要ナルモノアルトキハ出納開始前ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十三條 各廳ニ於テ會計年度内ニ於テ歲出ノ仕拂ヲ結了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度八月三十一日マテ該會計年度ニ屬スル支出ヲ爲スコトヲ得

第十四條 在外各廳及現金ヲ出納スル各廳ハ三月三十一日以後ハ該會計年度ニ屬スル收支ヲ執行スルコトヲ得ス但概算支出ノ精算ノ爲メニ必要ナルトキハ翌年度五月三十一日マテニ特ニ收支ヲ爲スコトヲ得

第十五條 金庫ニ於テハ毎年度會計整理ノ爲メ翌年度十一月三十日マテ出納ヲ爲スコトヲ得

第三章 歲入

第十六條 歲入ニ係ル現金ノ收納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳ノ收支命令官ハ其徵收ヲ監視シ現金ハ直ニ金庫ニ收納スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ收入ハ現金ヲ各廳ニ收納スル

コトヲ得

- 第一項 郵便收入
- 第二項 電信收入
- 第三項 公賣處分ニ依リ收入スル税金過料沒收金手数料ノ類
- 第四項 在外各廳ノ收入金
- 第五項 諸寄付金ノ類
- 第十七條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ現金ヲ各廳ニ收納スルコトヲ得但其場合ニ於テハ即時其旨ヲ收支命令官ヨリ大藏大臣ニ報告スヘシ
- 第十八條 歳入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵收スルモノトス但第十六條但書ノ收入ニシテ各廳ニ現金ヲ收納スルトキハ此限ニアラス
- 第十九條 第一部歳入中内國稅ヲ徵收スルトキハ北海道廳長官若クハ府知事縣令ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ戶長若クハ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス
- 第二十條 戶長ハ徵稅令書ヲ受タルトキハ其町村一人別納額元帳ニ據リ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發スルモノトス
- 第二十一條 第一部歳入中關稅及第二部歳入中稅關ノ諸收入ヲ徵收スルトキハ大藏大臣ノ命令ニ據リ稅關長ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス
- 第二十二條 第二部歳入^{稅關ノ諸收入ヲ除ク}徵收スルトキハ各廳ノ收支命令官ノ命令ニ據リ會計主務官ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十三條

第一部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十五日以前納期日ノ數日ニ涉ルモ前以下ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發スヘシ但納期ヲ豫定シタルモノト雖モ稅則ニ因リ十五日ノ猶豫ナキモノハ此限ニアラス

第二十四條

戶長ハ徵稅令書ヲ受領シタルトキハ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ税金ヲ取纏ムヘシ

第二十五條

第二部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十日以前ニ其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十六條

關稅稅關ノ諸收入及物品ヲ以テ徵收スルモノ又ハ第十六條但書ニ屬スルモノヲ除キ其他ノ歳入ハ總テ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

第二十七條

第十六條但書ノ第一項第二項第三項第五項及第十七條ノ如キ各廳ニ現金ヲ收納スルモノハ毎日之ヲ取纏メ歳入ノ各目ニ區別シタル納付書ヲ添ヘ翌日マテニ其取扱主任官ヨリ金庫へ納付スヘシ但金庫ニ遠隔ナル地方ノ各廳ニ收納スル現金納付ノ方法ハ大藏大臣特ニ之ヲ定ムヘシ

第二十八條

第二十六條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムルニハ同時ニ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ持參セシムヘシ

第二十九條

金庫ニ於テ納人ヨリ歳入ヲ領收スルトキハ其持參シタル徵稅令書若クハ納額告知書ニ領收ノ證ヲ記シ之ヲ納人ニ交付スヘシ但第二十七條ノ場合ニ於テハ納付書ニ領收ノ證ヲ記シ還付スルモノトス

第三十條 戶長ニ於テ取纏メタル税金ハ翌日マテニ之ヲ金庫ニ納付スヘシ但相當ノ保護法ヲ設クルトキハ納期前ニ限リ一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其役場ニ留ムルコトヲ得

第三十一條 關稅及稅關ノ諸收入ハ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ預ケシメ其預リ證書ヲ以テ稅關ヘ納付セシムヘシ

第三十二條 稅關長ハ其領收シタル關稅及稅關ノ諸收入ヲ取纏メ毎月三回之ヲ金庫ヘ送納スヘシ

第三十三條 各應ノ收支命令官ハ歲入ノ過納誤納若クハ印紙類ノ返納ニ由リ既納ノ歲入下戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ其拂戻ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十四條 物品ヲ以テ歲入ヲ徵收スル方法ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 歲出

第三十五條 歲出ニ係ル現金ノ仕拂ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ經費ハ各應ノ請求ニ依リ大藏大臣ハ現金ヲ各應ニ交付スルコトヲ得

第一項 在外各應ノ經費

第二項 陸軍ノ行軍費

第三項 海軍ノ航海費

第四項 外國ニ於テ使用スル各應ノ經費

第五項 燈臺巡回船ノ航海費

第六項 機密費

第七項 運輸通信ノ便少ナキ島嶼其他金庫ノ設置ナキ地方ニ在ル各應ノ經費

第三十六條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ大藏大臣ハ現金ヲ各應ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各應ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル經費ノ月額ヲ豫定シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付シ其承認ヲ受クヘシ但其支出期節ノ豫定シ難キモノ及第一部第二部歲出ハ此限ニアラス

第三十八條 前條歲出仕譯書ノ承認ヲ受タル後期節若クハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第三十九條 第三十七條但書中支出期節ノ豫定シ難キモノハ其支出ヲ要スル毎ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條 各應ノ收支命令官ハ第三十七條第三十八條第三十九條ノ承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ支出ヲ命令スルコトヲ得ス但毎會計年度ノ初メ一箇月分^{毎年}四ハ各目ノ豫算金額十分ノ一ニ超エサレハ承認ヲ受ケサルモ支出ヲ命令スルコトヲ得

第四十一條 各應ニ於テ支出スル所ノ經費ハ第三十五條但書第三十六條ノ場合ヲ除キ總テ仕拂切符ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス

第四十二條 前條ノ經費ヲ仕拂フトキハ收支命令官ノ命令ニ依リ會計主務官ハ各受取人ニ對

- シ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス
- 第四十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ユヘカラス
- 第四十四條 仕拂切符ハ一目毎ニ之ヲ發シ數目ヲ合スルコトヲ得ス
- 第四十五條 仕拂切符ヲ發付シタル會計主務官ハ其切符ヲ發スルト同時ニ該仕拂切符ニ指名シタル金庫へ案内書ヲ發スヘシ
- 第四十六條 仕拂切符ニ指名セラレタル金庫ハ其切符持參人ニ對シテ即時ニ表面ノ金額ヲ仕拂フモノトス但仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノハ第四十七條第四十八條ニ據リ之ヲ處分スヘシ
- 第四十七條 金庫ニ於テ仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノヲ發見シタルトキハ該仕拂切符所有者ヲシテ其發行應ニ仕拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ
- 第四十八條 各應ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ更ニ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス
- 第四十九條 金庫ハ仕拂ヲ請求セラレタル仕拂切符若シ成規ニ違フコトアルカ若クハ案内書ト符合セサルコトアリト認ムルトキハ其事由ヲ該仕拂切符持參人ニ告ケ預リ證書ヲ發シテ該切符ヲ留置キ即時ニ其旨ヲ該切符ニ記名ノ會計主務官ニ通牒スヘシ
- 第五十條 前條ノ場合ニ於テ金庫ノ會計主務官ニテ仕拂切符又ハ案内書ヲ訂正スルカ若クハ其切符ノ正當ナルヲ保證スルニアラサレハ之ヲ仕拂フコトヲ得ス
- 第五十一條 第三十五條ノ第一項第四項第七項ノ經費金遞送ヲ要スルトキハ各主管應ノ收支命令官ヨリ請求書ヲ大藏大臣へ送付シテ送金ヲ請求スヘシ

- 第五十二條 前條ノ經費ハ一回ニ年額四分ノ一以内ヲ交付スルモノトス但臨時ノ費途ニシテ一時ニ支出ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 第五十三條 豫算ノ裁定前ニ於テ第五十一條ノ經費發送ヲ要スルトキハ前年度ノ豫算額ニ據リ送付ノ金額ヲ定ムルモノトス但臨時ノ費途ハ此限ニアラス
- 第五十四條 大藏大臣ハ第五十一條ノ請求ヲ受ルトキハ金庫ヲシテ一箇月以内ニ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ發送セシムルモノトス
- 第五十五條 第三十五條ノ第二項第三項第五項第六項ノ經費金ヲ受取ラントスルトキハ各主管應ノ收支命令官ハ請求書ヲ大藏大臣へ送付シ其交付ヲ請求スヘシ
- 第五十六條 大藏大臣ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ金庫ヲシテ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ交付セシムルモノトス
- 第五十七條 各應ノ收支命令官ハ第十條第十二條ノ支出ヲナサントスルトキハ事由ヲ具シテ其仕拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ
- 第五十八條 各應ノ本廳外ノ地ニ在ル小支部局若クハ出張官吏等へ經費金ヲ遞送セントスルトキハ會計主務官ヨリ仕拂切符ヲ發シ金庫へ送付シ送金ヲ請求スヘシ
- 第五十九條 國庫常用部ヨリ會計ノ取扱ヲ異ニスルモノへ支出スル經費ハ主管應ノ請求ニ據リ大藏大臣ハ直ニ金庫ヨリ現金ヲ仕拂ハシムルモノトス
- 第六十條 國債元利ノ仕拂ヲ爲ストキハ大藏大臣ハ其豫定金額ヲ北海道廳府縣廳へ達シテ其仕拂ヲ執行セシムルモノトス但銀行ヲシテ取扱ハシムル國債元利ノ仕拂ハ其取扱銀行へ金

額ヲ交付シテ之ヲ執行セシム

第六十一條 國庫常用部ヨリ國庫中他ノ部準備部ヘ支出スルモノハ裁定ノ豫算ニ基キ大藏大臣ノ命令ニ據リ直ニ之ヲ移スモノトス

第六十二條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支出ニ屬スヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第六十三條 各廳ニ於テ既ニ仕拂タル金額ノ内返納ヲ要スルトキ若クハ第三十五條但書及第三十六條ニ據リ現金ヲ受取リ仕拂殘餘アルトキハ即日之ヲ金庫ヘ納付シ廳中ニ留ムルコトヲ得ス但第三十五條第一項第七項ノ場合ハ此限ニアラス

第六十四條 金庫ハ大藏大臣ノ命令ヲ受ルニアラサレハ一切仕拂ヲ執行スルコトヲ得ス

第五章 報告

第六十五條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル歳入ノ月額豫算表ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ但收入期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラス

第六十六條 郡區長ハ第十九條ニ據リ徵稅令書ヲ發シタルトキハ之ヲ北海道廳長官若クハ府知事縣令ヘ報告スヘシ

第六十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條郡區長ノ報告ニ據リ其徵稅額表ヲ製シ納期ヲ豫定シタル租稅ハ徵稅令書發付後十五日以内ニ隨時納期ヲ定ムルモノハ毎月取纏メ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第六十八條 金庫ハ各納人ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ毎日之ヲ其徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シタル廳ヘ報告スヘシ但官廳ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ此限ニアラス

第六十九條 稅關長ハ第三十二條ニ據リ關稅及稅關ノ諸收入ヲ送付スルトキハ同時ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第七十條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其徵收セシメタル歳入ノ報告書ヲ製シ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但關稅及稅關ノ諸收入ハ此限ニアラス

第七十一條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其支出セシメタル歳出ノ報告書ヲ調製シ翌月七日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

七十二條 在外各廳ノ分任收支命令官ハ每會計年度初月ヨリ三箇月毎ニ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十三條 本廳外ニ在ル支部局ノ分任收支命令官ハ第七十一條ノ期日マテニ毎月ノ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十四條 前二條ニ據リ送付シタル歳出報告書ハ主管廳ノ收支命令官ヨリ其到達後三日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十五條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ現金ノ受拂ヲ大藏省主計局長ヘ報告スヘシ

第七十六條 前條ノ報告期節ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 在外各廳ノ收入及經費機密費及現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費ノ報告ハ毎月分ヲ翌月十日マテニ發送ス

一陸軍ノ行軍費ノ報告ハ行軍終ル後十五日以内ニ發送ス
 一海軍ノ航海費、燈臺巡回船ノ航海費ノ報告ハ航海終ル後十五日以内ニ發送ス
 第七十七條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收若クハ歳出ノ仕拂ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ年度後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但所在地ノ隔離スル郡區役所若クハ支部局ニ係ルモノハ年度後一箇月内ニ取纏メ之ヲ送付スヘシ
 第七十八條 各廳ノ收支命令官ハ會計ノ整理期限三十一日内ニ於テ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度十月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ
 第七十九條 各廳ノ收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ十二月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ
 第八十條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算支出ノ精算未済ノモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度九月三十日マテニ之ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付スヘシ
 第八十一條 郡區役所又ハ支部局ノ所在地遠隔ニシテ第六十七條第七十條及第七十七條但書ノ報告期節ニ其報告ヲ取纏メ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ大藏大臣ニ開申シ追表ヲ製シテ別ニ之ヲ報告スヘシ

第六章 雜則

第八十二條 此規則ニ掲クル仕譯書請求書、月額豫算表、計算書、報告書、徵稅令書、納額告知書、仕拂切符等ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム
 第八十三條 此規則ニ關スル事務取扱ノ手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十四條 現行法規中此規則ニ抵觸スル條項ハ廢止ス
 同日科目條規科目表ニ關シ閣令第四號ヲ以テ明治十八年三月太政官第十二號達歳入出科目條規同十三號達科目表ヲ廢シ十九年度以降歳入出科目ハ款項目節ニ分チ大藏大臣之ヲ定ムヘク若シ各廳ニ於テ其廢置變換ヲ要スルトキハ大藏大臣ニ協議スヘキ旨ヲ達シタリ尋テ大藏大臣ハ科目表ヲ修正シテ各廳ニ通知シ更ニ省令ヲ以テ歳入取扱順序並ニ歳出取扱順序ヲ公布シ益々會計事務ノ敏活整理ヲ促セリ

明治十九年度ノ豫算ハ十九年四月二十一日勅令第二十二號ヲ以テ公布セラレ十四年度ノ決算モ十九年十二月二十三日勅令第八十二號ヲ以テ公布セラレ是ニ於テ豫算制度ノ面目大ニ改マレルモノアリ而シテ十一年度ノ決算ハ十六年十月爲心得トシテ達セラレタルカ十七年十月ニ達セラレタル十二年度ノ決算ハ爲心得ノ三字ヲ除キ太政大臣承認ノ上達スト改メ十四年度ノ決算ハ初メテ勅令ヲ以テ公布セラレタリ故ニ決算ハ豫算ニ先チ勅令ヲ以テ公布セラレタルモノト謂ヘシ明治十九年度ハ會計諸法規ノ改正實施ノ初年ナリシヲ以テ大藏省及ヒ各廳ニ於テモ之カ執行ニ習熟ヲ缺ク所アリ且ツ年度ノ開始ニ際シ俄ニ出納規則ヲ發布シ科目ヲ改メ豫算ヲ再調シタル等ノ混雜アリシカ故ニ會計整理上ニ意外ノ困難ヲ見タリシモ二十年度ニ至リ大ニ整頓ヲ告クルニ至レリ

帝國憲法ノ發布帝國議會開設ノ盛事ニ伴ヒ我國ノ會計法ハ茲ニ一大改新ヲ必要トスルノ機運ニ際會セリ蓋シ從來會計ニ關スル諸法規ハ時ニ臨ミ機ニ應シテ布達セラレタルモノナルヲ以テ頗ル煩雜粗漏タルヲ免レス加之特別資金ノ如キ期滿免除ノ如キ政府ノ工事及物件賣買貸借ノ如キ

出納官吏ノ責任及其身元保證ノ如キ追加改正ヲ要スル點尠カラシテ立憲ノ新政ヲ布クニ當リ頗ル不適當タルヲ免レス故ニ政府ハ十九年末ニ於テ會計法取調委員ヲ命シ十五年一月以來實施シ來レル會計法ヲ基礎トシ廣ク歐米各國ノ會計法規ヲ參酌シテ新ニ會計法ヲ起案セシメ二十二年二月十一日憲法發布アリ租稅ノ徵收豫算ノ調製議會ノ協贊決算ノ検査等凡ソ會計ニ關スル大綱ヲ明定セラルト同時ニ法律第四號ヲ以テ會計法ヲ公布シタリ即チ國家ノ歲計上會計年度ノ限界ヲ明ニシ以テ收支ノ所屬ヲ嚴定シ歲入歲出ノ總豫算ヲ編製セシメ以テ經費ノ統一ヲ圖リ法令ニ因ルノ外各廳特別ノ資金ヲ貯フルヲ禁シ以テ官物ヲ私スルノ弊ヲ防キ科目ノ分類ヲ正確ナラシメ以テ其收支ノ基ツク所ヲ明ニシ款項ノ流用ヲ嚴禁シ以テ經費濫出ノ弊ヲ制シ仕拂命令官ト現金出納官トノ分限ヲ明ニシ以テ出納ノ確實ヲ計リ政府ノ債權債務ニ關シテ時効ノ制ヲ採リ以テ會計ノ整頓ヲ期シ經費額ヲ繰越スノ餘裕ヲ與ヘ以テ事業完成ノ實ヲ舉ケシメ工事及物件ノ賣買ニハ競争入札ノ方法ヲ原則トシ以テ官民結託ノ弊ヲ戒メ出納官吏ノ責任ヲ明ニシ以テ出納ノ嚴正ヲ保タシメ其他會計ノ整理上特別ノ須要アルモノニハ特別會計ヲ立テシメ又實際ノ便宜上日本銀行ヲシテ國庫金ヲ取扱ハシムルヲ得ル等凡ソ其規定スル所寬嚴其要ヲ得緩急其宜シキニ適フ我國會計法規ノ整備セル蓋シ此時ニ在リト謂フヘシ今其全文ヲ掲載スルニ先チ大綱ニ就テ左ノ數項ニ分チ之ヲ説明セン

一 會計年度 毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス然レトモ其年度内ノ收支事務ハ翌年十一月三十日ヲ以テ完結ノ時期トス

二 豫算

(イ)總豫算 租稅其他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ之ヲ總豫算ニ編入スヘキモノトス

(ロ)豫備費 豫算中ニ豫備費ヲ設クヘキコトハ帝國憲法ノ明文アリ豫備費ノ内避ク可カラサル豫算ノ不足ヲ補フモノヲ第一豫備金トシ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノヲ第二豫備金トス

三 收入 租稅及其他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘク之ヲ徵收シ之ヲ收納スヘキ官吏ハ法律命令ヲ以テ之ヲ一定ス
各年度ノ歲計剩餘ハ之ヲ翌年度ノ歲入ニ編入シ豫算外ノ收入ハ之ヲ現年度ノ歲入ニ組入ル、ヲ要ス但シ前金渡概算繰替拂ヲナシタル場合ニ於ケル返納金ハ之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スルコトヲ得

四 支出

(イ)仕拂命令 仕拂命令ハ正常ナル債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス國庫ハ適法ナル仕拂命令ニ依ルニ非サレハ金錢ヲ仕拂フコトヲ得ス

(ロ)現金前渡 特別ノ經費ニシテ主任ノ官吏又ハ政府ノ命シタル銀行ヲシテ現金支拂ヲナサシムル必要アルトキハ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

(ハ)繰越使用 豫算ニ於テ特ニ明記アルモノ及一年度ニ終ルヘキ工事製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メニ事業ヲ遅延シ年度内ニ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得可ク繼續費ニ在リテハ毎年度ノ支拂殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越使用スルコトヲ

得

五 決算 豫算執行ノ正當ナルヤ否ヤハ決算ニ依テ之ヲ知ルヲ得ヘシ一年度ノ收支ハ會計検査院ニ於テ検査確定シ豫算ノ式ニ從ヒ總決算ヲ調製スヘキモノトス

六 時効 政府ノ債權債務ハ他ノ法律ニ特別ノ規定ナキ限りハ五年ヲ以テ消滅時効トス時効ノ起算點ハ當該年度經過後即チ翌年四月一日トス

時効中斷ノ方法ハ債務ニ在リテハ債主ノ支出又ハ仕拂ノ請求債權ニアリテハ當該官吏ノ上納告知トス

七 出納官吏 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ル官吏ハ出納官吏トシテ特ニ其出納ニ付一切ノ責任ヲ負フ水火盜難其他ノ事故ニ由リ保管ニ屬スル現金物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テモ其不可抗力ニ出ツル事ヲ證明シ會計検査院ノ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス從テ擔保トシテ身元保證金ヲ徵セラル、コトアル可シ

明治二十二年二月十一日公布ノ會計法ハ我國會計制度ノ上ニ一新紀元ヲ畫セルモノニシテ實ニ一國理財ノ重典タリ是ヲ以テ其立案起草ニ際シテハ最モ慎重ノ手段ヲ採リ當初大藏省ニ於テ調査ニ著手セル以來數歳ノ間審議查覈ノ後二十一年五月草案漸ク成リ之ヲ閣議ニ提出ス之ヲ第一草案ト爲ス閣議更ニ之ヲ改刪スルトコロアリ同年九月案ヲ具シテ樞密院ノ議ニ付ス之ヲ第二草案トナス樞密院ニ於テハ更ニ審議ヲ盡シ之ニ改正ヲ施シ勅裁ヲ經テ遂ニ之ヲ公布スルニ至レルナリ今會計法制定ノ由來ヲ詳ナラシメンカタメ左ニ其二草案ヲ示スヘシ

大藏省上奏二十一年五月十五日

本邦會計上ノ法令ハ漸次制定發布ヲ經タルモノ頗ル多シト雖モ其總則通規ヲ示スモノハ明治十四年四月制定ノ會計法ヲ以テ始トス翌十五年一月之ヲ改定シ爾後歲入出豫歲條規(十八年)及歲入歲出出納規則(十九年)ト相共ニ實行スト雖モ未タ完備ノ法タルヲ得ス而シテ國會ノ開設其期已ニ遠カラス十四年十月ノ聖勅ニ對シ各廳ニ於テ計畫準備ヲ要スル政務ノ中ニ就キ會計法ノ如キハ最モ緊急ノ事項ナルヲ以テ更ニ一層ノ改良ヲ施シ以テ恭シク聖勅ニ奉對セント欲スルノ意甚タ切ナリ故ニ先キニ僚屬若干員ヲ集メ專ラ既往ノ實驗ニ就キ將來ヲ推考シ研究討議數閱月ノ長キニ亘リ初メテ別冊會計法案ヲ編製セリ其實施取扱順序等ニ至リテハ現時ノ情勢ヲ酌量シ省煩節費ノ目的ニ據リ此法ノ範圍内ニ於テ隨時勅令ヲ以テ公布セラレンコトヲ欲スルニヨリ別ニ案ヲ具シテ提出スヘシ要スルニ別冊法案ハ會計上ノ原則ヲ定ムルモノニシテ萬已ムヲ得サルニアラサル以上ハ決シテ變更セサルモノトシ時時ノ勅令ハ法律ノ要領ヲ失ハスシテ取扱上ノ改良ヲ圖リ勉メテ簡易ヲ主トシ秩序ノ整然タルヲ期スルニ在リ果シテ是ノ如クナルトキハ敢テ民情時勢ニ違ハス經費ヲ要スルコト亦多カラス實行上平穩圓滑ナルヲ得ヘキハ疑ヲ容レサルナリ而シテ此法ニ據レハ歲計豫算ハ帝國議會ノ議ニ付スヘキモノナルモ此事タル明治二十三年ニ至ラサレハ行フヘカラサルヲ以テ其開設アラサルノ間ハ樞密院ヲシテ之ニ代ハラシメ二十二年度ノ豫算ヨリシテ同院ニ下付セラレンコトヲ希望ス果シテ然ラハ豫算ノ信用ヲ厚ウスルノミナラス又豫算其他會計上ノ疑義ニ關スル爭議ヲ審議スルノ任アル樞密院ヲシテ會計ノ實況ニ通曉セシムルノ便アルヘシ仍テ恭シク別冊法案一部ヲ上ツル伏シテ冀クハ閣議ヲ經速ニ上裁アランコトヲ謹奏

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入及歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度九月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

說明 本條第一項ハ年度期限ヲ定メ第二項ハ出納閉鎖ノ期限ヲ定ム

第二條 租稅其他一切ノ財源ヨリ收納スルモノ及ヒ收稅費其他一切ノ經費トシテ仕拂フモノハ總テ一般ノ歳計ニ編入スヘシ

各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ノ仕拂ニ充テ又各年度ニ屬スヘキ收入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ノ仕拂ニ充ルコトヲ得ス

說明 本條第一項ハ政府ノ歳入歳出ハ法律ヲ以テ取除カサレハ總テ毎年ノ豫算ニ編入スヘキヲ示シ第二項ハ年度所屬ノ混同ヲ禁ス

第三條 名義ノ如何ヲ問ハス法律ヲ以テ定メラレサル特別ノ資金ヲ所管スルヲ得ス又財産目錄ニ洩レタル備品及不動産ヲ所管スルヲ得ス

說明 本條ハ法律ノ許サ、ル資金ヲ置キ或ハ隱密ニ財産ヲ管理スルヲ禁ス

第四條 名義ノ如何ヲ問ハス法律ニ正條ナキ租稅賦役ヲ課スルコトヲ得ス若シ之ニ違フモノアルトキハ刑法第二百九十條ヲ以テ論スヘシ

本條ノ場合ニ於テハ其事務ヲ執行シタルモノ上官ノ命令ヲ受クルト雖モ刑法第七十六條ノ

例ヲ用ヒス

說明 本條ハ法律ノ許サ、ルニ民財ヲ徵收スルヲ禁シ其刑典ヲ示ス

第二章 豫算

第五條 各年度ニ於テ要スル所ノ政府ノ歳入及ヒ歳出ハ毎年帝國議會ニ於テ議決シ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

歳入歳出ノ總豫算書ハ前年度十二月一日マテニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

說明 本條ハ歳計決定ノ法ヲ定メ豫算書提出期ヲ示ス

第六條 政府ハ總豫算書ト共ニ左ノ書類ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

一 各省ノ豫定經費請求書

一 其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ總計算書

第七條 豫算定額ノ到底避クヘカラサル不足ヲ補充スル爲メ左ノ二項ヲ置キ各特別ノ定額ヲ許可ス

一 法律ノ執行ヨリ生シタル義務ノ經費ヲ支辨スヘキ第一豫備金

一 豫期スルヲ得サル必要ノ經費ヲ支辨スヘキ第二豫備金

說明 本條ハ豫備費設置ノ法ヲ定ム

第八條 第一豫備金ノ支出ハ會計検査院ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

第一豫備金ヲ以テ支出スヘキ經費ハ毎年度總豫算書ニ附記シテ其種類ヲ示スヘシ

說明 本條ハ第一豫備金支出ノ法ヲ定ム

第九條 第二豫備金ヲ以テ支辨スヘキ費途ハ會計検査院ノ同意ヲ得テ勅裁ヲ以テ之ヲ定メ次回ノ帝國議會開會ノ時直ニ之ヲ報告シテ其檢視ニ附スヘシ但シ帝國議會開會中ニアリテハ帝國議會ニ付シ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

說明 本條ハ第二豫備金支出ノ法ヲ定ム

第三章 收入

第十條 各年度ノ歳入ハ現ニ有效ナル法律規則ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

第十一條 歳入金ヲ金庫ニ拂込ムトキハ金庫ハ其目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ發スヘシ

右ノ領收證ハ拂込人ノ國庫ニ對スル義務ヲ解除スル證書トナルモノトス但右領收證ハ係リ官吏ニ於テ別符ヲ切離シ檢印ヲナスニアラサレハ其效ヲ有セス

說明 本條ハ拂込金領收ノ手續及領收書ノ性質ヲ定ム

第十二條 金庫ニ拂込レタル金額ハ其名義ノ如何ニ拘ラス總テ國庫ノ計算ニ立テ國庫ノ帳簿ニ記入スヘシ

說明 本條ハ金庫ノ取扱ニ係ル金錢ハ總テ國庫ノ出納タルヲ明カニス

第十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納及一般豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ編入スヘシ但第二十三條ノ場合ハ此限リニアラス

說明 本條ハ豫算書ニ豫期セサルモノト雖モ總テ臨時ノ收入ハ一般ノ歳計ニ編入スヘキ

ヲ示ス

第十四條 他ニ法律ヲ以テ定メタルモノ、外歳入未納金ノ全部又ハ一部分ノ棄捐若クハ延納許可ヲ要スルトキハ會計検査院ノ同意ヲ得テ勅裁ヲ以テ之ヲ定メ翌年度ニ於テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

說明 本條ハ官金ノ棄捐及延納ノ法ヲ定ム

第十五條 歳入ノ徵收ヲ掌ル所ノ官吏ハ其故意過失怠惰ニヨリ徵收スヘキ歳入ニ不納ヲ生スルトキハ總テ私財ヲ以テ政府ノ損失トナリタル金額ヲ辨償スヘシ

說明 本條ハ歳入ヲ取扱フ官吏ノ責任ヲ定ム

第四章 支出

第十六條 毎年度各省ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ歳入豫算ニ定ムル所ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

說明 本條ハ經費ヲ支辨スル基金ノ出處ヲ定ム

第十七條 各省大臣ハ各省ノ爲メニ設ケラレタル各項ノ定額ニ超過シテ經費ヲ使用スルヲ得ス

各省大臣ハ各省ノ爲メニ設ケラレタル經費ヲ其目的外ニ使用シ又ハ各項ノ定額ヲ彼是流用スルヲ得ス

各省大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ以テ經費ニ差繼キ使用スルコトヲ得ス

說明 本條ハ豫算決定ノ精神ニ違犯シ又ハ私ニ定額ヲ増加スルヲ禁ス

第十八條 各省大臣ハ歳出豫算定額又ハ臨時増額流用補充ノ許可ヲ得サル前ニ經費ノ支出トナルヘキ處分ヲナスヲ得ス

説明 本條ハ經費豫算ノ許可ヲ得シテ事業ヲ爲スヲ禁ス

第十九條 各省大臣ハ土地家屋ノ借入其他特ニ法律ヲ以テ許可セラレタル場合ノ外ハ一年度ノ外ニ涉リ經費ノ支出トナルヘキ契約ヲナスヲ得ス

説明 本條ハ各廳ニ於テ恣ニ政府ノ負債トナルヘキ契約ヲナスヲ禁ス

第二十條 各省大臣ハ其所管經費ヲ使用スル爲メ國庫ニ向ツテ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ

説明 本條ハ經費使用ノ法ヲ定ム

第二十一條 國庫ハ法律規則ニ反スル仕拂ノ命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スヲ得ス

説明 本條ハ仕拂ノ法ヲ定ム

第二十二條 各省大臣ハ直接ニ政府ノ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂ノ命令ヲ發スルヲ得ス

左ノ諸項ニ係ル經費ハ關係ノ官吏ニ現金前渡ヲナスヘキ命令ヲ發スルコトヲ得

第一 陸海軍隊及艦隊ニ屬スル必要止ヲ得サル經費

第二 在外各廳ノ經費

第三 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲナス經費

第四 運輸通信ノ便少ナキ内國ノ僻地ニ於テ仕拂ヲナス經費

第五 各官衙ノ應中常用雜費ニシテ一箇年ノ費額五百圓未滿ナルモノ

第六 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第七 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但一理事官毎ニ三千圓マテトス

説明 本條ハ命令發布ノ制限ヲ明ニス

第二十三條 法律規則ニ據リ前金渡概算繰替拂ヲナシタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂タル經費ノ定額ニ戻シ入ル、コトヲ得

説明 本條ハ定額ニ戻入ルヘキ返納金ノ種類ヲ定ム

第二十四條 經費支出ノ事務ヲ掌トル所ノ官吏ハ其故意過失怠惰ニ由リ政府ノ損失ヲ生スルトキハ總テ私財ヲ以テ其金額ヲ辨償スヘシ

説明 本條ハ支出ノ事務ヲ取扱フ官吏ノ責任ヲ定ム

第五章 決議

第二十五條 各年度ニ於テ執行シタル歳入歳出ハ帝國議會ニ於テ議決シ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム歳入歳出ノ總決算書ハ會計検査院ノ検査ヲ經テ年度後二箇年以内ニ之ヲ帝國議會ノ通常會ニ提出スヘシ

説明 本條ハ決算法ヲ定メ且ツ決算書提出ノ期限ヲ示ス

第二十六條 總決算書ニハ豫算書ト同一ノ區別ヲ立テ左ノ事項ノ計算ヲ示スヘシ
歳入ノ部
一歳入豫算額

一四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ間ニ測定濟トナリタル歳入額

一 徵收済トナリタル歳入額
 一 徵收未済トナリタル歳入額
 歳出ノ部

一 歳出豫算定額及豫算決定後ニ修正追加シタル定額
 一 四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテノ間ニ契約済トナリタル歳出額
 一 命令済トナリタル歳出額
 一 仕拂済トナリタル歳出額
 一 仕拂未済トナリタル歳出額
 一 翌年度ヘ繰越スヘキ歳出額
 一 歳出残額

説明 本條ハ決算書ノ計算法ヲ示ス

第二十七條 政府ハ總決算書ト共ニ左ノ書類ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

一 各省決算報告書
 一 官有財産計算書

説明 本條ハ計算書ニ添付スヘキ書類ヲ定ム

第二十八條 各年度ニ於テ歳入ニ殘餘アルトキハ其翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

説明 本條ハ歳入殘餘ノ處分ヲ定ム

第二十九條 一年度内ニ竣了スヘキ契約ヲナシタル請負工事ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲

メニ竣了遅延シ年度以内ニ債主ニ對シ支出ヲ了セサリシ經費定額ハ之ヲ翌年度マテ繰越ス
 コトヲ得

説明 本條ハ工事費繰越ノ法ヲ定ム

第三十條 數年ヲ期シテ竣工スル工事ノ定額ハ毎年度ノ使用殘額ヲ竣工豫定ノ年度マテ順次
 繰越シ使用スルコトヲ得

説明 前條ニ同シ

第三十一條 各年度ニ於テ契約済トナリタル經費ニシテ年度以内ニ支出ノ請求ナキ定額及年
 度後六箇月ヲ過キテ仕拂ノ請求ナキ金額ハ其所屬年度後五箇年度間順次翌年度ニ繰越シ使
 用スルコトヲ得

説明 本條ハ未請求ノ定額及基金繰越ノ法ヲ定ム

第三十二條 出納ノ閉鎖シタル年度ニ屬スル收入ヲ徵收シタルトキハ現年度ノ歳入ニ編入ス
 ヘシ

説明 本條ハ出納閉鎖後納入金ノ編入法ヲ示ス

第三十三條 政府ノ負債ニシテ其所屬年度經過後五箇年以内ニ債主ヨリ支出ノ請求ヲナサ、
 ルモノ及仕拂ノ請求ヲナサ、ルモノハ期滿失權トシテ政府ノ所得ニ歸スヘシ
 特別ノ法律又ハ契約ニ據リ別ニ期滿失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ據ル

説明 本條ハ期滿失權ノ法ヲ定ム

第三十四條 政府ノ所爲又ハ訴訟事件ニ妨ケラレ支出若クハ仕拂ノ請求ヲナス能ハサルトキ

ハ前條ヲ適用セス但本條ノ事故終リタルトキハ其事故終リタル年度ヨリ起算シテ前條ニ據ル
說明 本條ハ前條ノ取除ヲ示ス。

第三十五條 各債主ハ支出ヲ受クヘキ各省大臣ニ就キ其支出ノ請求ヲナシタル時日及證據ト
シテ出セル書類ヲ記シタル領收證ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

說明 本條ハ債主保護ノ方法ヲ定ム

第三十六條 第三十四條ニ據リ期滿失權トナラサル金額ハ其負債ノ所屬年度經過後滿五箇年
ニ至レハ債主ノ權利ヲ存シテ之ヲ預金局ニ預ケ入レ以テ國庫ノ支拂ヲ完結スヘシ

說明 本條ハ期滿失權トナラサル基金ノ處分法ヲ定ム

第三十七條 人民ヨリ政府ニ納ムヘキ收入金ニシテ其納ムヘキ相當年度ノ經過後五箇年以内
ニ納入ノ告知並ニ督促ヲ受ケサルモノハ納入ノ義務ヲ免ルモノトス但特別ノ法律ヲ以テ納
入金ノ期滿得免ノ期限ヲ定メタルモノハ本條ニ據ルノ限リニアラス

說明 本條ハ收入金期滿得免ノ法ヲ定ム

第六章 取引

第三十八條 官有財産ノ賣却讓渡及交換ハ法律ヲ以テ許可ス但永久ノ官有財産ト定メサル動
産不動産ニ係ルモノハ此限ニアラス

說明 本條ハ不動産賣却ノ法ヲ定ム

第三十九條 政府ノ收入又ハ經費トナルヘキ取引ハ總テ公告シ競争ニ付スヘシ但左ノ場合ニ
於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ據ルヲ得ヘシ

第一 一人ニテ專有スル物品ヲ買入又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ事情アルトキ要スル物品ヲ買入レ又ハ運送スルトキ但此
場合ニ於テハ豫メ勅裁ヲ請フヘシ

第三 非常急遽ノ際工事及物品ノ買入借入運送ヲナスニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ產出ノ場所又ハ生産者ヨリ直接ニ物品ノ
買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニアラサレハ爲シ得ヘカラサル美術工藝品及機械ヲ注文スルトキ

第六 土地家屋ヲ借入又ハ買入ル、ニ當リ特別ノ狀況ニ據リ競争ニ付シ難キトキ

第七 競争ニ付スルモ競争者ナキトキ又ハ競争者アルモ其價格政府ニ於テ豫定シタル制限
ニ達セサルトキ但此場合ニ於テハ競争ニ付スル爲メ豫メ定メタル箇條及價格ノ制限ヲ變
更シテ政府ノ利益ヲ傷フヲ得ス

第八 同一ノ契約者ニ對シ一年度五百圓ヲ超エサル所ノ取引ノ契約ヲナストキ

第九 同一ノ契約者ニ對シ一年度見積價格二百圓ヲ超エサル所ノ不用ノ動産ヲ賣拂フトキ

第十 毎年ノ見積收入百圓ヲ超エサル處ノ土地家屋及他ノ不動産ヲ貸付年限六箇年以内ニ
テ同一ノ契約者ニ貸付スルトキ

第十一 行軍演習ノ爲メ損害ヲ與ヘタル作物等ヲ買入ル、トキ

第十二 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十三 試験ノ爲メ耕作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十四 慈善ノ爲メニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ又ハ其生産物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十五 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ生産物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其生産物品ヲ買入ル、トキ

第十六 政府ノ設立ニ係ル農工業場ノ生産物品及囚徒ノ生産物品ヲ賣拂フトキ

第十七 貨幣金銀塊及爆發物ヲ運送スルトキ
説明 本條ハ賣買貸借等取引ニ係ル取扱法ヲ定ム

第四十條 取引ノ競争ニ加ハラントスルモノ及競争ニ據リ契約ヲナスモノハ相當ノ資力ヲ有スルコトヲ證スルカ爲メ政府ニ於テ定メタル身元保證金ヲ納ムヘシ

第四十一條 官有ノ動産不動産ノ賣却代金ハ其年度ノ收入トシテ歳入ニ編入スヘシ
説明 本條ハ官有物拂下代ノ編入法ヲ示ス

第四十二條 取引ヲナスニ當リテハ既済ノ事業及既納ノ物品ニ對シ仕拂ヲナシ決シテ前拂ヲ行フヘカラス但第三十九條第十四項ノ場合若クハ信用確實ナル商人商社ノ習慣トシテ前金ヲ受取ラサレハ工事或ハ物品供給ヲ爲サ、ルモノト約定ヲナストキ若クハ軍艦兵器彈藥ノ製造ヲ注文スルトキハ此限ニアラス
説明 本條ハ前拂ヲ禁ス

第七章 會計官吏

第四十三條 政府ニ屬スル金錢ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其取扱フ所ノ金錢ニ付テ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ
説明 本條ハ現金取扱官吏ノ責任ヲ定ム

第四十四條 金錢ノ出納ヲ掌ル處ノ官吏其保管スル所ノ金錢ヲ失ヒ又ハ盜マレタル場合ト雖モ其保管上過失ナク相當ノ防衛ヲ盡シテ當リ難キ天災強奪ニ係リタル事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニアラサレハ其負擔ノ責ヲ免ル、ヲ得ス
説明 本條ハ現金取扱官吏ノ責任ハ本文ノ場合ノ外免ルヘカラサルヲ示ス

第四十五條 政府ニ屬スル物品ノ出入ヲ掌トル所ノ官吏ハ其監守スル所ノ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ
説明 本條ハ物品取扱官吏ノ責任ヲ定ム

第四十六條 仕拂命令官財務行政官ノ職務ハ金錢出納ノ職務ト兼行スルヲ得ス
説明 本條ハ會計官吏ノ取締ヲ嚴ニス

第四十七條 歳入ノ徵收ヲ掌トリ若クハ經費支出ノ事務ヲ掌トル所ノ官吏ハ其取扱フ所ノ事務ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ
説明 本條ハ會計ヲ處理スル官吏ノ責任ヲ定ム

第四十八條 金錢ノ出納ヲ掌トルモノハ毎年度各其管理スル所ノ會計事務ノ計算書ヲ調製シ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ
物品ノ出入ヲ掌トリ若クハ歳入ノ徵收ヲ掌トリ若クハ經費支出ノ事務ヲ掌トルモノ亦同シ

說明 本條ハ會計官吏ノ計算書提出ノ法ヲ定ム

第四十九條 金錢ノ出納物品ノ出入ヲ掌トルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

保證金ヲ納ムヘキ官吏ハ行政規則ヲ以テ定メタル身元保證ノ手續ヲナシタル後ニアラサレハ其職ニ就クコトヲ得ス

說明 本條ハ會計官吏身元保證ノ法ヲ定ム

第五十條 第四十三條第四十七條ニ據リ責任ヲ有スル官吏ノ財産ニ對シ政府ハ先取ノ權ヲ有ス

說明 本條ハ會計官吏ノ財産ニ對スル政府ノ特權ヲ定ム

第八章 雜則

第五十一條 事務ノ性質トシテ一般ノ歲計ニ編入セス特別ノ會計ヲ立ルヲ必要トスルモノハ法律ヲ以テ之ヲ定メ其會計規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

說明 本條ハ特別會計ノ法ヲ示ス

第五十二條 一般ノ歲計ニ編入セサル特別資金收支ノ豫算決算ハ附録トシテ歲入歲出ノ豫算書決算書ニ掲クヘシ

右資金ノ出納ハ總テ國庫ノ計算ニ立テ且ツ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

說明 本條ハ特別會計ト雖モ其計算ヲ公ニシ且ツ國庫ノ管理外ニ置クヘカラサルコトヲ示ス

第五十三條 金庫ノ取扱ハ期限ヲ定メテ之ヲ日本銀行ニ委託スルコトヲ得

說明 本條ハ現金ノ出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヲ示ス

第九章 附則

第五十四條 本法ノ施行前ニ生シタル政府ノ負債義務消滅ノ期限及人民ヨリ政府ニ納ムヘキ收入金期滿得免ノ期限ハ特ニ本法施行ノ日ヨリ起算スヘシ但既ニ別段ノ法律規則ヲ以テ期限ノ算法ヲ定メタルモノハ此限ニアラス

說明 本條ハ政府及人民ノ負債義務消滅期限ノ起算法ヲ定ム

第五十五條 本法ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但帝國議會ニ關スル事項ハ其開設マテ樞密院ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

本法ト牴觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

右大藏大臣ヨリ閣議ニ提出セル會計法改正草案ハ更ニ内閣法制局ニ於テ審査修正ヲ加ヘ内閣總理大臣ヨリ之ヲ奏上シ樞密院ノ議ニ付セラレタリ

法制局稟申 (二十一年九月二十四日)

別冊大藏大臣提出會計法改正案本局ニ於テ同省主任官ト評議ノ上朱書ノ通修正ヲ加ヘ謹テ上申ス

内閣總理大臣上奏 (二十一年九月二十七日)

大藏大臣進ムル所ノ會計法草案ハ憲法ト密切ノ關係ヲ有シ最重要ノ法案タリ茲ニ謹テ奏上シ陛下ノ裁擇ヲ仰キ併セテ樞密院ノ議ニ付セラレンコトヲ請フ

會計法草案

會計法草案總說明

此會計法草案ハ大體ヲ十一章ニ分チ更ニ之ヲ四十四箇條ニ小分セリ此會計法ハ現今行ハル、處ノ會計法トハ全ク性質ヲ異ニセリ抑モ現行會計法ハ明治十五年一月ニ制定セラレタルモノニシテ爾來我財務上ノ行政ハ豫算條規出納規則等ノ發布ニヨリ著シク變革進歩シタルヲ以テ今日ニ在テハ現行會計法中ノ箇條ハ多クハ空文ニ屬セリ殊ニ現行會計法ハ會計ノ基礎ヲ定ムル處ノ根源法トシテ考フルヨリモ寧ロ會計上ノ事務手續ヲ定ムル所ノ命令規則ノ部類ニ屬スルヲ以テ今日ニ於テハ如何ニ修正ヲ加フルトモ到底之ヲ用フルコト能ハサルナリ今此會計法案ハ專ラ會計ノ原則ニ係ル箇條ノミヲ掲ケ其細則ハ別ニ之ヲ定メントスルモノナリ

此會計法案中ニ掲クル箇條ハ既ニ現行法中ニ存スルモノアリト雖モ多クハ現行法ノ緩慢ニ流レタルヲ嚴ニシ若クハ未タ現行法中ニ備ハラサル所ノモノヲ新ニ加ヘタルモノナリ今其重モナルモノヲ舉クレハ

- 第一 隱密資金及隱密財産ノ禁令ヲ嚴ニシ以テ官金及官有財産ヲ私スルノ弊習ヲ杜絶シ又財産目錄調製ノ制ヲ定メタルカ如キ(本法第三條)
- 第二 法律ノ明文ナキ賦金歩合金賦役等ヲ課スルノ禁令ヲ明ニシ租稅ト手数料トノ別ヲ定メタルカ如キ(本法第四條)
- 第三 豫算書及決算書ヲ帝國議會ニ提出スルノ期限及其他會計上ニ關スル議會ト政府トノ關係ヲ定メタルカ如キ(本法第五條第十條第十三條第二十一條第三十一條)

第四 豫備金支出ノ方法ヲ明カニシ竝ニ歳入不足補充ノ方法ヲ定メタルカ如キ第八條第九條第十四條

第五 歳入金納入ニ付義務解除ノ方法ヲ明ニシ併セテ右納入金檢證官吏ノ制ヲ設ケ納入ノ檢束ヲ嚴ニセルカ如キ(本法第十二條)

第六 仕拂命令發行ノ方法ヲ嚴ニシ而シテ現金前渡ノ方法ノ餘地ヲ與ヘタルカ如キ(本法第十七條第十八條第十九條)

第七 年度開始前ニ係ル支出ノ方法ヲ定メタルカ如キ(本法第二十條)

第八 定額繰越ニ制度ヲ設ケ及定額戻入ヲ嚴ニシタルカ如キ(本法第二十四條第二十五條第二十七條)

第九 債主權消滅ノ期限ヲ定メタルカ如キ(本法第二十八條第三十條)

第十 官有財産ノ賣却讓與及政府ノ工事及物品取引ノ取締ヲ嚴ニシタルカ如キ(本法第三十一條第三十二條第三十三條)

第十一 金錢及物品ヲ取扱フ處ノ官吏ノ責任身元保證及財産先取ノ制ヲ設ケタルカ如キ(本法第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條)

第十二 仕拂命令官ト現金取扱官トノ職務區分ヲ嚴ニシ又歳入出ノ事務ニ關係スル官吏ノ責任ヲ明ニシタルカ如キ(本法第三十七條第三十八條)

第十三 特別會計ノ基礎ヲ置キタルカ如キ(本法第四十條)

第十四 國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ委託スルコトヲ明ニシタルカ如キ(本法第四十一條)

以上是ナリ

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入及歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度九月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

說明 本條第一項ハ政府ノ會計ハ必ス十二箇月ヲ以テ一期ト爲スヘキヲ規定シタルモノニシテ現今ノ制ト異ナル所ナシ

本條第二項ハ一會計年度ノ會計ヲ整理スヘキ猶豫期限ヲ定メタルモノニシテ現今ノ制ニ比スレハ三箇月ヲ短縮シ六箇月ト爲セリ○本項ニ「九月三十日マテニ云云」トアルハ國庫ノ出納ハ一時ニ閉鎖シ得ヘキニアラス先ツ地方ノ小金庫ヨリ漸次ニ閉鎖シ此日ニ至テ中央金庫ヲ閉鎖スルノ順序ナルヲ以テ其意ヲ含マセタルナリ

第二條 租税及其他一切ノ財源ヨリ收納スルモノヲ歳入トシ收稅費其他一切ノ經費トシテ仕拂フモノヲ歳出トシ歳入歳出ハ總テ一切ノ歳計ニ編入スヘシ
各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ノ仕拂ニ充テ又各年度ニ屬スヘキ收入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ノ仕拂ニ充ルコトヲ得ス

說明 本條第一項ハ歳入ト歳出トノ成立ヲ明ニシ歳入出共ニ悉皆歳計ニ掲ケ一モ洩スヘカラサルコトヲ定メタルナリ○本項ニ「收稅費其他云云」トアリ殊更ニ收稅費ヲ掲出シタル

ハ豫算調製上收稅費ヲ歳入中ヨリ引去リ單ニ歳入ノ純計ノミヲ示スノ計算アリ此計算ハ甚々弊アルヲ以テ本法ニ於テハ此計算ニ據ラス歳入出ノ總計ヲ豫算ニ掲クルコトヲ明ニセンカ爲ナリ

本條第二項ハ甲乙兩年度ノ會計ヲ混同スヘカラサルコトヲ定メタルモノナリ

第三條 名義ノ如何ヲ問ハス法律ヲ以テ定メラレサル特別ノ資金ヲ所管スルヲ得ス又財産目錄ニ洩レタル備品及不動産ヲ所管スルヲ得ス

說明 財産目錄トハ各應所管ノ備品及不動産ヲ明細列記シタルモノヲ云フ此目錄ハ大藏省及會計検査院カ官有財産ヲ監理スルニ缺クヘカラサルモノナリ○備品トハ椅卓等備付ノ品ヲ云フ筆紙墨薪炭油等備付ニアラサル物品ハ別ニ監理ノ規則アルヲ以テ本條ニ掲ケス(本法第三十四條第三十五條第三十六條ヲ參照セヨ)

第四條 名義ノ如何ヲ問ハス法律ノ效力ニ據ラスシテ租稅賦役ヲ課スルヲ得ス但手数料ノ類ハ命令ヲ以テ之ヲ課スルコトヲ得

說明 本條ニ租稅トアルハ一般國民ノ義務トシテ課スル所ノ金錢物品ヲ云ヒ賦役トアルハ一般國民ノ義務トシテ課スル所ノ勞力ヲ云フ又手数料トアルハ版權登錄料商標登錄料海外旅行券手数料博覽會入場料等政府カ別ニ強迫スルニアラスシテ或ル人民ニ對シ或ル手數ヲナシタルカ爲メニ收入スル所ノモノヲ云フ

第二章 豫算

第五條 政府ハ歳入歳出ノ總豫算書ヲ前年度十二月一日マテニ帝國議會ニ提出スヘシ

説明 本條豫算書提出ヨリ年度開始マテ中間四箇月ノ餘裕ヲ存ス帝國議會ハ此四箇月間ニ於テ豫算ヲ議定シ得ヘキ見込ナリ

第六條 歳入歳出ノ總豫算書ニハ左ノ文書ヲ添付スヘシ
各省ノ豫定經費要求書

其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ總計算書

説明 各省ノ豫定經費要求書トハ各省ニ於テ毎年度ニ要スル經費額ヲ豫算シタル計算書ナリ此計算書ヲ集合シテ大藏省ハ總豫算書ヲ作ルナリ故ニ總豫算ノ明細内譯ヲ見ル爲メ其要求書ノ提出ヲ必用トス

其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ總計算書トハ例セハ二十三年十月ニ帝國議會カ會合スルモノトセハ二十三年三月三十一日ニ終リタル會計年度ハ即チ二十二年ナリ此年度ハ二十三年九月三十日ヲ以テ出納ヲ閉鎖シタルモノナレハ此年度ノ歳入出計算ハ議會カ二十四年度(二十三年度ハ現ニ開キアル年度ナリ)ノ豫算ヲ議スルニツキ比準ヲ取ル爲メ最モ必要ナリトス而シテ此二十二年度ノ決算ハ尙ホ二年餘ヲ經サレハ調製済トナラサルヲ以テ該年度ノ總計算書ヲ作り之ヲ提出スルナリ此總計算書ハ國庫ノ帳簿ニヨリ歳入出ノ現計ヲ掲クルモノナレハ決算書ノ計算トハ素ヨリ増減アルヘキモ大ナル差異ハナキモノトス

第七條 總豫算書ノ科目ハ政府ノ定ムル所ニ據ルヘシ

説明 科目トハ各省ノ經費ヲ分類シタルモノニシテ此總豫算書ノ科目ハ一科目毎ニ帝國

議會ノ議決ヲ要スルモノトス

第八條 豫算定額ノ避クヘカラサル不足ヲ補充スル爲メニ豫備金ヲ置キ之ヲ左ノ二項ニ分ツ
法律ノ執行ヨリ生シタル義務ノ經費ヲ支辨スヘキ第一豫備金
豫期スルヲ得サル必要ノ經費ヲ支辨スヘキ第二豫備金

説明 法律ノ執行ヨリ生シタル義務ノ經費トハ恩給年金死亡賜金ノ類ヲ云フ豫期スルヲ得サル必要ノ經費トハ天災等臨時事變ニ係ル經費ヲ云フ

第九條 第一豫備金ノ支出ハ大藏大臣之ヲ定メ第二豫備金ノ支出ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一豫備金ヲ以テ支出スヘキ經費ノ種類ハ毎年度總豫算書ニ附記シテ之ヲ示スヘシ

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタル費途ハ年度經過後ノ帝國議會開會ニ於テ其承諾ヲ求ムヘシ

第三章 收入

第十一條 各年度ノ歳入ハ現ニ有效ナル法律命令ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

第十二條 歳入金ヲ金庫ニ納入スルトキハ金庫ハ其目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ發スヘシ

右ノ領收證ハ納人ノ政府ニ對スル義務ヲ解除スル證書トナルモノトス但右領收證ハ係リ官吏ニ於テ別符ヲ切離シ檢印ヲナスニ非ラサレハ其效ヲ有セス

説明 本條ハ納人ノ義務解除ノ方法ヲ定メタルモノナリ○別符付ノ領收證トハ出納上ノ用語ニシテ數枚連續シ割印ヲ以テ偽造ヲ防キ渡人受取人雙方ニ各一枚ヲ留メ置ク様ニ作リタル證書ナリ

本條第二項但書係リ官吏トハ右但書ノ職務ヲ行フ爲メ置カレタル官吏ト云フコトニシテ此官吏ハ即チ歳入金ノ賦課ヲ掌ル所ノモノナリ抑モ納人ノ義務ハ歳入ヲ賦課シタルモノニ於テ納人ハ果シテ自己カ賦課シタル通り相違ナク現金ヲ金庫ニ納入シタルヤヲ認メ初メテ解除ヲ與フルモノナリ故ニ本條第二項但書ノ手續ヲ要ス且ツ又政府カ單ニ金庫ノ報告ノミニ依頼スルトキハ金庫カ告クルニ實ヲ以テセサルトキ恐ルヘキ弊ヲ生スヘシ故ニ係リ官吏ノ報告ト金庫ノ報告ト兩様ノ報告ニヨリ其弊ヲ防カントスルナリ

第十三條 他ニ法律ヲ以テ定メタルモノ、外歳入未納金其他政府ニ對スル負債ノ全部又ハ一部分ノ棄捐若クハ延納許可ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ年度經過後ノ帝國議會開會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

說明 法律ヲ以テ棄捐若クハ延納ノ事ヲ定メタルモノハ其定ムル所ニヨル其法律ノ規定ナキモノハ必ス一勅裁ヲ經テ處分シ後ニ之ヲ帝國議會ニ報告スルモノトシ其事ノ濫リニ行ハレサル様ニ爲シタルモノナリ

第四章 支出

第十四條 毎年度各省ノ經費ニ充ル所ノ定額ハ政府ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但天災其他臨時事變ノ爲メ歳入徵收高ノ豫算ニ達セス若クハ豫算外臨時支出ノ多カリシ爲メニ豫備金ニ不足ヲ生シタルトキハ一時大藏省證券ヲ發行シテ其不足ヲ補フコトヲ得

說明 本條ニ各省トノミアリテ閣院廳等ノ名稱ナシ之ハ此等諸官廳ノ經費ハ自今大藏省

ニ於テ直管シ該省ノ豫算ニ編入スルノ見込ナルヲ以テナリ

第十五條 各省大臣ハ各省ノ爲メニ設ケラレタル各項ノ定額ニ超過シテ經費ヲ使用スルヲ得ス各省大臣ハ豫算ヲ以テ定メタル目的ノ外ニ經費ヲ使用シ又ハ豫算書ニ特ニ許可スルモノヲ除クノ外各項ノ定額ヲ彼此流用スルコト得ス

各省大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ以テ經費ニ差繼キ使用スルコトヲ得ス

說明 本條ニ各項ノ定額トアル各項トハ第七條ニ於テ說明セル總豫算書ノ科目即チ議決科目ヲ云フナリ

本條第三項ニ經費ニ差繼トアル差繼トハ出納上ノ用語ニシテ例セハ破損シタル椅卓ヲ賣却シ其代金ハ歳入ニ編入シテ國庫ニ納ムヘキヲ納メスシテ之ヲ以テ直ニ椅卓ヲ新調スル如キヲ云フ

第十六條 各省大臣ハ土地家屋ノ借入及特ニ法律ヲ以テ許可セラレタル場合ヲ除クノ外ハ一年度ノ外ニ涉リ經費ノ支出トナルヘキ契約ヲナスヲ得ス

說明 一年度ノ外ニ涉リ經費ノ支出トナルヘキ契約ヲナストハ例セハ某官廳カ某鑛山ト十箇年間毎年何百噸ノ石炭ヲ買入ルノ契約ヲ結フカ如キヲ云フ總テ如此契約ハ一年毎ニ取結ハシメテ事務上差支ナキノミナラス會計上ノ弊少ク且ツ豫算ハ通常一年度毎ニ定額ヲ許可スルノ精神ナルヲ以テ本條ノ制限ヲ設ケタルナリ

土地家屋ノ借入ハ永期ノ契約ニ非レハ實際不便且不利益ナルヲ以テ特ニ數年ニ跨ルヲ許ス

恩給ヲ附與スル如キ終身官ヲ任命スル如キ其他事業ノ大ナルモノハ經費ノ數年ニ跨ルモノ多シト雖モ之レ等ハ法律ノ規定アルヲ以テ差支ナキナリ

第十七條 各省大臣ハ其所管經費ヲ使用スル爲メ國庫ニ向テ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ
說明 所管經費トハ各省大臣ノ權限ニ屬スル事務ノ費用ヲ云フ

仕拂ノ命令ヲ發スルトハ各省大臣カ一人ニ向テ仕拂ヲ爲ストキ金若干何何ノ爲メニ何ノ誰ヘ仕拂フヘキ旨ヲ國庫ニ命スルナリ蓋シ各省大臣ハ豫算ヲ以テ毎年其使用シ得ヘキ定額ヲ附與セラルト雖モ現金ハ一切國庫ノ所管ニ屬シ各省大臣ノ手モトニ在ラサルヲ以テ入用ノ都度命令ヲ以テ仕拂ヲ爲スナリ

第十八條 國庫ハ法律規則ニ反スル仕拂ノ命令ニ對シテ仕拂ヲナスヲ得ス

第十九條 各省大臣ハ直接ニ政府ノ正當ナル債主若クハ代理人ノ爲メニスルニ非サレハ仕拂ノ命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ニ係ル經費ハ關係ノ官吏ニ現金前渡ヲナスヘキ命令ヲ發スルコトヲ得

- 第一 軍隊及ヒ艦隊ニ屬スル經費
- 第二 在外各處ノ經費
- 第三 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲナス經費
- 第四 運輸通信ノ便少ナキ内國ノ地方ニ於テ仕拂ヒヲ爲ス經費
- 第五 各官衙ノ應中常用雜費ニシテ一箇年ノ費額五百圓ニ滿サルモノ
- 第六 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第七 各處ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但一理事官毎ニ三千圓マテヲ限ル

說明 本條第二項ノ現金前渡云云トハ既ニ第十七條ニ於テ説明セシ如ク現金ノ仕拂ハ總テ國庫カ直接ニ取扱フノ本則ナレトモ本條第二項ノ第一ヨリ第七ニ至ル場合ハ國庫ニ於テ取扱ヲナサントスルトキハ反テ費用ヲ要スルコト多キヲ以テ豫メ概算ヲ以テ現金ヲ主任官吏ニ交付シ仕拂濟ノ後テ決算ヲ爲サシムルナリ此現金ノ交付ヲ受クル所ノ官吏ハ素ヨリ政府ノ正當ナル債主ニ非サレトモ國庫ヨリ現金ヲ拂出スノ手續ハ同様ナルヲ以テ國庫ハ各省大臣ノ命令アルニアラサレハ仕拂サハルナリ

本條第二項ノ第五ニ常用雜費トアルハ官吏ノ俸給等ハ含マス單ニ日用ノ雜費ヲ云フナリ其金額ヲ五百圓ト定メタルハ現金ヲ交付スルノ危險ト出納ノ費用トヲ參酌シテ算出セルナリ○同第六ハ測量等ノ爲メ臨時ニ設ケタル出張所ニシテ時時場所ヲ移轉スルカ爲メ出納所ヲシテ仕拂ヲ爲サシムルヲ不便トスルモノナリ○同第七ハ各處ニ於テ特別ノ事情ニヨリ請負ヲ以テ工事ヲ爲サシメスシテ自ラ技師ヲ雇ヒ工夫ヲ使役シテ工事ニ從事スルトキハ日日ノ賃錢等小口ノ仕拂多キヲ以テ之カ爲メ一國庫ニ向テ仕拂ノ命令ヲ發スルハ其煩ニ堪ヘス故ニ理事官ヲ定メ此者ニ責任ヲ負ハシメ現金ヲ交付シ仕拂濟ノ後決算ヲ爲サシムルナリ其金額ヲ三千圓ト定メタルハ各國ノ規則ト我國ノ事情トヲ參酌シテ算出シタルナリ

第二十條 前條第一第二第三第四ノ經費中必要止ムヲ得サルモノニ限り年度開始前六箇月以内ニ於テ命令ヲ發スルコトヲ得但其年度仕拂ノ豫算決定前ニ在リテハ恒例ニ係ル經費及法

律ニ據リ仕拂フヘキ經費ノ外命令スルヲ得ス

説明 本條ハ航海中新年度ニ移ルトキ若クハ廻金ニ數箇月ヲ要シ若クハ氷雪ノ爲メ冬期交通ヲ絶ツ如キ場合ニ於テ必要トス

第五章 決算

第二十一條 歳入歳出ノ總決算書ハ會計検査院ノ検査ヲ經テ年度後滿三箇年内ニ政府ヨリ之ヲ帝國議會ノ通常會ニ提出スヘシ

第二十二條 歳入歳出ノ總決算書ニハ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債明細書

第三 官有財産計算書

第四 特別會計計算書

第六章 歳入殘餘定額繰越年度後收支定額戻入及期滿失權

第二十三條 各年度ニ於テ歳入ニ殘餘アルトキハ其翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

説明 歳入ニ殘餘云云トハ歳入ヲ以テ悉皆歳出ヲ支辨シ尙ホ殘餘ヲ生シタル場合ナリ

第二十四條 一年度内ニ竣功スヘキ工事ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メニ竣功遅延シ年度内ニ債主ニ對シ支出ヲ終ラサリシ經費額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

説明 債主ニ對シ支出ヲ終ラサリシ云云トハ債主ニ對シ負債ノ精算ヲナシ仕拂ノ命令ヲ國庫ニ向テ發スル手續ヲ終了セサリシヲ云フ

第二十五條 數年ヲ期シテ竣功スル工事ニシテ其定額ヲ毎年度ノ豫算ニ於テ許可スルモノハ

毎年度ノ使用殘額ヲ竣功豫算ノ年度マテ順次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十六條 出納ノ閉鎖シタル年度ニ屬スル收入ヲ徵收シタルトキハ其徵收シタル現年度ノ

歳入ニ編入スヘシ

各年度ニ於テ契約済トナリタル經費ニシテ支出ヲ命令スヘキ期限内ニ命令シ能ハサリシモノハ支出年度ノ歳出トナスヘシ

第二十七條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納及一切ノ豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ編入スヘシ

但法律命令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲナシタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル

經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

説明 豫算外ノ收入トハ盜難辨償金等ノ如キ豫算ニハ見積ラサルモ正當ニ政府ニ所屬スル收入ヲ云フナリ○前金渡トハ本法第三十三條但書ノ場合ノ如ク未タ事ノ出來上ラサル

前ニ仕拂ヲ爲スモノヲ云フ○概算渡トハ經費ノ額精密ニ豫定シ難キヲ以テ凡ソノ見積リ

ヲ以テ現金ヲ渡シ置キ後ニ精算ヲ爲サシムルヲ云フ○繰替拂トハ例セハ在外公館ニ於テ

本邦ノ或官廳ノ依頼ニ依リ物品ヲ買ヒ入ル、トキハ一時右公館ノ定額ヲ以テ仕拂ヲ爲シ

追テ右官廳ヨリ該公館ニ代金ヲ拂戻ス如キヲ云フ○定額ニ戻入ルトハ右前金渡概算渡繰

替拂ヲ爲ストキ一旦定額ヨリ拂出スモ前金ノ不用トナリ又ハ精算ノ上殘餘アリ又拂戻ノ

爲メ返納金アルトキハ原ノ定額ニ組入更ニ他ノ費用ニ供スルコトヲ得セシムルヲ云フ

前金渡概算渡線替拂ハ會計上弊ヲ生シ易ク又定額戻入ハ其手續煩ハシキヲ以テ特ニ法律命令ニヨリ定メラレタル場合ニ限リ之ヲ許スナリ

第二十八條 政府ノ負債ニシテ其所屬年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若クハ仕拂ノ請求ヲナサハルモノハ期滿失權トシテ政府ハ其負債義務ヲ免ルモノトス但特別ノ法律ヲ以テ期滿失權ノ期限ヲ定メタルモノハ其定ムル所ニ依ル

說明 本條ニアル支出トハ仕拂命令ヲ發スルマテノ手續ヲ云ヒ仕拂トハ命令ニ對シ現金ヲ交付スルヲ云フ○本條ニ定メタル期滿失權ノ期限ハ各國會計法ニ定ムル所ヲ參酌ス○本條但書特別ノ法律トハ現行法令中ニ在テハ郵便條例第二百五條第百二十六條第百二十七條第百四十七條官吏恩給令第二十六條陸軍及海軍恩給令第八條ノ二項整理公債條例第十四條海軍公債條例第九條新舊公債證書條例第五條第五節大藏省證券條例第八條等ヲ云フ

第二十九條 政府ノ所爲又ハ訴訟事件ニ妨ケラレ支出若クハ仕拂ノ請求ヲナス能ハサルトキハ前條ヲ適用セス但其事故終リタルトキハ其時日ヨリ起算シテ仍前條ニ依ル

第三十條 政府ニ納ムヘキ收入金ニシテ其所屬年度經過後滿五箇年內ニ納入ノ告知督促ヲ受ケサルモノハ納入ノ義務ヲ免ルヘシ但特別ノ法律ヲ以テ期滿得免ノ期限ヲ定メタルモノハ其定ムル所ニ依ル

說明 本條但書特別ノ法律トハ現行法令中ニ在テハ地租條例第二十五條ノ如キヲ云フ
第七章 官有財産ノ賣却讓與

第三十一條 官有財産ノ賣却讓與及交換ハ帝國議會ノ承諾ヲ經ヘシ但永久ノ官有財産ト定メサル動産不動産ニ係ルモノハ此限ニアラス

說明 本條但書ニアル永久官有財産ノ制度ハ別ニ法令ヲ以テ之ヲ定ムル見込ナリ

第八章 政府ノ工事及物品ノ取引

第三十二條 他ニ法律ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物品ノ取引ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人ニテ専有スル物品ヲ買入又ハ借入ル、トキ

第二 祕密ニスヘキ事情アルトキ要スル物品ヲ買入又ハ借入ル、トキ

第三 非常急遽ノ際工事及物品ノ買入借入ヲナスニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ產出製出ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ屬スル美術工藝品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ヲ買入レ又ハ借入ル、ニ當リ特別ノ狀況ニ由リ競争ニ付シ難キトキ

第七 競争ニ付スルモ競争者無キトキ又ハ競争者アルモ其價格政府ニ於テ豫定シタル制限ニ達セザルトキ但此場合ニ於テハ競争ニ付スル爲メ豫メ定メタル箇條及價格ノ制限ヲ變更シテ政府ノ利益ヲ傷フコトヲ得ス

第八 同一ノ契約者ニ對シ一年度內五百圓ヲ超エサル工事及物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第九 同一ノ契約者ニ對シ一年度内見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
第十 毎年ノ見積收入百圓ヲ超エサル土地家屋及他ノ不動産ヲ六箇年以内ノ年限ニテ貸付クルトキ

第十一 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十二 試験ノ爲メ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十三 慈惠ノ爲メニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十四 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十五 囚徒ノ製造物品及政府ノ設立ニ係ル農工業場ノ生産又ハ製造物品ヲ賣拂フトキ

説明 本條ニ他ニ法律云トアルハ徵兵令公用土地買上規則ノ類ヲ云フ○取引トアルハ賣買貸借ヲ云フ○隨意ノ約定トアルハ相對ニテ取極メヲ爲スヲ云フ

本條第四特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的云云トハ物品ニヨリ産出製出ノ場所ニ限アルモノ又ハ一般ニ産出製出スル物品ニテモ使用ノ目的ニヨリ或ル地方ニ産出シ又ハ或製造所ニ於テ作レルモノヲ最モ適當トスルモノヲ云フ

本條第五ハ精巧ノ美術工藝品及機械ニシテ或技術家ニ注文スルニアラサレハ出來サルモノヲ云フ

本條第六ノ特別ノ狀況トハ位地廣狹等ヲ云フ

本條第八第九第十ハ金額小ニシテ競争ノ手續ニヨルトキハ反テ費用多クシテ利益少ナキ場合ナリ○第八ハ五百圓以上ノ經費ハ皆競争ニ付スヘキモノナリ假令ヒ種種ノ經費ニテモ合シテ五百圓ニ上ルモノヲ同年度内ニ同一ノ契約者ニ請負ハシメントスルトキハ必ス競争ニ付セサルヘカラスト云フコトヲ定メタルモノナリ○第九ハ二百圓以上ノ價格アル動産ノ賣拂ハ皆競争ニ付セサルヘカラスト假令ヒ種種ノ動産ニテモ同年度内ニ合シテ二百圓ニ上ルモノヲ同年度内ニ同一ノ契約者ニ賣拂ハントスルトキハ必ス競争ニ付セサルヘカラスト云フコトヲ定メタルモノナリ○第十見積收入トハ土地家屋其他不動産ヲ貸付ルニヨリ生スル賃料等ヲ云フ

本條第十五ハ購買者ノ求ニ應シ商賣品ヲ賣捌ノ場合ニシテ素ヨリ競争ニ付スヘカラスト場合ナリ

第三十三條 工事及物品ノ取引ヲ爲スニ當リテハ既済ノ事業及既納ノ物品ニ對シ支出ヲナシ決シテ前拂ヲ行フヘカラスト但前條第十三項ノ場合若クハ信用確實ナル商人商社ノ習慣トシテ前金ヲ受取ラサレハ工事或ハ物品供給ヲ爲サ、ルモノト約定ヲナストキ若クハ軍艦兵器彈藥ノ製造ヲ注文スルトキハ此限ニアラス

説明 既済ノ事業及既納ノ物品云云トハ事業ノ出來上リ又ハ物品ノ納済トナリ政府ノ負債義務確定シタルモノヲ云フ

第九章 會計官吏

第三十四條 政府ニ屬スル金錢ノ出納若クハ物品ノ出入ヲ掌ル所ノ官吏ハ其金錢若クハ物品

ニ付テ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第三十五條 前條ノ官吏其金錢若クハ物品ヲ失ヒ又ハ盜マレタル場合ニ於テ其保管上自己ノ過失ナク相當ノ防衛ヲ盡シテ當リ難キ天災強暴ニ罹リタル事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非レハ其負擔ヲ免ルハコトヲ得ス

第三十六條 金錢ノ出納又ハ物品ノ出入ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

身元保證金ヲ納ムヘキ官吏ハ其手續ヲ爲シタル後ニアラサレハ職ニ就クコトヲ得ス

第三十七條 仕拂命令官財務行政官ノ職務ハ金錢出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ス

説明 仕拂命令官トハ國庫ニ向テ仕拂ノ命令ヲ發スルノ權ヲ有スル官吏ニシテ各省大臣又ハ各省大臣ヨリ仕拂命令發行權ノ分任ヲ受ケタル官吏ヲ云フ

財務行政官トハ間接又ハ直接ニ歳入出入ノ事務ヲ取扱フ官吏ニシテ現今ノ制ニヨレハ各會計主務官北海道廳長官府縣知事稅關長郡區長等ヲ云フ

右仕拂命令官及財務行政官ハ自ら仕拂ノ命令ヲ發シ若クハ歳入出入ノ事務ヲ取扱フモ現金ハ少シモ取扱フコトヲ許サス其現金ヲ取扱フ官吏ハ第三十四條第三十五條第三十六條及

第三十九條ノ檢束ヲ受クル所ノ官吏ニ限ルナリ此官吏ハ他ノ命ヲ受ケテ現金ヲ收支スルノミニシテ少シモ自働ノ力ナキモノナリ斯ク歳入出入ノ事務ヲ扱フ官吏ト現金ヲ扱フ官吏トヲ全ク區分シタルハ會計上ノ檢束ニ最モ必要ナリトス

本條ニ物品ノ出入ヲ掌ル所ノ官吏ノ職務ヲ兼行スルコトヲ禁セサルモノハ物品會計ノ事

タル現金ノ會計トハ大ニ事情ヲ異ニスル所アリ現金會計ノ規則ト全ク同一ニ爲スヘカヲサレハナリ

第三十八條 歳入ノ徵收若クハ經費ノ支出ヲ掌ル所ノ官吏ハ其取扱フ所ノ事務ニツキ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ而シテ其故意又ハ過失怠惰ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタルトキハ總テ私財ヲ以テ其金額辨償ノ責ヲ負フヘシ

説明 本條中歳入ノ徵收及經費ノ支出ヲ掌ル所ノ官吏トハ直接ニ徵收若クハ支出ノ事務ニ從事スル官吏ヲ指スモノニシテ現今ノ例ニ據レハ歳入中租稅ニ於テハ郡長郡吏又其他ノ收入及經費ニ於テハ各會計主務官ヲ指ス其區分細目ニ至テハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ規定スヘキ見込ナリ

第三十九條 第三十四條第三十八條ニ據リ責任ヲ有スル官吏ノ財産ニ對シ政府ハ先取ノ權ヲ有ス

説明 本條ハ政府ノ損失ヲ豫防スルノ目的ニ出ルモノニシテ各國會計法ニ定ムル所ノ例ニ據リタルナリ

第十章 雜則

第四十條 事務ノ性質ニ由テ一般ノ歳計ニ編入セス特別ノ會計ヲ立ルヲ必要トスルトキハ法律ヲ以テ定ムヘシ其會計規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

説明 本條ハ備荒儲蓄金ノ如キ預金局ノ預金ノ如キ諸學校及諸作業廳ノ如キ類ハ其經濟ヲ政府一般ノ經濟ヨリ分離シ別ニ會計ヲ立ツルヲ便トスルヲ以テ如此ノ類ハ法律ヲ以テ

經濟分離ヲ許可スルコト、定メタルナリ

第四十一條 國庫金ノ取扱ハ期限ヲ定メテ之ヲ日本銀行ニ委託スルコトヲ得

第十一章 附則

第四十二條 本法施行前ニ生シタル政府ノ權利義務ノ期滿得免ノ期限ハ特ニ本法施行ノ日ヨリ起算スヘシ但特別ノ法律ニ據リ定メタルモノハ此限ニアラス

第四十三條 本法ノ條項帝國議會ニ相關涉セサル者ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス其議會ト關涉セル者ハ二十三年開會ノ時ヨリ施行ス

其議會ト關涉セル者ニシテ決算ニ係ル部分ハ議會ニ於テ豫算ノ承諾ヲ經タル年度ノ會計ヨリ施行ス

第四十五條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其條項施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十二年二月十一日樞密院ノ議ヲ經テ裁可公布セラレタル會計法左ノ如シ

法律第四號(二十二年二月十一日)

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシテ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編

入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項目中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ
法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納ス
ルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨
スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用ス
ルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別
ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シテ正常ナル債主若クハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂
命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ニ命シタル銀行ニ委任シテ
現金仕拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各處ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様
式ヲ用ヒ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歲出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若クハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納漏納ノ完結シタル年度ニ屬スル歳入及其ノ他一切豫算外ノ歳入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ傭役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ
- 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ
- 第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九章 出納官吏
- 第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ
- 第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサル事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス
- 第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

- 第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得
- 特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得
- 第十一章 附則
- 第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス
- 決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス
- 第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス
- 同年四月三十日勅令第六十號ヲ以テ會計規則ヲ制定セリ是レ會計法實施上ノ細則ニシテ十章百二十三條ヨリ成ル其出納ニ關スル主要ノ點ヲ説述スレハ
- 一 收支前ノ手續
- 豫算ヲ調製スルハ大藏大臣ノ權限ナリ故ニ各省大臣ハ前年度六月三十日迄明治二十六年ニ至テ八月三十一日迄ト更正スニ其所管經費ノ要求書ヲ送付シ豫算決定ノ後仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ニ送付スヘキモノトス之ヲ更定シタルトキ亦同シ
- 二 收入
- (イ) 收入官吏 現金ヲ領收スル職務ニアル官吏ヲ收入官吏トス收入官吏現金ヲ領收シタルトキハ領收證ヲ納人ニ交付シ毎月一回若クハ數回ニ金庫ニ拂込ムヘシ但シ外國又ハ金庫ノ設ケ

ナク且ツ運輸ノ不便ナル内地ニ在テハ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ現金ヲ金庫ニ拂込ムヘシ
 (ロ)金庫 金庫ハ納人又ハ收入官吏ヨリ現金ヲ領收シタルトキハ領收證ヲ交付スヘシ
 (ハ)收入官吏ノ監督 收入官吏ハ歳入事務管理廳ノ監督ニ屬ス故ニ金庫ヨリ受領シタル領收證
 ノ検査ヲ受ケ且ツ毎月收入報告書及參照書類ヲ管理廳ニ送付シ管理廳ハ收入總報告書ヲ作
 リ參照書類ヲ併セテ大藏大臣ニ送付スヘキモノトス

三 支出

(イ)豫備金支出 豫備金ハ大藏大臣ノ管理スル所タリ第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ每
 年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム故ニ各省大臣ハ支出必要アルトキハ計算書ヲ作り大藏大臣ノ
 承認ヲ經サル可カラス第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付
 シ大藏大臣ハ勅裁ヲ經テ其支出ヲ決定ス

(ロ)仕拂命令官 經費ノ支出ハ仕拂命令ニ據ラサル可カラス仕拂命令ヲ發スル官吏ヲ仕拂命令
 官ト云フ仕拂命令官ハ仕拂命令ヲ發スル前經費ノ當否豫算ノ目的年度等ヲ調査シ一定ノ式
 ニ從テ之ヲ發スヘシ數人ノ債主ニ對シ同一科目ノ仕拂ヲ爲ストキハ集合仕拂命令ヲ發スル
 コトヲ得

(ハ)會計主務官 仕拂命令ノ調定ニ從事スルモノヲ會計主務官トス會計主務官ノ任用罷免ハ陸
 海軍武官ノ外豫メ大藏大臣ノ同意ヲ經ルヲ要ス仕拂命令官ハ仕拂命令ヲ發シタルトキハ先
 ツ之ヲ會計主務官ニ交付シ會計主務官ハ其當否ヲ審査シ正當ト認メタルトキハ「調定濟」ト記
 入シテ之ヲ受取人ニ交付シ(正當ナラスト認メタルトキハ其事由ヲ本屬大臣ニ申立ツヘシ)同

時ニ金庫ニ對シテ案内仕拂命令ヲ送付スヘシ

(ニ)現金支拂 仕拂命令ノ交付ヲ受ケタルモノハ金庫ニ就テ仕拂命令ト引換ニ現金ヲ受取ルモ
 ノトス若シ案内仕拂命令ノ未到著ナルトキ又ハ案内仕拂命令ト符合セサルトキ若クハ汚損
 ノ爲メ案内仕拂命令ト照合シ難キ場合ニ於テハ金庫ハ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘキモノトス
 (ホ)會計主務官ノ監督 會計主務官ハ毎月支出報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘテ之ヲ各省中央會
 計主務官ニ送付シ中央主務官總報告書ヲ作り參照書類ヲ添ヘテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘキ
 モノトス

四 決算

歳入出總決算ハ各省大臣ヨリ提出セル各省決算報告書ニ依リ大藏大臣之ヲ調製シ國債計算書
 ハ大藏大臣之ヲ調製シテ一定ノ事項ヲ記載ス又特別會計計算書ハ會計法ニ據リ定マレル各省
 大臣之ヲ調製シ年度後五箇月内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付ス

五 出納官吏

(イ)出納官吏ノ責任 出納官吏ハ各省大臣ノ任命シタル代理官ノ行爲分任官ノ分掌事務ノ外自
 身執務セサルヲ理由トシ責任ヲ免カル、ヲ得ス
 (ロ)代理官ノ責任 特ニ任命セラレタル出納官吏代理官分任官ハ其代理行爲若クハ分掌事務ニ
 付直接ニ責任ヲ負フ

(ハ)辨償 出納官吏取扱ニ際シ生シタル損失ハ會計検査院ノ判決ニ依リ辨償ヲ命スルヲ本則ト
 スト雖モ各省大臣ハ其所屬出納官吏ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テ出納官吏ハ

本屬大臣ヲ經由シテ自ラ検査院ノ判決ヲ求ムルコトヲ得然レトモ此爲メ辨償ヲ猶豫スルコトナク後日ニ至リ責任ナシトノ判決アリタルトキハ已納ノ辨償金ヲ還付スヘキモノトス

(三)検査 出納官吏ノ事務ニ付テハ之ニ検査ヲ行フ検査ヲ分テ定期検査臨時検査ノ二トナス定期検査ハ毎年三月三十一日トシ臨時検査ハ之ヲ小別シテ二トナス其一ハ出納官吏ノ轉免死亡停職ノ場合ニシテ必要の臨時検査ナリ其一ハ隨意的臨時検査ニシテ大藏大臣又ハ各省大臣ノ必要ト認メタルトキ之ヲ行フモノ是ナリ検査官吏検査ヲ了リタルトキハ檢定書ヲ製シ一通ハ大藏大臣ニ提出シ一通ハ出納官吏ニ交付スルモノトス但事故ニ由リ自ラ検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ代理者又ハ特ニ命セラレタル官吏ニ於テ立會ヲ爲ス可シ

(ホ)計算書 會計主務官ハ年度經過後五箇月以内收入官吏ハ七箇月以内ニ會計事務計算書ヲ製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ所屬者又ハ事務管理廳へ送付シ所屬者又ハ管理廳ハ下検査ヲ爲シ其検査書ヲ添ヘテ會計検査院ニ送付スヘシ現金ヲ領收スル收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏モ亦之ニ準スヘキモノトス

(ハ)身元保證金 出納官吏ノ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

身元保證ハ現金ヲ以テ納付スルヲ本則トス現金ハ預金局ニ預ケ通常預金ノ利子ヲ付ス但シ公債證書若クハ土地ヲ以テ代用スルコトヲ許ス此場合ニ於テハ大藏大臣ニ書入トセサル可カラス(大正十六年各省改正)又相當ノ資産アル者二人以上ヲ保證人トナシ保證金額ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

身元保證ハ擔保ノ目的ヲ以テスル條件附債務ナルカ故ニ若シ辨償義務ヲ履行セサルトキハ

明治四十二年四月三十日

保證金ヲ以テ辨償ニ充テ公債證書若クハ土地ハ競賣ニ付シ保證人アルトキハ保證人ニ於テ辨償スヘキモノトス

身元保證ヲ以テ損失金ヲ償フニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏又ハ保證人ヨリ追徴ス之ニ反シテ競賣ノ結果剩餘アルトキハ之ヲ返還スヘキモノトス

轉職其他ノ事由ニ據リ保證金額ノ増納ヲ要スルトキ又ハ保證金ヲ損失金ニ充テ若クハ公債證書土地ノ價格低落ノ爲メ割合ニ應シテ追納ヲ要スルトキハ指定ノ期限内ニ之ヲ納付スルニ非サレハ其職ヲ執ルヲ得ス

身元保證ハ解職後ト雖モ會計検査院ニ於テ責任解除ヲ與ヘタル後ニ非ラサレハ之ヲ返還セ

六 金庫出納役

國庫金ヲ取扱フ日本銀行ニ命スルハ會計法第三十一條ノ許ス處タリ其取扱ヲ命シタルトキハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役モ亦會計検査院ノ検査判決ヲ受ケサル可カラス故ニ年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納計算書ヲ製シ證憑書類ヲ添ヘ大藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

勅令第六十號(明治二十二年四月三十日)
會計規則

第一章 會計年度所屬區分歳入歳出金出納

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 應中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度八月三十一日限リトス

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製

スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第三編 會計法規 第二章 一般會計法

八三五

第十二條 仕拂豫算ヲ更定セントスルトキハ其更定ヲ要スル金額理由ヲ詳具スル所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手

續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但外國及金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ收入ノ目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付スヘシ

第二十八條 第二十六條ノ拂込ニ對シ金庫ヨリ交付シタル領收證ハ收入官吏ヨリ歳入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ送付シ別符ヲ切離セシメ其檢印ヲ受クヘシ

第二十九條 納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ直接ニ金庫ニ納付シタルトキハ收入官吏ハ金庫ヨリ納人ニ交付シタル領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納人ニ返付スヘシ

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルトキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂フヘキ金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但俸給諸給恩給賞勳年金諸祿及ヒ定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲ストキ支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名銀行ナレハ其名稱前渡ヲ爲スヘキ金額支出科目年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計主務官ニ交付スヘシ

第三十六條 會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ニ「調定済」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續キヲナスヘシ

第三十七條 會計主務官前條ニ據リ仕拂命令ヲ不當ト認ムルトキハ其事由ヲ本屬大臣ニ申立
ヘシ

本屬大臣會計主務官ノ申立ニ拘ハラズ仕拂命令ヲ發スヘキコトヲ命スルトキハ會計主務官
ハ仕拂命令ニ「特命調定」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但仕拂命令ノ金額若
シ仕拂豫算額ニ超過スルトキハ本屬大臣ノ特命ヲ受クト雖モ尙ホ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘ
シ

第三十八條 會計主務官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ
送付スヘシ但第三十六條但書ニ據リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル場合ニ於テモ亦同シ

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各
應ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經
費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕
拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限リハ成ルヘク分割
シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各應ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以內
ニ於テ支拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同

一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於
テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シ
テ三千圓ニ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ
三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘ
シ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲
メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年內ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ支拂フ
モノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス
第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ
仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒
ムヘシ

- 第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ
- 第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ
- 第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ各省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第五十條 各省中央會計主務官ハ各會計主務官ヨリ送付シタル支出報告書ニ據リ毎月支出總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據

リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算
- 第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算
- 第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別會計ヲ立ツルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 收入計算
- 第二 支出計算
- 第三 最近五箇年度間資金ノ増減
- 第四 最近五箇年度間損益ノ比較
- 第六章 定額繰越過年度支出定額戻入
- 第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ
本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ支拂命令濟トナリタル額

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遲延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣工遲延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 各省大臣過年度ニ屬スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所屬年度ノ豫算ニ定メタル區分年度支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六十一條 前條ニ據リ大藏大臣ノ承認ヲ經タル經費ヲ仕拂フ爲メ各省大臣ハ其承認ヲ經タル年度ノ各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノノ外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 各省大臣會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ定額戻入要求書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第六十四條 定額戻入要求書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 戻入ルヘキ金額

第二 金庫ニ於テ返納金ヲ領收シタル日付

第三 前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル仕拂命令ノ金額、年度、科目、番號、日付

第四 戻入ノ事由

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス
第六十六條 大藏大臣各省大臣ノ要求ニヨリ定額ノ戻入ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシム

ヘシ

仕拂命令官ハ前項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既済又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ事件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約證案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ違ヒサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者ノ數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第一 設計仕譯書ノ末ニ請負人ノ署名捺印シタルモノ

第二 請負人ノ署名捺印セル承諾書

第三 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 會計主務官收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定メタルトキ其代理人ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第八十七條 會計主務官トナルヘキ官吏ノ任命罷免ハ豫メ大藏大臣ノ同意ヲ要ス但陸海軍武官ニ係ル場合ハ本條ノ限ニアラス

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ本屬大臣ヨリ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムルヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受ケタル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルト

キハ其檢定書二通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣へ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 會計主務官ハ毎年度經過後五箇月以内又收入官吏ハ毎年度經過後七箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ其所屬省又ハ歳入ノ事務管理廳ニ送付スヘシ

第九十六條 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付

シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アルモノ二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第一百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第四百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ
身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ大藏大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第四百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣ノ通知ニ依リ大藏大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ
保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第四百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第四百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第四百八條 出納官吏其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第四百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事

故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第四百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第四百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ大藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第四百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第四百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額調定済額收入済額收入未済額歳出ノ豫算額仕拂命令済額ヲ登記スヘシ

第四百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定済額收入済額收入未済額ヲ登

記スヘシ

第百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額調定濟額收入濟額收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十七條 各省中央會計主務官ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ歳出豫算額仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第百二十條 本規則ニ據リ會計主務官收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲ケタル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ執行ス

本規則ト抵触スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス
會計検査院法ハ同年五月九日法律第十五號ヲ以テ制定セラル其第一章組織第一條ニ曰ク會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有スト會計検査院ハ是ニ於テカ他ノ行政機關ニ對シ始メテ不羈獨立ノ地步ヲ占ムルニ至レリ左ニ同院法第二章ヲ掲ケテ同院カ國家會計監督ノ上ニ有スル職權ヲ明示スヘシ

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一 總決算
 - 二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
 - 三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
 - 四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算
- 第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

- 一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ
- 二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其豫算ノ規程又ハ法律勅

令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ應ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之ヲ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムル時ハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此場合

ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ

再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證據ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第四節 一般會計法規ノ第四期(自明治三十三年至明治三十五年)

明治二十二年二月制定會計法ハ事ノ帝國議會ニ關セサルモノハ二十三年四月一日ヨリ之ヲ實施シ其關涉スル事項ハ議會開設ト同時ニ施行シ會計規則ハ二十三年四月一日ヨリ之ヲ實施セリ新會計法規ハ明治二十三年度ヨリ適用スルコトナレルヲ以テ明治二十二年度ヨリ二十三年度ヘ

轉遷ノ際歳入歳出ノ年度所屬ヲ區分スルノ必要ヲ生シ明治二十三年二月十五日法律第十一號ヲ以テ二十二年會計特別整理ノ件ニ付左ノ如ク規定セリ

第一條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ付左ノ如ク規定セリ
ニ屬スヘキ歳入歳出ハ左ノ區分ニ據リ年度所屬ヲ定ムヘシ

第一歳入ハ明治二十三年三月三十一日マテニ現金ヲ金庫ニ納入濟ノモノヲ以テ明治二十二年所屬トシ其四月一日以後ニ納付スルモノハ總テ明治二十三年所屬トス

第二歳出ハ明治二十三年三月三十一日マテニ仕拂切符ヲ發スルモノヲ以テ明治二十二年所屬トシ其四月一日以後ニ支出スルモノハ總テ明治二十三年所屬トス

第二條 明治二十二年歳計剩餘ハ會計法第二十條ニ準據シ總テ明治二十三年所屬トス
繰入ルヘシ

第三條 明治二十二年歳ニ於テ官廳ニ交付シタル現金ニシテ明治二十三年三月三十一日仕拂殘トナリタルモノハ總テ明治二十三年歳入ニ納付スヘシ

第四條 現行會計法規ニ據リ明治二十二年歳ニ屬スヘキ經費ニシテ明治二十三年三月三十一日前ニ仕拂切符ヲ發シ難キモノハ其定額ヲ明治二十三年歳ニ繰越シ整理スヘシ但本規則第六條ニ據リ繰越スモノハ此限ニアラス

第五條 前條ニ據リ繰越ヲナサントスルトキハ會計規則第五十七條ニ據リ繰越計算書ヲ以テ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

前項繰越計算書ニハ各債主毎ニ金額ヲ區分シ債主ノ氏名及仕拂切符發行遲延ノ事由ヲ示ス

ヘシ但國債元利ノ繰越計算ニハ債主ヲ區分セス公債ノ種類ヲ區分シ仕拂遲延ノ事由ヲ示スヘシ

第六條 明治二十二年歳ノ豫算定額ニシテ會計法第二十一條第二十二條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準據シテ明治二十三年歳ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條 前條ニ依リ繰越ヲ爲サントスルトキハ會計規則第五十七條第五十八條ノ手續ニ準據スヘシ

第八條 明治二十二年歳豫算ノ繰越ニ係ル歳入歳出ハ明治二十三年歳所屬ノ分ト明ニ區分ヲ立テ之ヲ整理スヘシ

第九條 大藏大臣ハ本規則第四條第六條ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第十條 明治二十二年歳ノ經費ニシテ明治二十三年一月一日以後ニ仕拂切符ヲ發シ同年三月三十一日マテニ現金ノ仕拂了ラサルモノハ會計規則第四十七條ニ準據シ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シ明治二十三年四月一日以後滿五箇年間ハ仕拂切符所有者ノ請求ニ應ジ金庫ニ於テ仕拂フヘシ

第十一條 明治二十二年歳以前ノ國債元利恩給ノ仕拂元金及明治十八年度以前ノ經費ニ係ル引出切符ニシテ明治二十三年三月三十一日マテニ債主ニ仕拂了ラサルモノハ會計規則第四十七條ニ準據シ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シ整理スヘシ

帝國憲法第六十七條ニ依レハ憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上

政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得スト
定メ第七十六條第二項ニ於テ歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ
例ニ依ル旨ヲ定メタリ是ニ於テ憲法ニ所謂大權ニ基ク既定ノ歳出法律ノ結果ニ據ル歳出及政府
歳出上ノ義務ニ屬スルモノ其他憲法第六十八條ニ所謂繼續費ノ意義ニ關シテ規定スルノ必要ア
ルヲ以テ明治二十三年八月二日會計法補則ヲ制定シ法律第五十七號ヲ以テ之ヲ公布シタリ

會計法補則

第一條 明治二十三年度歳出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條
ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歳出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
 - 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
 - 三 賞勳年金及褒賞費
 - 四 外國條約及約束ニ依レル支出
 - 五 各廳ノ廳費及經常修繕費
- 第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歳出ト
ス
- 一 帝國議會經費
 - 二 裁判所並會計検査院經費

- 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
 - 四 徴兵費
 - 五 徴稅費 證券印紙切手類製造買戻押印費鑑札製造費所得稅調查委員
手當市町村ニ交付スル徴稅費滯納處分費差押物件買上代
 - 六 囚徒費
 - 七 遞信事業及航路標識費
 - 八 内外國難破船費
 - 九 沖繩縣及小笠原嶋地方費
 - 十 備荒儲蓄
 - 十一 北海道拂下土地買上代
 - 十二 恩賞及救助費
- 第三條 明治二十四年度歳出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府
歳出上ノ義務トス
- 一 神社費
 - 二 公債償還利子及拂手數料
 - 三 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯
帶支辨費
 - 四 沖繩縣諸祿
 - 五 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補

助又ハ利子保證

六 雇外國人ノ俸給恩給及手當

七 法律上ノ賠償及訴訟費

八 諸拂戻金

九 國庫金取扱費

十 預金利子

十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

右會計法補則ノ規定ハ大體ノ事項ヲ示セルニ止マルヲ以テ其各項ニ屬スヘキモノ、範圍ニ關シテ一定スルノ必要ヲ認メ明治二十三年八月大藏省帝國議會交渉事務取調委員ノ討議ニ付シ省議ヲ定メタルモノアリ蓋シ此決議タル固ヨリ右會計規則ノ解釋タルニ過キスト雖モ參考ノ爲メ左ニ之ヲ揚ク

第一條 明治二十三年度歳出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歳出トス

一 文武官ノ俸給及文官退官賜金

及親任勅委任官俸給 各該官制ニ依リ要スルモノ但試補見習共

無任所外交官俸給 (外務省) 明治十九年四月勅令第三十三號ヲ以テ無任所外交官ノ年俸ヲ定メラレ之ニ據リテ支給スルモノ	陸軍軍事費 (陸軍省)	三 賞勳年金及褒賞金	褒賞金 (各視廳、府縣、内閣、北海道廳) 明治十四年十二月布告第六十三號褒賞條例及明治十六年布告第一號ニ據リ要スルモノ (内閣) 明治十年十二月賞勳局ニ於テ決議ノ上決定セラレタル勳等年金額ニ依リ給スルモノ
非職俸給 (各廳) 明治十七年一月太政官達第三號官吏非職條例ニ依リ要スルモノ	陸軍軍事費 (陸軍省)		
休職俸給 (同上) 明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令第十一條ニ依リ要スルモノ	憲兵費 (同上)	賞勳年金	
出發前俸給 (外務省) 明治十九年七月勅令第四十九號交際官並領事費用條例ニ依リ給スルモノ	海軍軍事費 (海軍省)		
交代濟歸朝日給 (同上) 同上	屯田兵費 (陸軍省)	賞勳年金	
死亡賜金 (各廳) 明治十九年三月勅令第六號高等官官等俸給令及明治十九年四月勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依リ要スルモノ但三等郵便電信局長ノ分ハ除之			
退官賜金 (同上) 明治二十三年六月勅令第九十八號文官判任以上ノ者退官賜金ノ件ニ依リ給スルモノ			

四 外國條約及約束ニ依レル支出

外國人居留地取締費	(韓、越、府縣) 明治三年四月三日決定東京ニ外國人居留地規則附錄應三年十一月二十二日決定條約長崎地所規則ニ依リ要スルモノ 月十五日決定條約長崎地所規則ニ依リ要スルモノ (外務省) 明治九年二月二十六日調印日韓修好條規明治十六年七月二十五日調印在朝鮮國日本人民貿易規則ニ據リ要スルモノ
朝鮮國居留地取締費	(外務省) 明治九年七月二十六日調印日韓修好條規明治十六年七月二十五日調印在朝鮮國日本人民貿易規則及明治四年七月二十九日調印大日本國大清國修好條規ニ據リ要スルモノ
裁判及囚徒費	(內務省) 應三年十月外國人江戶居留取締第四條元治元年十一月橫濱居留地約書第五條萬延元年八月長崎地所規則第五條應三年四月兵庫港並ニ大阪外國人居留地取締第七條ニ依リ要スルモノ
外國人居留地營繕費	(內務省) 應二年十一月橫濱居留地約書第一條條ニ依リ要スルモノ
橫濱公園保存費	(同上)
橫濱彈藥發物倉庫修繕費	(同上) 應三年十月議決橫濱居留地取締條款第七條ニ其キ要スルモノ
長崎外國人墓地諸費	(同上) 明治二十一年四月長崎縣知事及各條約國領事ノ結定ニ係ル長崎港外國人惡疫死體埋葬地ニ關スル條約ニ依リ要スルモノ
萬國關稅表刊行同盟費	(大藏省) 明治二十一年六月ブリュッセル府ニ設置セルベルギー國萬國關稅表刊行局ヘ加入セシニ依リ要スルモノ
從價稅品買上代	(同上) 各條約國ノ條好通商約定ニ其キ買上ケル爲メ要スルモノ
萬國度量衡會費	(農商務省) 明治十八年七月農商務省ノ請議ニ依リ佛國ニ設置セル萬國度量會ニ加盟セシニ依リ要スルモノ
萬國郵便電信聯約費	(逓信省) 明治十二年三月布告第十一號萬國郵便聯合條約第十六條及明治十九年六月逓信省告示第五十七號萬國電信條約書附屬細目規則第八十一條ニ依リ要スルモノ

五 各廳ノ廳費及經常修繕費

應	(各廳) 名譽領事事務諸費
修繕	(同上) (經常)

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニヨルノ歲出トス

一 帝國議會經費	貴族院 明治二十二年二月法律第二號議院法ニ據リ要スルモノ 衆議院 同上
二 裁判所並會計検査院經費	通常裁判所 (司法省) 明治二十三年三月法律第二十二號裁判所構成法施行條例及明治十九年法律第一號登記法並明治二十三年法律第三十二號商法第二章等ニヨリ要スルモノ 行政裁判所 明治二十三年六月法律第四十八號行政裁判法ニヨリ要スルモノ 會計検査院 明治二十二年五月法律第十五號會計検査院法ニ依リ要スルモノ
三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當	文官恩給 明治十七年一月太政官達第一號官吏恩給令及明治二十三年六月法律第四十三號官吏恩給法ニ據リ要スルモノ 陸軍恩給 明治九年太政官達陸軍官恩給令明治十六年九月太政官達第三十七號陸軍恩給令及明治二十三年六月法律第四十五號軍人恩給法ニ依リ要スルモノ 海軍恩給 明治八年太政官達海軍恩給令明治十六年九月太政官達第三十八號海軍恩給令及明治二十三年法律第四十五號軍人恩給法ニ依リ給スルモノ 扶助料 明治二十三年六月法律第四十四號官吏遺族扶助法ニ依リ給スルモノ

罷役恤金	明治九年十月太政官達第九十九號ノ陸軍恩給令第一條第五第六ノ兩項ニ依リ給スルモノ (各處) 明治八年四月太政官達第五十四號官役人夫死傷手当規則同十年十二月同達第八十九號流 行病預防救濟ニ備スル醫師以下感染死亡手当規則同十二年二月同達第四號各處技術工職ノ者就 業上死傷手当内規ニ依リ給スルモノ
死傷手当	
四 徵兵費	
徵兵費	(北海道廳府縣) 明治二十二年一月法律第一號徵兵令同年二月勅令第十三號徵兵事務條例ニ依リ 要スルモノ
五 徵稅費	證券印紙切手類製造買戻押印費 手當市町村ニ交付スル徵稅費滯納處分費差押物件買上代
證券印紙切手類製造買戻押印費	(大藏省) 明治十七年五月布告第十一號證券印稅規則ニ依リ要スルモノ 明治十五年十月布告第五十一號賣藥印稅規則ニ依リ要スルモノ 明治二十一年四月勅令第二十號煙草稅規則ニ依リ要スルモノ 明治二十一年十月勅令第六十六號登記印紙規則第一條ニ依リ要スルモノ 明治十七年二月布告第五號民事訴訟用印紙規則ニ依リ要スルモノ (大藏省) 明治十七年五月布告第十一號證券印稅規則第二條ニ依リ要スルモノ (同上) 明治十九年六月大藏省令第二十一號印紙類賣下買戻規則第十七條ニ據リ賣捌人ヨリ返納 スル印紙ヲ買上ル爲メ要スルモノ (同上)
印紙類製造費	
證券印紙及手形用紙	
賣藥印紙	
煙草印紙	
登記印紙	
訴訟用印紙	
小切手押印費	
印紙買戻金	
鑑札製造費	

煙草鑑札	明治二十一年四月勅令第二十號煙草稅規則第二條ニ依リ要スルモノ
醬油鑑札	明治二十一年六月勅令第四十七號醬油稅規則第一條ニ依リ要スルモノ
牛馬賣買鑑札	明治五年十一月布告第三百三十號牛馬賣買免許規則第一條ニ依リ要スルモノ
酒造鑑札	明治十三年九月布告第四十號酒造稅規則第一條第二十八條ニ依リ要スルモノ
醬麴鑑札	明治十三年九月布告第四十一號醬麴營業規則第一條第八條ニ依リ要スルモノ
菓子鑑札	明治十八年五月布告第十一號菓子稅規則第二條ニ依リ要スルモノ
舟鑑札	明治十六年四月布告第十三號船稅規則第二條ニ依リ要スルモノ
所得稅調查委員手當	(大藏省) 明治二十年三月勅令第五號所得稅法第十二條ニ依リ要スルモノ
市町村交付金	(同上) 明治二十二年三月法律第九號國稅徵收法第三條ニ依リ要スルモノ
滯納處分費	(同上) 明治二十二年十二月法律第三十二號國稅滯納處分法第八條ニ依リ要スルモノ
差押物件買上代	(同上) 同上同法第十三條但書ニ依リ政府ニ買上クル爲メ要スルモノ
六 囚徒費	
囚徒費	(集治監) 明治二十二年七月勅令第九十三號監獄規則ニ依リ要スルモノ (集治監) 同上監獄規則ニ依リ要スルモノ (北海道廳) 同上監獄規則ニ依リ要スルモノ
在府縣獄囚徒費	
在監人諸費	
七 遞信事業及航路標識費	

遞信事業費	(逓信省) 明治十五年十二月布告第五十九號郵便條例及明治十八年五月布告第八號電信條例ニ依リ要スルモノ
航路標識費	(同上) 明治二十一年十月勅令第六十七號航路標識條例ニ依リ要スルモノ
八 内外國難破船費	
内國難破船費	(府縣北海道廳) 明治八年四月布告第六十六號内國難破船規則ニ依リ要スルモノ
外國難破船費	(同上) 明治十年七月内務省達乙第六十八號英國船日本海岸ニ於テ難破ノ節取扱方心得明治十四年九月内務省達乙第四十五號合衆國難破船費償還方法及明治二十年六月勅令第二十一號朝鮮國難破船取扱方法ニ依リ要スルモノ
九 沖繩縣及小笠原嶋地方費	
沖繩縣地方費	(府縣) 明治二十三年五月法律第三十七號沖繩小笠原嶋兩地方費國庫支辨ノ件ニ付支出スルモノ
小笠原嶋地方費	(同上) 同上
十 備荒儲蓄	
備荒儲蓄	(大藏省) 明治十三年六月第三十一號布告備荒儲蓄法及明治二十三年二月法律第五號備荒儲蓄法改正ノ件ニ依リ要スルモノ
十一 北海道拂下土地買上代	
北海道拂下土地買上代	(北海道廳) 明治十九年六月勅令第十六號北海道土地拂下規則第十二條ニ依リ一旦拂下ケタル土地ヲ政府ニ買上クル爲メ要スルモノ
十二 恩賞及救助費	

恩賜 救助費 (參照廳、北海道廳、府縣) 明治十五年十二月太政官第六十七號達一級人民ニシテ巡查同様ノ働ヲ爲シ死傷セシ者ハ吊祭扶助治療料支給方ノ件ニ付要スルモノ (北海道廳、府縣)

窮民救助費 明治七年十二月太政官達第六十二號恤救規則ニ依テ要スルモノ

養育費 (北海道廳、府縣) 明治六年四月布告第三百三十八號ニ依リ給スル棄兒養育料及明治六年三月布告第七十九號ニ依リ三子出產ノ者ニ給スル養育料ナリ

第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ義務トス

一 神社費	
招魂社營繕費	(内務省) 明治八年四月太政官第六十七號達ニ依リ一箇年一社定額參拾五圓ヲ下付シ内金拾圓ハ祭祀料取拾五圓ハ修繕費ニ外ニ金六圓取拾五圓ハ墳墓修繕費トシテ之ヲ支出シ又西南ノ役死者墳墓修繕費ハ十五年九月内務省達神甲第三五五號ニヨリテ其費額ヲ定ム (同上) 同上
官幣社保存費	(同上) 明治十九年十一月勅裁ニ基キ二十年内務省訓令第十五號ニ依リ二十年度以降十五年間保存費トシテ支出ヲ要スルモノ
國幣社保存費	(同上) 同上
靖國神社寄附金	(陸軍省) 明治二年八月二十二日爲祭費永世壹萬石宛行ノ旨御沙汰アリ明治九年四月太政官達ニ依リ該壹萬石ヲ金額七千五百五拾圓ニ改メ交付スルカ爲メ要スルモノ
二 公債償還利子及拂手數料	
公債償還	(大藏省)
公債利子	(同上)

公債元利拂手數料 (同上)
補加紙幣鎖却 (同上)

三 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助
及警察費聯帶支辨金

長野縣水外五箇所道路修築費補助 (内務省) 明治十五年十二月六日内務省ノ指令ニ基キ總額貳拾壹萬圓十六年度ヨリ二十五年マテニ下附ヲ要スルモノ

高知縣四國新道修築地費補助 (同上) 明治十九年二月及明治二十二年内務省指令ニ基キ總額拾五萬八千六百貳拾六圓五拾貳錢四厘十八年度ヨリ二十七年度マテニ下附ヲ要スルモノ

德島縣四國新道修築地費補助 (同上) 明治十九年二月内務省指令ニ基キ總額六萬參千參拾壹圓參拾壹錢七厘十八年度ヨリ二十四年度マテニ下附ヲ要スルモノ

新潟縣岩船郡其他二二線道路修築費補助 (同上) 明治十八年五月二十三日内務省指令ニ基キ總額貳拾五萬貳千貳百八拾五圓十九年度ヨリ二十五年度マテニ下附ヲ要スルモノ

鹿兒島縣鹿兒島郡修築費補助 (同上) 明治二十年五月二十七日内務省指令ニ依リ總額拾壹萬六千七百四拾四圓貳拾八錢貳厘二十年度ヨリ二十四年度マテニ下附ヲ要スルモノ

縣界ニ至ル道路修築費補助 (同上) 明治二十年二月二日内務省指令ニ依リ總額參拾萬五千五百八拾六圓七錢參厘二十二年ヨリ二十四年度マテニ下附ヲ要スルモノ

島根縣松江ヨリ廣島縣ニ達スル路線外二線道路修築費補助 (同上) 明治二十一年十月十日内務省指令ニ依リ二十二年度ヨリ二十五年度マテニ總額五萬參千圓ヲ割合下附ヲ要スルモノ

大分縣大分中津間道路修築費補助 (同上) 明治二十二年四月四日内務省指令ニ依リ二十三年度ニ於テ壹萬六千六百六圓貳拾貳錢貳厘二十四年度ニ於テ壹萬七千七百八拾壹圓貳拾六錢四厘下附ヲ要スルモノ

福嶋縣陸前濱街道修築費補助 (府縣) 明治十四年二月第十六號布告ニ基キ明治二十二年八月勅令第六十一號ニ由リ東京府八十分行四他府縣ハ六分ノ一支出ヲ要スルモノ(沖繩縣ヲ除ク)

警察費連帶支辨金 (内務省) 總費額ハ拾萬圓ニシテ明治二十二年四月二十六日内務大臣協議ニシテ明治二十二年ヨリ二十六年度マテ支出ヲ要スルモノ

東京監獄改築費補助 (同上) 明治二十四年度ヨリ同三十八年度迄十五年間毎年拾五萬圓宛補助ヲ要ス

東京市水道費補助 (同上) 明治二十三年九月内務省指令ニ依リ同二十四年度ヨリ十五年間毎年拾五萬圓宛補助ヲ要ス

大阪府水道費補助 (同上) 明治二十三年九月内務省指令ニ依リ同二十四年度ヨリ十五年間毎年拾五萬圓宛補助ヲ要ス

高知縣浦戶港浚渫費補助 (同上) 明治二十二年三月内務省指令ニ依リ二十四年度ニ於テ支出ヲ要スルモノ

四 沖繩縣諸祿

沖繩縣金祿 (天藏省) 明治十七年一月十九日内務大臣兩省何ニ基キ支出ヲ要スルモノ
沖繩縣社祿 (天藏省) 同
沖繩縣寺祿 (天藏省) 同

五 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ航運、鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證

沖繩縣先嶋航海補助 (内務省) 明治二十二年八月十三日内務大臣兩省何ニ基キ支出ヲ要スルモノ
日本鐵道會社利益補助 (天藏省) 明治十四年十一月工部省ノ命令ニ依リ株金拂込ノ翌月ヨリ一箇年八分ノ利子ヲ毎工區落成迄給シ開業後八年分ノ利益ニ上ラサルトキハ東京仙臺間ハ十箇年仙臺ヨリ青森迄ハ十五箇年間其不足ヲ補給スルカ爲メ要スルモノ
九州鐵道會社補助 (同上) 明治二十二年四月三十日内閣總理大臣及大藏大臣ノ命令ニ依リ工區哩數通計二百七十一哩四分ノ一ニ對シ一哩ニ付金貳千圓宛給スル爲メ支出ヲ要スルモノ
北海道製麻會社補助 (内務省) 明治二十年七月十五日北海道廳長官上申ニ依リ六箇年間株金ノ募集ノ翌月ヨリ開業マテ年五朱ニ相當スル利子及開業後五朱ノ利益ニ上ラサルトキハ其不足ヲ補給スル爲メ支出ヲ要スルモノ
北海道紋籠製糖會社補助 (同上) 明治二十年三月二十九日大藏省請議ニ依リ利益五朱ニ上ラサルトキハ十箇年間利益補助トシテ支出ヲ要スルモノ
北海道札幌製糖會社補助 (同上) 明治二十一年五月十一日北海道廳長官上申ニ依リ六箇年間株金募集ノ翌月ヨリ開始マテ一箇年五朱ノ割合ヲ以テ利子及始業後五年迄ノ利益不足額ヲ補給スルニ付支出ヲ要スルモノ
北海道興産社補助 (同上) 明治二十一年十月十九日北海道廳長官上申ニ依リ五箇年間一箇年五朱ニ滿タサル利益補助トシテ支出ヲ要スルモノ
北海道炭礦鐵道會社補助 (同上) 明治二十三年十一月十八日北海道廳長官内閣へ上申創業中株金拂込ノ翌月ヨリ五朱ノ利子及開業後八箇年間五朱ニ達セサルトキハ資本額ノ五朱迄ノ程度トシ利益補助トシテ支出ヲ要スルモノ
山陽鐵道會社補助 (同上) 明治二十三年三月二十日閣議ニ依リ凡三百七十二哩ニ對シ毎工區落成ノ上一哩ニ付貳千圓工事費補助トシテ支出ヲ要スルモノ

<p>日本郵船會社補助 <small>(逓信省) 明治二十年十一月二十九日逓信省請議ニヨリ十五箇年間毎年金八拾八萬圓宛支出ヲ要スルモノ</small> <small>(同上) 明治二十年五月三日農商務逓信兩省請議ニヨリ二十一年度ヨリ八箇年間毎年五萬圓宛支出ヲ要スルモノ</small> <small>(同上) 明治二十二年十月八日內務逓信兩大臣請議ニヨリ二十三年一月ヨリ二十八年十二月迄六箇年金壹萬參千圓宛支給ヲ要スルモノ</small></p>	<p>六 儲外國人ノ俸給恩給及手當</p>	<p>年 金 <small>(恩賞請祿) 外國人ニシテ我國ニ功勞アルモノニ給スルモノ</small> <small>(各廳) 備入ノ際締結セル約定書ニヨリ給スル俸給及手當旅費</small></p>	<p>備外國人俸給手當 <small>(各廳) 備入ノ際締結セル約定書ニヨリ給スル俸給及手當旅費</small></p>	<p>手 當 <small>定額ノ約束アル歸郷旅費ノ類トモ</small></p>	<p>七 法律上ノ賠償及訴訟費</p>	<p>賠償 金 <small>(各廳)</small> <small>(同上)</small></p>	<p>訴訟 費 <small>(同上)</small></p>	<p>八 諸拂戻金</p>	<p>租 稅 過 誤 納 下 戻 <small>(大藏省) 明治十八年九月大藏省達第六十九號ニヨリ過誤納金支出拂戻ヲ要スルモノ</small> <small>(同上)</small></p>
--	-----------------------	---	---	--	---------------------	---	--------------------------------------	---------------	---

<p>酒 類 稅 <small>明治二十一年勅令第五十四號輸出酒類稅規則ニヨリ支出ヲ要スルモノ</small></p>	<p>醬 油 稅 <small>明治二十一年七月勅令第四十七號醬油稅規則ニヨリ拂戻ヲ要スルモノ</small></p>	<p>煙 草 稅 <small>明治二十一年四月勅令第二十號煙草稅規則ニヨリ拂戻ヲ要スルモノ</small> <small>(大藏省)</small></p>	<p>諸收入過誤納下戻 <small>(大藏省)</small></p>	<p>九 國庫金取扱費</p>	<p>日本銀行交付金 <small>(大藏省) 明治二十三年九月二十日閣議日本銀行へ命令書ニヨリ支出ヲ要スルモノ</small></p>	<p>十 預金利子 <small>(大藏省) 明治二十三年三月十七日法律第二十一號第四條ニヨリ支出ヲ要スルモノ</small></p>	<p>十一 既約アル地所家屋借料 <small>(各廳) 明治十九年八月外務省令第一號交際官並領事費用條例第四十四條ニヨリ公使領事費易事務借料及其用地借料ノ類ニシテ既ニ後年度ニ亙ル契約済ノ分</small></p>	<p>地 所 家 屋 借 料 <small>(各廳) 明治十九年八月外務省令第一號交際官並領事費用條例第四十四條ニヨリ公使領事費易事務借料及其用地借料ノ類ニシテ既ニ後年度ニ亙ル契約済ノ分</small></p>
--	--	---	---	-----------------	---	--	--	--

第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ工事製造其他數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

利 根 川 修 築 費
(內務省) 明治二十年度以降三十八年度迄ニ要スル工費計畫額ハ四百七十七萬七千七百七拾五圓六拾五錢七厘ニシテ二十年度ヨリ二十二年迄ニ於テ既ニ貳拾七萬參千七百七拾八圓七拾四錢貳厘ヲ支出シ二十三年度以降ニ於テ要スル費額ハ參百八拾萬四千百參拾六圓九拾壹錢五厘ナリトス

高等商業學校
(同上) 本費ノ總額ハ貳拾萬七千七百八拾六圓ニシテ內八萬五千七百八拾六圓ハ特別會計ニ屬スル
 諸收入ヲ以テ支辨シテ壹萬六千四百八拾七圓ニシテ內八萬五千七百八拾六圓ハ特別會計ニ屬スル
 (逓信省) 本費ノ總額ハ貳拾萬圓ニシテ二十年度ヨリ二十七年迄ニ支出ヲ要ス
 四年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 五年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十一年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 六年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十二年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 七年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十三年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 八年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十四年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 九年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十五年迄ニ支出ヲ要ス

大阪郵便電信局建築
(逓信省) 本費ノ總額ハ貳拾萬圓ニシテ二十年度ヨリ二十七年迄ニ支出ヲ要ス
 四年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 五年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十一年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 六年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十二年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 七年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十三年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 八年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十四年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 九年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十五年迄ニ支出ヲ要ス

横川輕井澤間鐵道建設費
(内務省) 本費ノ總額ハ貳拾萬圓ニシテ二十年度ヨリ二十七年迄ニ支出ヲ要ス
 四年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 五年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十一年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 六年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十二年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 七年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十三年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 八年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十四年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 九年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十五年迄ニ支出ヲ要ス

山林原野調査費
(農商務省) 本費ノ總額ハ貳拾萬圓ニシテ二十年度ヨリ二十七年迄ニ支出ヲ要ス
 四年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 五年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十一年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 六年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十二年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 七年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十三年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 八年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十四年度ニ於テ貳萬圓ノ支出ヲ要ス
 九年度ニ於テ四萬圓ニシテ二十五年迄ニ支出ヲ要ス

曩ニ會計規則出テ、會計法ノ規定ヲ補足シ其適用ヲ完カラシメ以テ會計事務ノ大革新ヲ期セシ
 ヲリ以來各廳及金庫トモ幾多ノ經驗ヲ積ミ出納ノ事務大ニ進歩シ既ニ嚴密ノ監督ト繁雜ナル手
 續トヲ要セサルニ到レリ是ニ於テカ明治二十六年十月七日勅令第百十二號ヲ以テ大ニ會計規則
 ニ改正ヲ加ヘ仕拂豫算收入金額領收證仕拂命令測定過年度支出定額戻入出納官吏配置身元保證
 金納入其他金庫出納ノ締切期限仕拂命令發布期限豫定經費要求書提出期限等ニ多クノ修正ヲ施
 シ頗ル會計事務ヲ簡潔ニスルヲ得タリ今左ニ其改正ノ點ヲ示サン

勅令第百十二號

明治二十二年勅令第六十號會計規則中左ノ通改正ス

第三條中八月三十一日ヲ七月三十一日ト改ム

第八條中六月三十日ヲ八月三十一日ト改ム

第十一條中大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシト改ム

第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達ス
ヘシ

第十五條中八月三十一日ヲ七月三十一日ト改ム

第二十六條但書中外國及ノ三字並内國ノ三字ヲ削ル

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂
込人又ハ納人ニ交付シ領收證ノ旨ヲ收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歳入ノ徵收ヲ監督ス
ル所ノ官吏ニ又納入ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシ

第二十八條 削除

第二十九條 削除

第三十三條中支出ノ目的ノ五字並俸給諸給恩給賞勳年金諸祿及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲スト
キノ二十七字ヲ削ル

第三十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘ
シ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ
要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續キヲ爲スヘシ

第三十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕
拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ

第三十七條 削除

第三十八條 削除

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂
命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲

第三十七條 削除

第三十八條 削除

命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲

第三十七條 削除

第三十八條 削除

命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲

スヘシ

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第四十七條中「八月三十一日」ヲ「七月三十一日」ト改ム

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ

但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 削除

第五章第二款題號中「報告書」ノ下ニ「及收入支出計算書」ノ八字ヲ加フ

第五十二條ニ左ノ三項ヲ加フ

歳入ヲ測定スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入測定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後五箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スシ

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第五十七條中「年度經過後一箇月」ヲ「年度經過二箇月」ト改メ第二ノ末尾ニ「及第四十四條ニ據リ翌

年度六月三十日マテ仕拂命令ヲ發スヘキ額」ノ三十字ヲ加フ

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十一條 削除

第六十三條 仕拂命令官會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ

第六十五條中「ノ要求」ノ三字ヲ削ル

第六十六條 削除

第六十七條ニ左ノ一項ヲ加ヘ従前ノ第一項第二項ヲ第二項第三項トシ第三項中「前項」ヲ「前各項ト改ム

各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシテ之カ調査ヲ作ラシムヘシ

第六十八條中「前條」ノ下ニ「第二項」ノ三字ヲ加フ

第六十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ従前ノ第二項ヲ第三項トシ第三項中「物品供給」ヲ「物品賣買」ト改ム

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ

資格ヲ定ムルコトヲ得

第七十一條中「請負ノ下ニ又ハ賣買ノ四字ヲ加フ

第七十九條中「請負」ノ下ニ又ハ賣買貸借ノ六字ヲ加ヘ左ノ但書ヲ加フ

但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第八十二條但書ヲ左ノ通改メ第一第二第三ヲ削ル

但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

第八章第一款題號中「會計主務官」ノ五字ヲ削ル

第八十四條但書ヲ左ノ通改メ左ノ一項ヲ加フ

但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官

ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス

第八十五條中「出納官吏代理官」ハ其代理シタルヲ「出納官吏代理官若クハ分任官」ハ其ト改ム

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク

第八十七條 削除

第九十條 削除

第九十五條 收入官吏ハ毎年度經過後五箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年

度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ歳入ノ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任

ル官吏ニ送付スヘシ

第九十六條中「各省又ハ」ノ四字ヲ削ル

第九十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九十八條ノ二 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計

算書ハ各別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分

任出納官吏ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第二百二條第二項中「大藏大臣及」ノ五字ヲ削ル

第二百四條第二項中「大藏大臣」ヲ「各省大臣」ト改ム

第二百五條第二項中「通知」ニ依リ大藏大臣「ノ」十字ヲ削ル

第一百十一條第二項中「大藏大臣」ヲ經由シテ之ヲ會計検査院「之」ヲ大藏大臣「ト改メ」同條第二項ノ

次ニ左ノ二項ヲ加フ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證書類ヲ添

ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ

據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調製シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第一百十六條中「會計主務官」ヲ「金庫出納役」ト改メ「測定」ヲ「受領」ト改ム

第一百十七條 削除

第二百二十條中「會計主務官收入官吏」現金前渡ヲ受ケタル官吏「ヲ」當該官吏「ト改ム

附 則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

明治二十七年六月十一日法律第十六號ヲ以テ政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徵シテ之ヲ當座預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ又一時不足ヲ生スル時ハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入レ得ルコトヲ定メタリ是レ蓋シ當時清國ト戰端ヲ開キ民間ノ金融甚タ逼迫ヲ極メ政府ニ於テ大ニ放銀ノ必要ヲ生シタルモ會計法上濫リニ國庫金ノ使用ヲ許サス而カモ國家經濟上徒ラニ巨額ノ剩餘金ヲ國庫中ニ堆積シ置クハ極メテ不利ナルヲ以テ茲ニ此規定ヲ見ルニ至レルナリ

法律第十六號

第一條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徵シテ之ヲ當座預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ入ル、コトヲ得

第二條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條ニ依リ政府ノ借入ル、コトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行額ト合セテ當該年度該證券ノ發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス

明治二十九年五月二日勅令第六十七號ヲ以テ明治二十二年法律第四號會計法ヲ臺灣ニ施行スル旨ヲ公布ス蓋シ明治二十九年三月法律第六十三號ニ依レハ現行ノ法律又ハ將來發布スル法律ニシテ其全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行ヲ要スルモノハ特ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトナセルヲ以テ茲ニ此勅令ノ公布ヲ見ルニ至レルナリ

明治三十三年三月二十九日勅令第五十八號ヲ以テ在外公館ニ於テ會計規則所定ノ手續ヲ省略シ得ルコトニ關シテ左ノ如ク規定セリ

勅令第五十八號

第一條 公使館領事館及貿易事務館收入官吏ノ領收シタル現金ヲ金庫ニ拂込ムヘキ期限及收入報告調製ノ期限ハ每三箇月一回若クハ數回トナスコトヲ得

第二條 公使官領事館及貿易事務館出納官吏ノ仕拂ヒタル現金ノ計算書調製及其ノ證憑書類送付ノ期限ハ外務大臣ニ於テ每三箇月一回若クハ數回ト爲スコトヲ得

第三條 公使館領事館及貿易事務館ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スニ當リ隨意契約ニ依ルトキハ一口貳千圓未滿ニ限リ會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

蓋シ内國ノ状態ヲ標準トシテ編成サレタル會計規則ハ諸般ノ事情ヲ異ニセル外國所在ノ我公館ニ適用セントスルトキハ種々ノ不都合ヲ生シ到底完全ナル法規ノ適用ヲ望ムヘカラサルヲ以テナリ

明治三十三年三月三十日勅令第二百二十七號ヲ以テ明治二十二年勅令第六十號會計規則中第三章收入第四章第一款仕拂命令同第二款仕拂命令執行第五章第二款各省決算報告書第六章第一款定額繰越第八章第一款收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏第九章帳簿ノ各事項ニ就キ改正スルトコロアリ即チ左ノ如シ

勅令第二百二十七號

會計規則中左ノ通改正ス

第二十五條 收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入ヲ徵收スル官吏ニ報告スヘシ

第二十六條 第九十一條 第九十三條 第九十四條 及 第一百十八條 中 現金ヲ領收スル收入官吏ヲ收入官吏ニ改ム

第二十七條 中 收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歲入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納人ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシヲ歲入ヲ徵收スル官吏ニ通知スヘシニ改ム

第三十條 歲入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニ據リ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歲入ノ事務管理廳ハ前條ノ徵收報告書ニ據リ毎月徵收總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十一條ノ二 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セザルモノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ編入スヘシ

第三十五條 中 金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ「ラ」金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルモノハニ改ム

第四十五條 第一項 中 金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スルヲ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルニ改メ第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但 集合仕拂命令、金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ニ對シテハ領收證書ト引換ニ現金ヲ交付スヘシ

第五十二條 第二項 中 調定ヲ總テ徵收ニ改ム

第五十七條 第一項 及 第二項 第二號ヲ左ノ如ク改ム

各省大臣會計法第二十一條 及 第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第二 右定額ニ對シ既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第九十五條 及 第九十六條ヲ削ル

第九十七條 收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歲入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ歲入ヲ徵收スル官吏ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第二百二條 第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但保證人ノ責任ハ免除シタル保證金額ニ止マルモノトス

第一百十四條 歲入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歲入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、不納、缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

附 則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

右會計規則ノ改正ニ伴ヒ作業及鐵道會計規則、官立學校及圖書館會計規則、及專賣局作業會計規則

中自ラ改正ヲ要スル點ヲ生シ同日勅令ヲ以テ各之ニ改廢ヲ施セリ
明治二十二年四月制定會計規則第十五條ニ依レハ歲入歲出現計書ニ記載スヘキ事項ハ其年三月
三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歲入歲出ノ七月三十一日ノ現計ヲ以テスヘキ旨ヲ定メタ
リシカ明治三十四年八月八日勅令第百五十六號ヲ以テ之ヲ改正シ右第十五條中七月三十一日ヲ
八月三十一日ト改メ此日ノ現計ヲ以テ歲入歲出現計書ヲ調製スヘキモノトセリ

會計法第五條ニ依レハ歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘキ旨ヲ
規定スト雖モ追加豫算ノ事ニ關シテハ會計法上何等ノ規定アルコトナシ是ヲ以テ帝國議會ハ政
府ノ追加豫算提出ノ上ニ制限ヲ設クルノ必要アリト爲シ之ニ關スル會計法改正法律案ヲ提出シ
協賛裁可ヲ經テ明治三十五年八月二十日法律第四十七號ヲ以テ公布セラレタリ即チ左ノ如シ

法律第四十七號

會計法中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ツク經費ニ不足ヲ生シタル場合ノ外追加豫算
ヲ提出スルコトヲ得ス

會計法第十五條現金前渡ノ仕拂命令ヲ發シ得ルモノ、中應中常用雜費ハ一箇年總費額五百圓以
下各應ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ一主任官ニ付三千圓以下ニ限ラレ又同第二十四條隨
意約定ニ依ルコトヲ得ヘキ工事又ハ物件ノ賣買貸借中工事又ハ物品ノ買入又ハ借入ハ五百圓以
下動產賣拂ハ見積價格貳百圓以下ニ限定サル、ト雖モ物價騰貴其他經濟事情ノ變動ノ爲メ其制

限金高低キニ失シ實際ノ狀況ニ適應セス不便尠カラサルヲ以テ此制限額ヲ高ムル必要アリ明治
三十五年八月二十日法律第四十八號ヲ以テ左ノ如ク改正ヲ施セリ

法律第四十八號

會計法中左ノ通改正ス

第十五條第二項第六號中「五百圓」ヲ「千圓」ニ第八號中「三千圓」ヲ「六千圓」ニ改ム

第二十四條第七號中「五百圓」ヲ「千圓」ニ第八號中「二百圓」ヲ「四百圓」ニ改ム

會計法第十五條及第二十四條中ノ改正ニ伴ヒ會計規則中改正ヲ要スモノアリ且金庫整理期限仕
拂命令發行期限主計簿締切期限並ニ之ニ關連スル其他ノ諸期限ニ關スル規定諸計算書ノ送付期
限ニ關スル規定工事又ハ物品ノ完済前代價ノ仕拂ニ關スル規定競争入札並隨意契約ニ關スル規
定及保證金代用公債證書若クハ土地ノ書入ニ關スル規定中實際ノ取扱上不備又ハ不便ヲ感スル
モノアルカ爲メ明治三十五年八月二十日會計規則中左ノ如ク改正ヲ施サル

勅令第二百號

會計規則中左ノ通改正ス

第三條及第四十七條中「七月三十一日」ヲ「六月三十日」ニ改ム

第十五條中「歲入ノ部」及「歲出ノ部」ヲ左ノ如ク改ム

歲入ノ部

歲入豫算額

調定濟歲入額

收入濟歲入額
 不納缺損額
 收入未濟歲入額
 歳出ノ部
 歳出豫算額
 豫算決定後増加歳出額
 仕拂命令濟歳出額
 翌年度繰越額
 歳出殘額
 第三十九條第三號第四十條第一號及第二號中「三千圓」ヲ「六千圓」ニ改ム
 第四十四條及第六十五條中「六月三十日」ヲ「五月三十一日」ニ改ム
 第五十二條第一項中「十二月三十一日」ヲ「十一月三十日」ニ改ム
 第五十二條第二項中「年度經過後五箇月以内」ニ及第三項中「翌月十五日」マテニ「第九十七條中」毎年
 度經過後二箇月以内ニ「第九十九條中」其在職期限經過後六十日以内ニ及第九十五條第一百十一
 條第二項中「每年度經過後四箇月以内」第三項中「其翌月中」ニ及同項但書ヲ削ル
 第六十七條第一項及第八十二條但書中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム
 第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ「工事」ニ付テハ其既濟部分ニ對スル代價
 ノ十分ノ九物品ニ付テハ其既納部分ニ對スル代價ヲ超ユヘカラス但箇箇ニ分立シ得ヘキ性

明治廿九年法律第一號

質ノ工事ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其代價ノ全額マテヲ仕拂フコトヲ得
 第六十九條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
 第六十九條ノ二 各省大臣ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ハ爾後二箇年間工事又
 ハ物品賣買ノ競争ニ加ハルコトヲ得ス其之ヲ代理人支配人番頭又ハ手代トシテ使用シタル
 者亦同シ
 一、工事又ハ物品供給ノ契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事又ハ物品ヲ粗雜ニシタル者
 一、競争ニ際シ漫ニ價格ヲ競上ケ若クハ競下クルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者
 一、競争ノ加入ヲ妨害シ若クハ競落者ノ契約履行ヲ妨害シタル者
 一、工事又ハ物品ノ検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
 一、前各號ニ該當スト認メラレタル後二箇年ヲ經過セサル者ヲ工事請負又ハ物品賣買ニ際
 シ代理人支配人番頭又ハ手代トシテ使用スル者
 第六十九條ノ三 前條ニ該當シタル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ハ競争ニ加ハルコトヲ
 得ス
 第七十三條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但緊急ノ場合ニ於テハ公告期間ヲ七日迄ニ短縮スルコトヲ得
 第七十六條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
 但入札人出席セサルカ又ハ出席セサルモノアルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立
 會ハシムヘシ

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

入札人ハ一旦提出シタル入札書ノ引換變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

競争加入ノ資格ナクシテ爲シタル者ノ入札ハ無効トス

第七十七條中「直ニ入札人ヲシテ」ヲ「直ニ出席入札人ヲシテ」ニ改ム

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第八十三條中「請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得」ヲ「第六十九條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得」ニ改ム

第九十八條中「各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費支拂ノ計算書ヲ調製シ」ヲ「毎月仕拂計算書ヲ調製シ」ニ改ム

第一百二條第一項中「大藏大臣ト協議シテ」ヲ削除

第一百四條第二項中「各省大臣」ノ次ニ「若クハ各省大臣ノ指定シタル官吏」ヲ加フ

第一百五條第二項中「損失金額」ノ上ニ「公賣ニ關スル費用及」ヲ加フ

第一百八條 削除

第一百九條 削除

第一百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額、收入未済額、歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、仕拂命令済額、翌年度繰越額、殘額ヲ登記スヘシ

明治三十五年會計法第一條

第一百五條中「收入済額」ノ下ニ「不納缺損額」ヲ加フ
第一百十九條中「八箇月」ヲ「七箇月」ニ改ム

附則

本令中第三條第四十四條第四十七條第五十二條第一項第六十五條第一百十九條ニ關スル改正ハ明治三十五年度會計ヨリ適用ス

右會計規則ノ改正ニ伴ヒ臺灣總督府特別會計規則、作業及鐵道會計規則、專賣局作業會計規則及官立學校及圖書館會計規則中改正セラル、トコロアリタリ

第三章 特別會計

第一節 現行會計法制定前ノ特別會計

現行會計法發布以前ニ於テ政府ノ別途會計トシテ主要ナル地步ヲ占メタリシモノハ官業ニ關スル會計トス蓋シ當時官業ノ漸次發達スルニ從ヒ之ニ關スル諸般ノ經費ヲ一般ノ會計中ニ混同シテ整理スルハ事業ノ經營上障礙少カラサルヲ以テ茲ニ特別ノ經濟ヲ立ツルノ得策ナルコトヲ感シ官業上ノ收支ハ一般會計ト區分シ別途ニ會計ヲ立テ別金櫃ヲ設ケテ之ヲ整理スルノ方法ヲ設クルニ至レリ其他鐵道基金ノ如キ或ハ整理公債金ノ如キ或ハ起業基金勸業資本金等ノ如キモ亦一般會計中ヨリ分離セラレ別途會計トシテ取扱ハレタリ而シテ明治十九年一月大藏省主計局中ニ雜種金課ノ設ケラル、ニ及ヒテ從來政府ノ別途會計ニ屬セシモノハ總テ雜種金ナル名稱ヲ以テ雜種金課ニ於テ處理シタリ其主ナル種目左ノ如シ

- 一 鐵道基金
- 二 整理公債金
- 三 起業基金
- 四 勸業資本金及勸業委託金
- 五 北海道廳府縣勸業委託金
- 六 下ノ關債金返還部
- 七 朝鮮政府補填金

- 八 官業資本金
- 九 各種別途金

第一款 鐵道基金

鐵道基金ハ官設鐵道建設ノ資金ニ充用シタルモノニシテ中山道鐵道公債募集金及鐵道費補充公債募集金即チ是ナリ中山道鐵道公債募集金ハ明治十六年十二月舊太政官第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例ニ據リ上野國高崎ヨリ美濃國大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ鐵道ヲ敷設シ及其事業ヲ經營スル資金ニ充ツルタメ證書額面二千萬圓ヲ工業ノ都合ヲ計リ漸次發行シテ募集シタルモノニシテ鐵道費補充公債募集金ハ明治二十二年勅令第六號鐵道費補充公債證書條例ニ據リ神奈川縣下戸塚橫須賀間滋賀縣下大津長濱間ノ鐵道布設資金ヲ補充スルカ爲メ證書額面二百萬圓ヲ發行シテ募集シタルモノナリ而シテ該基金ハ中山道鐵道建設費敦賀大垣間鐵道興業費補足及東海道鐵道建設費等ニ充用シタリ

中山道鐵道建設費ハ當初豫算ヲ千百五十三萬八千貳百五十七圓ト定メシニ明治十九年閣令第二十四號ヲ以テ中山道鐵道敷設ノ全通ヲ止メ更ニ工事ヲ東海道ニ起スニ決シタルヲ以テ總豫算ヲ七百九十八萬五千八百三十三圓ニ更正シ二十二年迄ニ悉皆支出ヲ了シタリ
敦賀大垣間鐵道興業費補足ハ起業基金ヲ以テ起工セシ建設費ノ不足ヲ補充スル爲メ支出セシモノナリ

東海道鐵道建設費ハ前項ノ如ク中山道鐵道ノ敷設ヲ止メ更ニ工事ヲ東海道ニ起スニ決シタルヲ

以テ當初定メタル中山道鐵道建設費總豫算ノ内ヲ分裂シテ更ニ東海道鐵道建設費ノ豫算ヲ九百七十七萬六千六百六圓ト決定シ又鐵道費補充公債募集金ヲ以テ補充セシ戸塚橫須賀間ノ豫算ヲ四十五萬圓大津長濱間ノ豫算ヲ百五十萬圓ト定メ合計豫算額千百七十二萬六千六百六圓トシ二十二年迄ニ悉皆支出ヲ了シタリ以上ノ收支ハ即チ別表ニ示ス所ノ如シ

鐵道基金歲入計算表

科	目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	二十一年度	二十二年度	通計
中山道鐵道公債募集金		一三五〇六五八〇	四七四〇六八五〇	〇	〇	〇	〇	一八二九〇六四九〇
鐵道費補充公債募集金		〇	〇	〇	〇	五〇〇〇〇〇〇	〇	五〇〇〇〇〇〇
合 計		一三五〇六五八〇	四七四〇六八五〇	〇	〇	五〇〇〇〇〇〇	〇	二〇〇七〇六四九〇

鐵道基金歲出計算表

科	目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	二十一年度	二十二年度	通計
中山道鐵道建設費		九〇〇〇〇〇〇	二二五〇〇〇〇〇	二二七九〇〇八〇	三〇〇〇〇〇〇	一三四九五八八二	八〇六六〇六	七九八二八三〇
敦賀大垣間鐵道興業費補足		四五八二七四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	四五八二七四〇〇
東海道鐵道建設費		〇	〇	八七〇〇〇〇〇	三、八五〇〇〇〇〇	六、七五六、六〇六	二、五〇〇〇〇〇〇	一、七、七六、〇〇六
中山道鐵道公債募集費		五〇、九三四、〇六八	一九、六五一、九一八	〇	〇	〇	〇	七〇、五八五、九八六

鐵道費補充公債募集費		鐵道費補充公債募集金利息	
計	一、四〇九、〇八〇、六八八	計	二、二六九、六五一、五八八
	二、二六九、六五一、五八八		五、一八三、二四九、〇〇八、八八〇
	四、一五〇、〇〇〇、〇〇〇		八、一〇六、一七四、八二二
	一、〇九一、四四〇、五三九、二二五		二、四九三、五一一、二二五
	五、三三九、〇四〇、二二五		一〇、五九七、〇五二、〇五〇
	九、九〇九、四一六		一三、〇九六、四六八

右ノ如ク鐵道基金ハ別途ノ會計ト爲シ國庫中別金櫃ヲ設ケ其收支ヲ執行シタリ而シテ前表ニ掲記スル所ノ歳入合計ハ二千二十九萬七千七百四十七錢二厘ニシテ歳出合計ハ二千二十七萬五千四百八十三圓十二錢五厘ナリ故ニ二萬二千二百五十七圓六十四錢七厘ノ殘額ヲ生シタルヲ以テ該殘餘金ハ明治二十二年歳末ニ於テ一般ノ歳入へ繰入シ鐵道基金ノ收支ヲ完了セリ

中山道鐵道建設費通計七百九十八萬五千八百八十三圓東海道鐵道建設費通計千七百七十二萬六千六百六圓合計千九百七十一萬七千八百八十九圓ハ國庫ヨリ主管廳へ交付セシ金額ニシテ該廳ニ於テ二十二年歳迄實際支出セシ金額ハ千九百二十二萬二千六百三十一圓九十一錢七厘ナリ故ニ四十八萬九千五百七十七圓八錢三厘ノ仕拂殘額ヲ生ス此殘餘金ハ明治二十二年歳以降別金櫃ヲ廢止シ將來支出ヲ要スル建設費ハ一般ノ會計ヨリ支出スルコト、ナリタルヲ以テ二十三年歳一般ノ歳入へ納入シタリ

第二款 整理公債金

整理公債金ハ從前發行ノ六分以上利付ノ公債ヲ償還スル爲メニ置カレタルモノニシテ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據リ證書發行額一億七千五百萬圓ノ内證書額面千五百萬圓ヲ漸次發行シテ募集シタルモノト、證書額面七百五十萬圓ヲ臨時ニ發行シテ日本銀行ヨリ收入シタ

ル整理公債臨時發行代金ト、前年度ニ於テ公債償還トシテ支出セシ金額ノ内現金ノ代リトシテ整理公債證書ノ下付ヲ望ムモノアリテ現金ヲ還納セシメタルモノ即過年度返納金ト、整理公債證書汚染毀損ニ係ルモノ又ハ證書ノ種類交換ヲ望ムモノアリテ新ニ製造スル證書ノ費用ヲ收入セシモノ即辨償金ト、一般會計經常部歳出國債費豫算ノ殘額ヲ繰入セシモノトヲ合セタルモノナリトス即チ左表ノ如シ

整理公債金歳入計算表

	十九年度	二十年度	二十一年度	二十二年度	通計
整理公債募集金	五、九三三、〇七三、三三三	四、〇二二、七八一、四四五	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、五一一、五〇三、七一九	一、五〇一、九八八、九七七
整理公債臨時發行代金	〇	〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
過年度返納金	〇	三、四四五、〇〇〇、〇〇〇	三、四四五、〇〇〇、〇〇〇	一、五二二、七四五、〇〇一	一、八六一、六七〇、〇〇一
辨償金	〇	〇	一、一九五、九七	〇	一、一九五、九七
國債費殘餘繰入	〇	一、五六二、七七一、六三三	一、〇四四、八七九、六〇〇	二、二二三、五五五、六八五	二、八三一、一一〇、八〇八
合計	五、九三三、〇七三、三三三	四、一七二、五〇八、六〇八	八、四四五、〇〇八、二五五、七	六、〇五〇、一三八、四七五	二四、六六四、八八一、〇三三

整理公債金歳出計算表

公債償還	十九年度	二十年度	二十一年度	二十二年度	通計
公債償還	三、四二二、二二〇、〇〇〇	六、七六五、三八五、〇〇〇	六、八九五、二三〇、〇〇〇	二、六七四、六七〇、〇〇〇	一、八、七四七、四〇五、〇〇〇

十九圓八十六錢三厘ヲ差引殘額三萬八千四百九十一圓九十四錢五厘ハ常用部ヨリ補足セシ金額ノ内へ償戻ノ爲メ二十年度ニ於テ三萬八千二百六十三圓十六錢五厘ニ十一年度ニ於テ二百二十八圓七十八錢ヲ一般ノ歳入へ繰入レ起業基金ノ收支ヲ完了セリ

第四款 勸業資本金及勸業委託金

維新以來國勢一變封建ノ制ヲ廢シテ郡縣ノ制ヲ施クヤ從來ノ士族ハ其常職ヲ失ヒ俄ニ時勢ノ變遷ニ應スル能ハス往往其資産ヲ蕩盡シ憫諒ス可キ狀況ニ陥レリ而シテ其休戚ハ自然國勢ノ安危ニ關スル大ナリ是ニ於テ政府ハ之カ保護ノ途ヲ求メ明治十一年地方長官ヲ召集シ懇ニ朝旨ノアル所ヲ示シ大ニ士族ノ授産興業ニ努ムル所アラシメ尋テ起業公債募集金ノ内三百萬圓ヲ一般殖産ノ資ト定メ其一半即チ百五十萬圓ヲ以テ士族授産ニ供セリ百五十萬圓ニ係ル支拂ノ實額ハ之既ニシテ明治十五年ニ至リ前記ノ金員ハ士族授産ノ普及ヲ圖ルニ足ラサルヲ以テ更ニ若干ノ委員ヲ選定シ其方案ヲ立テシメ十五年度ヨリ二十二年度ニ至ル八箇年間一般會計ヨリ年々五十萬圓ヲ支出シテ勸業資本金トシ國庫中第一備置金部ナル別金櫃ヲ設ケ之カ收支ヲナシ需要ノ各應ニ對シテ支出ヲ執行シ年度末毎ニ殘餘アレハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトニ決定セリ而シテ此豫定額四百萬圓ヲ以テ勸業資本金トナシ其中ニ於テ十七年度以降屯田兵増殖移住ニ係ル諸費ハ之ヲ一般會計ノ支出ト改メタルカ爲メ減額セシモノ八十八萬六千二百二十五圓又該資本金貸與終局ノ年度即チ二十三年三月三十一日ニ至リ支出ヲ要セスシテ減額セシモノ三萬八千七百八十一圓五十三錢六厘合セテ九十二萬四千九百六圓五十三錢六厘ヲ控除スレハ現ニ支出ヲナシタ

ル金額ハ三百七萬五千九十三圓四十六錢四厘ナリ

勸業資本ヲ貸與スルニ當リ之ヲ甲乙丙及準備ノ四部ニ分チ甲部ハ家祿ノ處分ニ起因シテ起業資本ノ貸與ヲ請フモノニ乙部ハ困窮セル士族ノ起業ヲ企ツル者等ニ丙部ハ士族ノ北海道ニ移住開墾スルモノニ準備部ハ殖産資本トシテ特別ノ理由アルモノニ各貸與スルモノトセリ
前記ノ如ク起業基金ヨリ士族授産ノ資ニ充ツル所ノ金員ヲ百五十萬圓ト定メシト雖モ尙不足ヲ告ケシヲ以テ明治十四年八月二十八日八萬六千四百七十八圓五十九錢八厘ヲ補足スルコトニ決シ明治十五年度以降勸業委託金トシテ其額ヲ定メテ之ヲ支給スルコト、シ而シテ其收支ハ國庫中第二備置金部ヲ設ケテ之ニ受入レ委託ヲ受ケタル府縣長官ノ需要ニ應ジテ之ヲ支出セリ然ルニ其内八萬圓ハ實施上支出ヲ要スルニ至ラザリシヲ以テ其現ニ支出セシ金額ハ二十萬六千四百七十八圓五十九錢八厘ナリ而シテ此金額ハ則チ勸業資本金乙部ノ種類ニ屬スルモノナリ
勸業資本金及勸業委託金ノ起因竝ニ其支出額ハ前段ニ述フルカ如シ而シテ其貸與ヲ受ケタル士族ニシテ自營ノ途ヲ立テ幾分ヲ返還セシモノアリト雖モ而モ又事業舉ラズ資金ヲ亡失セシモノナキニ非ス故ニ政府ハ明治二十二年ニ至リ貸與ヲ受ケタル士族ノ失敗ニ對シ其狀況ヲ酌量シ四十年乃至九十年ノ永年賦ニ割替ヘ一割利引計算法ヲ設ケテ一時ニ還納セシメ或ハ全ク之ヲ棄捐シ二十三年三月三十一日ニ於テ全ク其處分ヲ結了セリ
勸業資金及勸業委託金ノ支出額竝ニ年度區分ヲ明瞭ニスル爲メ左ニ支出計算表ヲ掲ク

勸業資本金勸業委託金支出計算表

種 類	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年	通 計
勸業資本金	三二六、六三三、七九八	四六五、九〇四、二〇〇	六〇九、三三二、六四三	二七〇、一九九、五八一	二四二、九六四、七〇三	三三八、三八一、二〇六	三〇五、八八一、三〇〇	六二五、六一二、〇七九	三、〇七五、〇九三、四六四
甲 部	一八五、六二〇、〇〇〇	二六六、四四四、〇〇〇	一三三、八六九、六〇〇	一五、四七三、三〇〇	二七、五二九、〇〇〇	五二、六二二、〇〇〇	一一、六九四、〇〇〇	一一、五〇二、八六三	六七六、三七一、九三二
乙 部	七、〇〇〇、七九八	一四、二七〇、七二〇	三三、六一二、四三三	二二、九〇三、六四八	二五、四三三、五七三	一八、三九五、九二六	二八、九一八、七三〇	五〇、五八三、四六六	一九七、七九三、六五三
丙 部	五〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、六六五、五九九	一四、一三三、三六一	一五、八八九、七五〇	〇	〇	〇	〇	三二、三八七、五〇〇
準 備 部	一〇、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	一九、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	一〇、六九一、〇〇〇
勸業委託金	二九、六九〇、〇〇〇	九、一七九、一五〇	五三、一四八、七四八	五、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	六、八四〇、七〇〇	二〇、六四七、五九八

備考

一 勸業資本金乙部ノ中ニ於テ金五萬五千九百八十九圓九十九錢九厘ハ之ヲ猪苗代湖疏水成業後新工費ニ流
水工費ニ流用支辨セリ故ニ士族授産ニ供セシ該資本金ノ實額ハ三百一萬九千三百三圓
四十六錢五厘ナリ

一 勸業委託金ノ中ニ於テ金五萬四千七百二十四ハ之ヲ猪苗代湖疏水成業後新工費ニ流
用支辨セリ故ニ士族授産ニ供セシ該委託金ノ實額ハ十五萬千七百五十八圓五十九錢
八厘ナリ

第五款 北海道廳府縣勸業委託金

明治五年十月第三百一號太政官布告ヲ以テ今般定石代安石代等改正ニ付テハ出格ノ僉議ヲ以テ
此度限リ舊格收入高ト右改正増加高トノ間金ノ内凡二割ヲ用途トシ勸業授産ノ要費ニ充テ人民

獎勵ノ道相盡シ候様可致候條右石代有之府縣ハ其地方廳ニ於テ篤ト勘量ノ上方法詳細ニ取調大
藏省ヘ可伺出云云ト令シ次テ同月第五百五十八號及六年十月第四百九十九號大藏省達ヲ以テ府縣貯
蓄ノ金穀ヲ取調ヘ上納セシムルコト、セリ而シテ各府縣ヨリ追追伺出ニ對シ勸業其他士族授産
等ノ資本トシテ各廳ヘ委託セラレタルモ其收支取扱ハ各廳限リ之ヲ爲シ而シテ其事業ノ景況ヲ
年年十二月限リ報告セシメタリ

後報告及精算ノ手續ニ付テ種々規定スル所アリシカ明治二十二年六月ニ至リ委託金ヲ以テ新タ
ニ貸付等ヲナスコトヲ停止シ而シテ從來貸付及預ケ金中無抵當又ハ抵當不充分ニシテ將來完納
ノ目途ナキモノハ五十箇年以内又不得止分ニ限リ八十箇年マテノ一割利引計算ヲ以テ此際一時
ニ上納セシムルノ見込ニテ其旨負債主ニ勸告シ詳細取調處分方伺出ツヘク若シ前顯勸告ヲ爲ス
ト雖モ無資産ニシテ到底徵收ノ目途ナキモノハ此際相當處分ノ見込ヲ立テ財產ノ有無生計ノ實
況等取調町村長又ハ戶長ノ證明書等ヲ添付シ處分方伺出ツヘキ旨内務大藏農商務三大臣連署ヲ
以テ委託金アル府縣知事ヘ内訓アリ是ニ於テ各府縣ヨリ該貸付金等徵收ノ目途ナキモノ年賦利
引一時上納或ハ棄捐處分方等見込ヲ具シ伺出ニヨリ夫々處分ヲ爲シタリ

明治二十三年三月勸令第六十六號ヲ以テ府縣勸業委託金ハ二十三年三月三十一日ノ現在高ヲ以
テ地方稅經濟ニ下付セラレタルニヨリ遂ニ該金ヲ終局ヲ告クルニ至レリ

第六款 下ノ關償金返還部

下ノ關償金返還部トハ下ノ關事件ニ對スル賠償金トシテ我國ヨリ米國ヘ仕拂ヒタル金額ノ内米

貨七十八萬五千弗八十七仙ヲ米國ヨリ好意ヲ以テ返還シ來リタルヲ以テ右整理ノ爲メニ設ケラレタルモノニシテ其返還元金ヲ銀貨ニ兌換シタルモノ金八十八萬四千五百八圓二錢之ヲ金札引換公債證書ニ交換スル爲メ紙幣ト交換シタル差増金十一萬八千三百四十二圓五錢二厘公債證書ノ利子トシテ收入シタルモノ金三十八萬五千三百二十八圓五十八錢五厘公債證書賣却差益トシテ收入シタルモノ金五千六百四十八圓三十一錢四厘合計金百三十九萬三千八百二十六圓九十七錢一厘アリ内公債證書當籤差損トシテ金五百十三圓六十五錢公債證書賣却差損トシテ金四千九百九十八圓五十四錢ヲ支出シ收支差引金百三十八萬九千四百四十七圓七十八錢一厘ノ剩餘金ヲ生シタルヲ以テ右ハ橫濱築港費ヘ充用ノ爲メ二十二二十三ノ兩年度ニ於テ一般ノ歳入ニ繰入レ以テ其處分ヲ完結セリ

第七款 朝鮮政府補填金

明治十七年十月朝鮮國京城事變後京城條約ニ據リ朝鮮政府ヨリ十箇年間ニ完納スヘキ補填金五十萬圓ノ内明治十六十七兩年ノ十萬圓ハ之ヲ收納シ明治十八年ヨリ向フ八箇年間ニ收納スヘキ四十萬圓ハ該國情ヲ酌量シ扶助ノ目的ヲ以テ還付スルコトニ廟議決定シ同月十六日太政官ハ大藏省ニ令達スルニ十六十七兩年ニ於テ朝鮮政府ヨリ受入ルヘキ補填金十萬圓ハ六朱利付金札引換公債證書ニ交換貯藏シ該公債證書ヨリ生スル利子金モ同種ノ公債證書ニ交換シ利殖ヲ計ル可キ旨ヲ以テシ大藏省ニ於テハ之ヲ國庫中別途金トシテ處理シ其收納シタル金額ハ其都度準備金ノ紙幣ト交換シ之ヲ日本銀行ヘ交付シ金札引換公債證書ニ換ヘ貯藏利殖シツ、アリシモ該公債

償還ノ期ニ至リ更ニ之ヲ整理公債ニ換ヘ保管セリ而シテ其利益金三萬八千五百七十七圓五十五錢四厘ハ二十三年三月三十一日ニ於テ別途部ヨリ拂出シ二十二年度臨時歳入トシテ一般會計ヘ繰入レタリ

今其收支計算ヲ示セハ左ノ如シ

一金十萬圓

補填金收納高

内譯

金四萬九千百圓

十六年分五萬圓ノ内金トシテ外務省ヲ經テ十七年二月二十九日納入

但洋銀

金二萬五千圓

十七年分五萬圓ノ内金トシテ外務省ヲ經テ十七年八月二十日納入

但一圓銀

金九百圓

十六年分五萬圓ノ内外務省ヲ經テ十七年十二月二日納入

但洋銀

金二萬五千圓

十七年分五萬圓ノ内第一國立銀行爲換券一葉ヲ以テ外務省ヲ經テ十八年五月五日納入

但洋銀

一金四百四十四圓六十九錢

補填金ノ内ヨリ支出セシ高

内譯

金七圓十九錢

缺損拂ニ立テシ高

但十六年分トシテ收納セシ洋銀五萬弗ノ領收順序ハ朝鮮政府ヨリ在仁川領事館ヘ渡シ

同館ニ於テ仁川港ノ我貿易商人ニ託シ鑑定セシモノナルヲ以テ大藏省ニ於テ尙精密鑑定スルニ俗ニ音止リト唱ヘ通用シ難キモノ九百弗アリテ内三百弗ハ再鑑定ノ上通用ス可キモノトナリタルモ殘六百弗ハ地金ト見做シ之ヲ準備金ヘ賣却シ代リ銀貨五百九十ニ圓八十一錢トナリシモ差引本行ノ如ク缺損ヲ生シタルヲ以テ十八年二月五日之ヲ補填金ノ缺損拂ト爲スコトヲ舊太政官ヘ稟議シ同年同月十四日允裁ヲ得タリ

金四百三十七圓五十錢 爲替手數料

銀貨

但補填金ハ本邦軍艦回航ノ序ヲ以テ現貨ヲ運送シタリシニ最終ニ彼政府ヨリ拂入タル二萬五千圓ノ分ハ彼政府ノ都合ニ依リ馬蹄銀ヲ以テ墨銀ニ引換ノコトヲ仁川我領事館ニ依頼アリテ爲メニ同港出張ノ第一國立銀行ニ談シ本邦銀貨ニ交換シ同行爲換券ヲ以テ回送ノ末外務省ノ請求ニ應シ支出ノ分

差引

金九萬九千五百五十五圓三十一錢
 此代リ紙幣十萬四千二百四十九圓七十八錢七厘
 金三萬四千七百三十四圓五十一錢
 金十八圓四十三錢七厘
 金三圓九十三錢
 合計金十三萬九千六圓六十五錢四厘

公債證書利子
 公債證書利子ノ内銀貨收入ノ分紙幣ト交換ノ差額
 公債證書賣却ノ益

金四百二十九圓十錢

公債證書當籤損

差引

金十三萬八千五百七十七圓五十錢四厘

內

金十萬圓 朝鮮政府補填金部原額

金三萬八千五百七十七圓五十五錢四厘 全ク利益金

但二十三年度已降新會計法實施ニ依リ二十三年三月三十一日ニ於テ別途部ヨリ拂出シ二十二年臨時歲入トシテ一般會計ヘ繰入ノ分

第八款 官業資本金

現行會計法發布以前ニ於テ政府ノ別途會計トシテ主要ノ地位ヲ占メタルモノハ官業ニ關スル會計ニシテ當時經營セラレタル官業ハ實ニ左ノ如シ

- 一 造幣局營業資本
- 一 佐渡鑛山局
- 一 生野鑛山局
- 一 東京砲兵工廠
- 一 橫須賀造船所
- 一 火藥製造所
- 一 造幣局貨幣鑄造資本
- 一 三池鑛山局
- 一 文部省編書費資本
- 一 大阪砲兵工廠
- 一 唐津石炭用所
- 一 小野濱造船所

- 一 富岡製絲所
 - 一 新町紡績所
 - 一 電信局貯藏物品資本
 - 一 外國郵便爲替資本
 - 一 司法省編書資本
 - 一 幌內鑛山
 - 一 鐵道資本
 - 一 阿片製造資本
 - 一 千住製絨所
 - 一 燈臺局貯藏物品資本
 - 一 內國郵便爲替資本
 - 一 廣島縣鑛山
 - 一 紋籠製糖所附屬酒精製造所
 - 一 北海道廳鐵道資本
 - 一 橫濱水道工費
- 右ノ内現行會計法發布ニ依リ明治二十三年度以降特別會計ニ立テラレタルモノヲ舉クレハ即チ左ノ如シ
- 一 造幣局貨幣鑄造資本
 - 一 明治二十三年四月一日ニ於テ造幣營業資本ヘ合セテ造幣局据置運轉資本ニ組入レタリ
 - 一 火藥製造所營業資本及營業費
 - 一 明治二十三年度以降東京砲兵工廠作業費ヘ引繼組入レタリ
 - 一 橫須賀造船所及小野濱造船所
 - 一 造幣局及印刷局
 - 一 鐵道收益勘定
 - 一 東京砲兵工廠

- 一 大阪砲兵工廠
- 一 千住製絨所
- 一 富岡製絲所
- 一 廣島縣鑛山
- 一 郵便電信貯藏物品資本
- 一 火藥製造所

此等ノ資金ニシテ國庫ニ於テ管守セシ金額ノ内二十三年三月三十一日迄ニ各應ニ於テ仕拂切符ヲ發シ金庫ニ於テ支拂未済ノ金額ハ二十三年法律第十一號第十條

明治二十二年度ノ經費ニシテ明治二十三年一月一日以後ニ仕拂切符ヲ發シ同年三月三十一日マテニ現金ノ仕拂ヲ了ラサルモノハ會計規則第四十七條ニ準據シ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シ明治二十三年四月一日以後滿五箇年間ハ仕拂切符所有者ノ請求ニ應シ金庫ニ於テ仕拂フヘシトアル規定ニ據リテ整理シ其後明治二十三年三月作業會計法及鎮守府造船材料資金會計法等ノ制定發布アリシニ依リ此等ノ法律ニ據リテ收支ヲ執行スルコトナレリ

以上ノモノヲ除ク外ハ特別會計ヲ立テサルモノニシテ會計法實施ト共ニ一般會計ノ收支ニ歸シ夫々處分ヲ完了セリ

第九款 各種別途金

以上ノ外別途會計トシテ雜種金ノ名目ノ下ニ處理セラタルモノ次ノ如シ

一 皇城建築費獻金

皇城建築費獻金ハ從來各年度ノ常用部歳入へ組入レシモ明治十六年十二月太政官ノ裁定ヲ經テ別途ノ會計トナシ國庫中別金櫃ヲ設ケ其收支ヲ執行セシモノニシテ明治十五年度ニ始マリ同二十一年度ニ終了セリ

二 神社補充金

明治十九年十一月從來ノ神社費ヲ改正シ神社費中神社補充費ヲ設ケ神宮竝ニ官國幣社營繕費及遷宮費國幣社増加ノ幣帛料ニ充用スルモノトシ別途ノ會計トナシ國庫中別金櫃ヲ設ケ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治二十年度ニ始マリ同二十二年度ニ終了セリ

三 森林資金

森林資金ハ森林收入ヲ以テ森林費ニ充用スルモノトシ別途ノ會計ト爲シ國庫中別金櫃ヲ設ケ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治二十年度ニ始マリ同二十二年度ニ終了セリ

四 生野嶺山特別興業費

生野嶺山特別興業費ハ準備金ヨリ繰替支出シ特別興業費ニ充用スルモノトシ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治二十一年度ヨリ同二十三年度迄三箇年間ノ豫算ナリシニ明治二十二年四月帝室御料へ編入シ宮内省へ引繼キタルヲ以テ明治二十一年度一箇年間ノ收支ニ止マレリ

五 陸軍省所管馬匹拂下代及飼養料

陸軍省所管馬匹拂下代及飼養料ハ明治十七年太政官第六十五號達乘馬飼養令ニ據リ收入シタル

金額ヲ以テ貸與及拂下馬匹費ニ充用スルモノトシ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治十九年度ニ始リ同二十二年度ニ終了セリ

六 陸軍省所管火藥類拂下代

陸軍省所管火藥類拂下代ハ明治十七年第三十一號布告火藥取締規則ニ據リ收入シタル金額ヲ以テ火藥類製造費ニ充用スルモノトシ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治十九年度ニ始リ同二十二年度ニ終了セリ

七 陸軍省所管地圖拂下代

陸軍省所管地圖拂下代ハ參謀本部陸軍部測量局出版ノ地圖印刷費ニ充用スルモノトシ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治二十年度ニ始リ同二十二年度ニ終了セリ

八 司法省所管回收編書費

司法省ニ於テ刊行セシ書籍賣收金ヲ一旦國庫ニ納入シ更ニ編書資本トシテ交付シ該金額ヲ回收編書費ノ原資トシテ別途ノ經濟トナシ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行セルモノニシテ明治十八年度ニ始リ同二十二年度ニ終了セリ

九 文部省所管回收編書費

回收編書費ハ書籍發賣代及國庫ヨリ別途編書費トシテ交付ノ金額ヲ以テ編書ノ諸費ニ充用スルモノトシ別途ノ經濟トナシ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行セルモノニシテ明治十七年度ニ始マリ同十八年度ニ終了セリ

編書資本ハ明治十八年度迄編書費トシテ別途ノ經濟トナシ來リタルモノヲ改メテ編書資本トナシタルモノニシテ前年度ヨリ繰越シタル編書費殘額ト國庫ヨリ漸次交付スル資本トヲ併セ之ヲ運轉回收シテ以テ編書費ニ充用セルモノニシテ現金ハ國庫ニ於テ管守シ其收支ヲ執行シ十九年度ニ始マリ二十二年度ニ終レリ

十 文部直轄學校收入支出

文部省直轄學校收入支出ハ明治二十一年勅令第十九號直轄學校收入金規則第一條第二條ニ依リ收支スル所ノ金額ヲ以テ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ明治二十二年一箇年間其收支ヲ執行シタルモノナリ

十一 文部省直轄學校特別收入支出

文部省直轄學校特別收入支出ハ明治二十一年勅令第十九號直轄學校收入金規則第三條ニ依リ收支スル所ノ金額ヲ以テ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ明治二十二年一箇年間其收支ヲ執行シタルモノナリ

十二 文部省所管高等中學校創立費

文部省所管高等中學校創立費ハ明治十九年勅令第十五號中學校令ニ基キ國庫金地方稅及寄付金ヲ以テ之ニ充用スルモノトシ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治二十二年一箇年間ニ始リ同二十二年一箇年間ニ終了セリ

十三 文部省所管高等中學校經費

文部省所管高等中學校經費ハ明治十九年勅令第十五號中學校令及同二十年勅令第四十號高等中

學校經費支辨ノ件ニ基キ國庫金ト地方稅トヲ以テ之ニ充用スルモノトシ別途ノ會計ト爲シ現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ明治二十一年一箇年間其收支ヲ執行シタルモノナリ

十四 逓信省所管電信燈臺貯藏物品資本

逓信省所管電信燈臺貯藏物品資本ハ從前ノ電信局營業資本及燈臺局倉庫資本ヲ貯藏物品資本ト改稱シ各別途ノ會計トセシモ彼是運換ノ便宜ヲ缺クヲ以テ明治二十一年度以後兩資本ヲ合セテ電信燈臺貯藏物品資本ト改稱シ資本額ハ年々据置キ年度末ニ至リ差益ヲ生スルトキハ之ヲ國庫ヘ納入シ又現金ハ國庫ニ於テ之ヲ管守シ其收支ヲ執行シタルモノニシテ明治十九年度ニ始マリ同二十二年一箇年間ニ終了セリ

第十款 別途會計ニ關スル法規

現行會計法發布以前ニ於テ別途會計トシテ收支ヲナシタル種目ハ前數款ニ述フル所ノ如シ而シテ此等ハ主トシテ時々ノ必要ニ應ジ伺指令等ノ手續ニヨリテ整理シタリト雖モ又特ニ之カ爲メニ法規ヲ制定シタルモノナキニアラス即チ起業基金電信燈臺貯藏物品資本森林資金作業費及學校收入金ニ關スルモノニシテ左ニ之ヲ掲ク其他鐵道ニ付テハ明治十八年五月舊工部大藏兩卿ヨリ舊太政官ニ稟伺シテ定メタル鐵道會計條例アリ勸業資本金ニ關シテハ十五年六月二十二日太政官ヨリ大藏省ヘ達ノ勸業資本金取扱方法内規ニ基キ十六年十二月二十二日太政官ノ裁定ヲ經タル士族勸業資本金取扱順序及ヒ十七年八月太政官ノ裁定ヲ經タル勸業資本金取扱順序等アリト雖モ今姑ク之ヲ略ス而シテ此等各種ノ別途會計ニ關スル規程ハ各別途會計ノ收支ノ終了ニヨ

リ又ハ明治二十三年以降各種特別會計法ノ制定ニ伴ヒテ自ラ廢止消滅ニ歸セリ

第一項 作業費

明治九年九月六日各廳作業費區分及受拂例則ヲ定メ本年七月以後始メテ各廳一般ノ經費中作業ニ屬スルモノヲ區分シテ作業費トナシ通常ノ經費ト混同セサルコトヲ要スルモノトス而シテ作業費トハ造幣紙幣造船鑛山鐵道電信其他諸製作等一般作業ニ屬スルモノニシテ作業費ヲ更ニ細別シテ興業費及營業費トナス興業費トハ器械ノ購入裝置及家屋建築等總テ創業ニ屬スル諸費ヲ指シ營業費トハ開業以後平常ノ事業ニ屬スル費途ヲ云フ

明治十年七月六日更ニ作業費出納條例ヲ定メ十年度以降之ヲ施行セシム其規程タルヤ凡ソ作業ニ屬スル支費ハ一切作業費ト稱シ開業ニ際シ其資本金額ヲ定メ營業百般ノ事ヲ辨理シ而シテ其收入ヲ以テ資本ニ償還シ其剩餘額ヲ益金トシ嚮ニ消費セシ所ノ金額ヲ漸次償却スルモノトス明治十二年五月開拓使達第五號ヲ以テ開拓使作業費出納條例ヲ定メ同十二年度ヨリ之ヲ施行セリ而シテ同條例施行ニ關スル太政官ヘノ上申ニ云ク當使定額内ヲ以テ毎歲實施スル百般ノ事業中諸試驗場諸製造所或ハ運送船舶ノ類ニ係ル費途ニシテ營業上其損益ヲ看ルヘキモノ數項有之候處從前多クハ試驗施設ニ係リ其得失ヲ計較ス可ラサル者ニ候故費途ハ拂切收入ハ一旦大藏省ヘ相納更ニ定額常費トシテ同省ヨリ受取來候處各事業上漸次繁盛ノ運ニ至リ隨テ其利益ヲ期スヘキモノナキニアラス依テ去ル十年七月六日內務外三省ヘ御達作業費條例ニ準據シ當使定額内ヲ以テ該費ヲ區分シ其出納條例ヲ設ク云云ト

右ノ條例ハ實施ニ臨ミ困難ナル事情アリシト條文ノ不備ナルヨリシテ往往支障ヲ生シタルヲ以テ更ニ其ノ實施上支障アル點ヲ更訂セラレンコトヲ大藏卿ヨリ太政官ニ稟議シタリ今其要旨ヲ採録シテ參考ニ資スヘシ

一條例第三條興業、營業兩費ノ區域ハ全ク開業前後ヲ以テ之ヲ分テ而シテ開業後ニ係ルモノハ其最前目途内ニ在ルモノヲ除ク外皆營業費中ヘ併算スヘキ筈ニ有之蓋シ興業ノ兩費タル交互連帶シ之ヲ明別スル甚タ難キヲ以テ其最モ分テ易キ單簡ナルモノヲ取リ斯ク定メラレタル儀ト存候然ルニ諸作業中起頭開業ノ際ニ於テハ未タ以テ盛大ニ至ラサルモ漸次事業ノ景況ニ據リ之ヲ擴張セシ爲メ或ハ諸建物ヲ増築シ或ハ器械ノ不足ヲ補充スル等多費ヲ要スルモノ鮮シトセス而シテ今其性質ニ就テ之ヲ見ルトキハ敢テ開業以前ノ興業費ト異ナル所ナシ但シ是等ノ爲メ多費ヲ要シ其收得金ヲ以テ之ヲ償還シ得サルトキハ第四條第三節ニ照シ之カ補填ヲ交付シ實際取テ支障ナシト雖モ其興業ニ屬スヘキモノニシテ之ヲ營業ヘ編入シ爲メニ資本ノ定額補填ヲ要スルトキハ損益共ニ適切ノ計較ヲ見ルノ便ヲ失ヒ隨テ其精理上ニ於テモ亦幾分ノ障礙ヲ免レス依テ嗣後ハ開業後ト雖モ其事業擴張ノ爲メ諸建物ヲ増築シ或ハ器械ノ不足ヲ補充スル等ニ係ル費用ハ其時々裁可ヲ經テ之ヲ興業費ヘ編入候様致シ度一第一號雛形諸作業損益比較報告書中營業資本金編算無之然ルニ今其損益ヲ計較セントスルトキハ之ヲ運換支用スル所ノ資本ヲモ併セテ之ヲ算入セサルヘカラス又物品ノ製作濟及製作中未收入高ハ獨リ此報告ニ於テノミ加算シ他ノ收入精算帳等ニ至テハ之ヲ計入セサル筈ニ有之全體該物品代價ノ儀ハ未タ收入ノ場合ニ至ラサルモノナレハ之ヲ其收入ノ部ヘ併セ

而シテ實際收入セシトキ復之ヲ合スルトキハ自ラ重複ノ計算ニ涉ルヲ免レス要之右等物品ノ如キハ甲年ノ製作中ハ乙年ノ收入乙年ノ未製ハ丙年ノ既製トナリ甲乙相償ヒ結局均等ノ計算ヲ得敢テ甚タシキ差異無之モノト推考セラレ候就テハ前述物品ハ其濟否ノ分トモ全ク之ヲ除キ更ニ資本金ヲ併算シ尙其他書式等夫夫更訂相成度積リ取調申候

一 營業資本缺額補填金ノ儀其償却法等ニ至リテハ興業費ト同一ナルヲ以テ第二號雜形興業債却高報告中へ添加ノ上第三號雜形ハ被相廢度又其補填金ノ儀諸拂勘定帳ヲ製セサレハ精理上不便鮮ナカラサルニ付更ニ増補相成候様致度存候

一 作業收入精算勘定帳仕拂高ノ内益金ト不用物拂代ト區分シテ二項トナシ其合計無之決算證金員記載上支障不尠ニ付是亦更訂相成度候

此ニ於テ明治十二年十月十六日太政官達ヲ以テ内務大藏陸軍海軍工部ノ各省及開拓使ニ令シテ同條例中第三條及第四條第六條ノ中ヲ改正シ十二年度ヨリ施行セシム從テ右省使作業條例中興業費營業費ノ分界改正セラレ興業費ハ全ク開業前ニ係ル費途即チ工場其他付屬屋舎ノ營造及器械購入等ノ費用並開業後事業擴張ノ爲メ諸建造物ヲ増築シ或ハ器械ヲ購入スル支費ヲ概括シ營業費ハ開業後ニ係ル營業必需諸物品ノ購入官吏ノ俸給諸職工ノ雇錢及諸器械ノ修繕並ニ不足補充毀損新調其他工場並ニ付屬舎ノ營繕等本業ニ屬スル諸般ノ費途ヲ類集スルモノトセラレタリ

第一 各省作業費

一 作業費區分及受拂例則

太政官達明治九年九月六日

內務省	海軍省	工部省	各省
通	軍省	部	省

本年七月以降各廳一般ノ經費中作業ニ屬スル費途ヲ區分シ別冊ノ通程規改正候條此旨相達候事(別冊ハ下ノ大藏省ヘノ達ニ同シ)

但本文ノ通改正候ニ付テハ右ニ基キ本年豫算内譯簿再調ノ上金員區分可相達管ノ處季節既ニ經過候ニ付本年經費決定高ノ内ヲ以テ右費途區分ノ儀大藏省へ協議可致尤營業費ハ數回運換候上ハ費額減省可致管ニ付詳細取調大藏省へ可申出事

本年七月以降各廳一般ノ經費中作業ニ屬スル費途ヲ區分シ別冊ノ通程規改正候條此旨相達候事

(別冊)

各廳作業費區分及受拂例則

第一條

一 各廳經費中作業ニ屬スル費途ヲ概別シ其受拂ノ順序等ヲ確定シ次條以下ニ掲ク

第二條

一 作業費

造幣紙幣造船礦山鐵道電信其他諸製作等一般作業ニ屬スルモノハ渾テ該費ニ編入支辨シ
通常ノ經費ト混同セサルヲ要ス

該費ヲ二途ニ區分スル左ノ如シ

興業費

該費ハ則チ創始ニ付器械等ノ購入或ハ据付家屋建築等其他總テ創起ニ屬スル費途ヲ類集
ス

營業費

該費ハ則開業以後ノ費用ニシテ平常ノ事業ニ屬スル諸費ヲ類集ス

第三條

一各廳掌管ノ諸作業該費ヲ以テ辨給シ而シテ收支運用スヘキ概目左ノ如シ

內務省

富岡製絲場 各所牧畜場 堺製絲場 府絲紡績場上州新町

大藏省

造幣寮 但諸製造局ノ諸費ヲ類集ス本寮ニ
但屬スルモノハ第四條ノ例ニ從フ

海軍省

橫須賀製作場 唐津兵庫出張所 鹿兒嶋製造所

工部省

礦山寮各所支廳

鐵道 佐渡 生野 小阪 大葛 釜石 三池 秋田

大阪間 京都間 東京間

神戶間 大阪間 橫濱間

各所電信局

各所製造所

赤羽製作所 深川セメント製造所 兵庫製作所 長崎製作所 品川硝子製造所

第四條

一凡ソ作業場專務ノ官員月給ヲ始メ外國人雇給其他該所ニ屬スル經費ハ悉皆作業費中ニ編入
スヘシ尤之ヲ管理スル其本廳內務省ノ勸業寮工部省ノ鐵道寮等ヲ指スノ經費ハ從前ノ通通常經費中ヲ以テ支
辨スルコトハス

第五條

一本廳需用ノ物品ヲ其所屬ノ製作所等ヘ注文シテ製作ヲ爲サシムルトキ其代價ハ總テ本廳通
常經費中ヲ以テ仕拂ヒ製作所等ニ於テハ人民一般ノ注文ニ異ナルコトナク之カ代價ヲ領收
シ毎月收入ノ部分ニ編入スヘシ假令ハ從前海軍省所屬船新造或ハ修繕費ノ如キ主船寮所
管橫須賀造船所ノ經費中拂切ニセシヲ改テ海軍省中本省ノ
經費ニ屬セ
シムルノ類

第六條

一作業費トシテ交付セシ原額ノ內興業費ハ拂切ノ例ニ據リ精算シ漸次貸檢ヲ經テ濟備スルニ
隨ヒ益金ノ幾分ヲ以テ興業
モノ費用ヲ償却スル等ノ方法ヲ設立スヘシト雖營業費ハ毎月收支ノ實況ヲ大藏省ニ報告シ歲
ノ順序創設ノ際ナレハ姑ク各廳ノ便宜ニ任ス

尾會計年度ニ至リ一旦該額ハ悉皆納付ナサシメ翌年ニ於テ更ニ交付スルヲ則トス此場合ニ於テ若シ最前大藏省ヨリ受領シタル原額ニ不足ヲ生スルコトアレハ之ヲ該額中ノ拂ニ立ツルコト、ス從前物品買上代其他一切ノ經費ハ拂切收入ハ大藏省へ納付シ月別勘定仕上タルヲ改テ本條ノ如クス

但本條納付ニ臨ミ貯蓄セル處ノ物品ハ購入セシ時時ノ原價ヲ付シ既ニ製作シタル物品ノ現存シテ翌年へ越スヘキモノハ製作ニ支用セシ諸品ノ原價ト其製作ニ付テ費ス所ノ金員トヲ併セ之レニ幾分カノ益ヲ加算シ該製作物ノ價格トシ尙時價ヲ參酌シテ見積タル代價ヲ付シ總テ現金ト看做シ又翌年度支出ニ屬スルモノヲ本年度ニ於テ假ニ拂出セシ分モ同様現在スルモノト看做シ金員事由ヲ詳記シテ納受スルコト、ス

第七條

一營業收入金ハ毎月納付ニ及ハス幾回モ運換支用スルヲ許ス尤歲尾ニ至リ營業ノ消費ト收入トヲ計較シ殘餘ノ益金ハ稅外收入へ編入シテ之ヲ大藏省へ納付スルコト、ス假令該年營業費ノ内支出ノ額六萬圓其收入金七萬圓ナルトキ差引一萬圓ノ贏餘ハ即チ益金トス若シ之レニ反シテ消費金七萬圓收入金六萬圓ナルトキ差引一萬圓ノ損金ハ第六條ノ例ニ準ス從前收入金毎月大藏省へ上納切ヲ以テ勘定仕上ノ成規ヲ改メ如本條

第八條

一營業費中ヲ以テ購入セシ物品ノ内工作等ニ不適當ナルヲ以テ賣却シ爲メニ收入セシ代金ハ總テ第七條ノ例ニ準スヘシ

第九條

一凡ソ作業需用ノ物品ハ購買セシ時時ノ原價ヲ付スルヲ例トス故ニ工場等へ現實物品ヲ以テ受拂ヲ爲スモ簿記上ニ於テハ必ス其原價即チ物品金若干ヲ以テスヘシ若海外或ハ遠隔ノ地へ注文シ物品ハ已ニ到着シテ支用スルト雖モ代價未タ精算ニ至ラサルヲ以テ確定ノ原價ヲ得ル能ハサル等ノ類ハ姑ク最前注文ノ節概略見込ノ代價或ハ其時價ヲ以テ計出シ其事由ヲ摘記スヘシ

但最前凡積ヲ以代價ヲ計出セシ高假令ハ某品千斤此代價一萬圓十斤ニ實際仕拂ノ高七百斤此代價七千圓ト計出シ既ニ其製造セシモノ、總額へ加算シテ徵收シ爾後確定ノ代價六千三百圓九十斤ニ付差引七百圓ノ差違ヲ生スルモノ、類ハ之ヲ益金ト見做シ又差引不足スルモノハ之ヲ損金トシ作業費中ヨリ仕拂ニ立ツヘキコト、ス

第十條

一凡ソ作業ニ屬スル要需ノ品類ヲ購入シ之ヲ倉庫等へ貯蓄シ漸次其需メニ應シ交付スルモノハ其事業ニ支用セシ時ヲ以テ本拂ニ立ツヘキモノトス

第十一條

一作業費ハ通常ノ經費ト仕拂ノ規程ヲ異ニスルヲ以テ勘定仕上等ハ判然之レヲ分チ別冊甲乙丙號書式ニ照準精調シ成規ノ期限ニ違ハス大藏省へ送致スヘシ通算表明細表ハ八年八月第一號達ノ體裁ニ依リ

第十二條

一損益ノ比較出納ノ順序其他簿記計表等別冊書式ノ外ハ姑ク各應ノ便宜ニ任ス(別冊略ス)

二 作業費出納條例

太政官達明治十年七月六日

各省 內務省 大藏省
海軍省 工部省

作業費區分ノ儀ニ付明治九年九月中相達候趣モ有之候處右條例更ニ別紙ノ通相定候條明治十年度以降右ニ照準施行可致此旨相達候事

但營業資本ヲ交付候ニ付テハ本年一月十日相達候十年度經費額ノ内右ニ屬スル金員減額ノ儀モ豫算一同可申出事

(別紙)

作業費出納條例

第一條 作業費用概旨ノ事

凡ソ作業ニ屬スル費途ハ一切之レヲ作業費ト稱シ開業ニ際シ其資本金額ヲ定メ以テ營業上一般ノ事款ヲ辨理シ而シテ該業ノ收入ヲ以テ資本ヘ償還シ剩ル金額ヲ益金トシ以テ嚮ニ消費スル處ノ金額ヲ漸次償却スヘキモノトス其出納順序等ノ如キハ次條以下ニ掲ク

第二條 作業費區分ノ事

諸作業ニ屬スル費項一切該部ニ彙集シ豫算精算トモ通常經費ト判然之レヲ區分スヘキモノトス

第一節

該部ニ編入スヘキ概目左ノ如シ

內務省

富岡製絲場 堺製絲場 新町屑絲紡績場 第一綿絲紡績場 第二綿絲紡績場 羅紗織場 築地製茶場 各所牧畜場

大藏省

造幣局 紙幣局

海軍省

橫須賀製造所 唐津出張所 鹿兒嶋製造場

工部省

鑛山 佐渡 生野 小坂 大葛 釜石 三池 秋田

鐵道

東京間 大阪間 京都間 京都間 橫濱間 神戸間 大津間

各所電信

第二節

赤羽製作所 深川セメント製造所 兵庫製作所 長崎製作所 品川硝子製造所
作業上一般ノ手續ハ官廳ノ需要ト内外人民ノ依頼トヲ問ハス渾テ之ヲ同視シ異別ナク處辨

スヘキモノトス

第三節

凡ソ作業事務ノ官員俸給ヲ始メ外國人傭給其他該所ニ屬スル經費ハ悉皆作業費中ヘ編入スルハ第三條ノ如シト雖モ之レヲ管理スル其本廳ノ内務省ノ勸業局工部省ノ經費ハ通常經費中ヲ以テ支辨スヘキモノトス

第三條 興業費營業費區分ノ事

作業上ノ費項開業前後ヲ以テ一旦之レヲ區分ス其分界ヲ立ル第一節以下ニ掲クル如シ

第一節

興業費

該費ハ全ク開業前ニ係ル費項ニシテ即チ工場ヲ始メ一切附屬ノ諸營築或ハ器械ノ購入等渾テ開業以前創始ニ係ル費途金額受拂ノ制限ハ第五條ニ掲クル如シヲ類集ス

開業ノ期ニ於テ事業未タ竣成ニ至ラスト雖モ豫テ最前ノ日途内ニアルモノハ興業費ヘ編入スヘキモノトス

但シ製作物必要ノ品類盤船製造ニ要スル羊毛織物或ハ編入スヘシ要スル羊毛織物等ヲ指スハ開業以前ニ購入スルモ營業費ヘ

第二節

營業費

該費ハ開業後ニ係ル費項ニシテ即チ營業上必需ノ諸物品ヲ始メ工場其他一切附屬ノ諸營

繕諸器械購入及修繕等其他渾テ開業後ノ費途金額受拂ノ制限ハ第六條ニ掲クル如シヲ類集ス諸建物不足ナ

中ニ之ヲ増築シ或ハ器械ノ缺乏等ヲ補足スルハ第四條第三節ニシテ爲メニ資本

第三條 興業費區分ノ事明治十二年十月十六日

第一節

興業費

該費ハ全ク開業前ニ係ル費項即チ工場其他附屬合ノ諸築及器械購入等ノ費途並開業後事業擴張ノ爲メ諸建物ヲ増築シ或ハ器械購入ノ費用ヲ類集ス金額受拂ノ制限ハ第五條ニ掲クル如シ

但云云

第二節

營業費

該費ハ開業後ニ係ル營業必需諸物品ノ購入官吏俸給諸職工傭給及諸器械ノ修繕並不足補充毀損新調其他工場並附屬合ノ營繕等本業ニ屬スル諸般ノ費途金額受拂ノ制限ハ第六條ニ掲クル如シ

第三節

作業費項ノ類集ハ左ニ列記スル概目ニ從ヒ編成スヘシ俸給ノ大科日トス小科日ハ通常經費準之ニ